

医歯学総合研究科
修士課程
医歯理工学専攻
履修要項

平成 27 年 度

東京医科歯科大学大学院

目 次

1. 医歯学総合研究科修士課程医歯理工学専攻の概要	1
2. 修了要件及び履修方法	5
3. 平成27年度修士課程医歯理工学専攻授業時間割	11
4. 授業科目の講義内容	
○修士課程医歯理工学専攻講義（4月入学者用）	
（1）医歯学総合概論：3001	16
（2）初期研究研修：3002, 3102	18
（3）医歯理工学先端研究特論：3003	20
（4）課題研究：3004	24
（5）医科学演習：3005	25
（6）医科学実習：3006	26
（7）歯科学演習：3007	27
（8）歯科学実習：3008	28
（9）口腔保健学演習：3009	29
（10）口腔保健学実習：3010	30
（11）理工学演習：3011	31
（12）理工学実習：3012	32
（13）人体形態学：3013	33
（14）口腔形態学：3014	
（15）人体機能学：3015	35
（16）病理病態学：3016	37
（17）環境社会医歯学：3017	39
（18）口腔保健工学特論：3043	41
（19）口腔保健臨地実習：3018	43
（20）病院実習：3019	44
（21）生化学：3020	46
（22）薬理学：3021	48
（23）免疫学：3022	50
（24）発生再生科学：3023	52
（25）細胞生物学特論：3024	54
（26）神経疾患特論：3025	56

(27) 遺伝医学特論：3026	58
(28) 口腔保健福祉学：3027	60
(29) バイオインフォマティクス：3028	62
(30) 疾患オミックス情報学特論：3029	64
(31) 機能分子化学：3030	66
(32) ケミカルバイオロジー特論：3031	68
(33) ケミカルバイオロジー技術特論：3032	70
(34) 分子構造学特論：3033	72
(35) 生体材料学：3034	74
(36) 応用生体材料学：3036	76
(37) バイオメディカルデバイス理工学：3035	78
(38) バイオメディカルシステム理工学：3044	80
(39) 医歯薬産業技術特論：3037	82
(40) 英語交渉・ディベート特論：3038	84
(41) 研究倫理・医療倫理学：3039	86
(42) トランスレーショナルリサーチ特論：3040	88
(43) クリニカルインフォマティクス特論：3041	90
(44) 産学リンケージ特論：3042	92

○修士課程医歯理工学専攻英語講義（10月入学者用）

(1) Introduction to Medical Neurosciences	94
(2) Immunology	94
(3) Development and Regenerative Bioscience	95
(4) Introduction to Chemistry and Biology of Biofunctional Molecules	95
(5) Chemical Biology	96
(6) Practical Chemical Biology	96
(7) Special Lectures on Molecular Structures	97
(8) Advanced Biomaterial Science	97
(9) Bioinformatics	98
(10) Disease OMICS Informatics	98
(11) Translational Research	99
(12) Biomedical Device Science and Engineering	99
(13) Biomedical System Science and Engineering	100
(14) Applied Biomaterials	100

5. 医療管理政策学（MMA）コース授業科目

医療管理政策学（MMA）コースの概要	102
平成27年度医療管理政策学（MMA）コース授業時間割	105
系名：1. 医療政策	
(1) 医療提供政策論	106
(2) 医療社会政策論	108
(3) 世界の医療制度	110
(4) 医療保険論	112
(5) 医療保険制度改革論	114
(6) 医療計画制度	116
(7) 医療産業論	118
(8) 医療経済論	120
系名：2. 医療の質確保とリスク管理	
(1) 医療と社会の安全管理	122
(2) 医療機関リスク管理	124
(3) 医療のTQM	126
(4) 医療機能評価	128
系名：3. 医療関連法規と医の倫理	
(1) 医療制度と法	130
(2) 医事紛争と法	132
(3) 生命倫理と法	134
系名：4. 病院情報とセキュリティー	
(1) 病院情報管理学	136
(2) 診療情報管理学	138
(3) IT時代の医療診断システムとセキュリティー	140
系名：5. 医療の国際文化論	
(1) 医療思想史	142
(2) 世界の文化と医療	144
(3) 世界の宗教と死生観	146
系名：6. 施設設備と衛生管理	
(1) 病院設計・病院設備	148
(2) 衛生工学・汚染管理	150

系名：7. 経営戦略と組織管理	
(1) 戦略と組織	152
(2) 財務・会計	154
(3) 医療の人間工学	156
系名：8. 人的資源管理と人材開発	
(1) 人的資源管理	158
(2) 人材の開発と活用	160
(3) 医療におけるリーダーシップ論	162
系名：9. 医療における情報発信	
(1) 医療とコミュニケーション	164
(2) 医学概論	166
系名：10. 臨床疫学	
(1) 臨床研究・治験	168
(2) 健康情報データベースと統計分析	170
6. 諸規則	
○東京医科歯科大学大学院学則	174
○東京医科歯科大学大学院履修規則	192
○東京医科歯科大学学位規則	197
○東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科委員会修士（医科学・歯科学・ 口腔保健学・理学・工学）に係る学位論文審査及び試験内規	203
○学位論文の様式	206
○東京医科歯科大学大学院学位論文審査基準	207
○東京医科歯科大学大学院GPA制度に関する要項	208
○東京医科歯科大学大学院GPA制度の運用	210
7. 学生周知事項	211
8. 諸手続き	215
○履修登録科目取消願	219
○授業欠席届	220
9. 学内主要施設	221
10. 校内案内図	221

1. 医歯学総合研究科修士課程医歯理工学専攻の概要

人材育成目標

医学、歯学、生命理工学を中心とする多分野融合を実現した体系的な教育課程を基に、生命科学領域の相互連携を図り、人類の健康と福祉に関する幅広い知識および高い倫理観を有する医学、歯学、生命理工学分野の教育者、研究者、技術者等を育成する。

なお、医療管理政策学コースにおいては医療サービスに関わる社会的ニーズに応えるため、指導的立場で活躍する人材養成課程を基に医療管理ならびに医療政策の分野において、患者中心のより良い医療を効率的に提供できる社会システムの構築に寄与する人材を育成する。

アドミッションポリシー

本専攻が掲げる人材育成目標に鑑みて、本専攻では協調性に富み、自分の考えを的確に表現し伝えることができ、入学後の修学に必要な英語力を有している者で、下記の項目のいずれかに該当する者を求める。

- ・ 医科学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。
- ・ 歯科学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。
- ・ 生命理学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。

- ・ 生体工学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。
- ・ 口腔保健学を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。
- ・ 医療管理政策学を学習するのに必要な基礎知識又は実務経験を有し、医療管理政策の展望について自らの考えを論理的に表現することができ、さらなる専門知識を体系的・集中的に学びとる意欲を有している。

カリキュラムポリシー

医歯理工学専攻においては、人類の健康と福祉に関する幅広い知識および高い倫理観を有する教育者、研究者、技術者等を育成するため、専門分野だけでなく、医学、歯学、生命理工学を中心とした多分野融合教育を推進する。

1. 早期に研究能力が修得できるカリキュラム編成としている。
2. 1年次初期において医歯科学および疾病における広範な基礎的知識を修得するための科目を設置している。
3. 医療倫理、安全管理を含めた、病院実習、臨地実習科目を設置している。
4. 学生の進路希望に対応した学位取得を可能とするために、各々の希望に沿った履修モデルを設定している。
5. 医学領域、歯学領域、口腔保健学の教育、研究、実務に従事する人材を育成するため、専門知識の修得に必要な関連科目を設置している。

6. 生命理学、生体工学の教育、研究、実務に従事する人材を育成するため、専門知識の修得に必要な関連科目を設置している。
7. 所属専攻分野を超えた生命科学領域の高度な専門知識の修得のため、専門の異なる複数教員による医歯工連携科目を基礎科目として設置している。
8. 所属専攻分野を超えた生命科学領域の高度な専門知識の修得のため、充実した専門発展科目を選択科目として設置している。
9. 所属専攻分野における高度な知識および実務能力の修得のために、演習・実習科目を設定し複数教員による指導を行う。
10. 博士課程進学希望者に対して、研究を自ら立案・遂行できる能力を修得させるカリキュラム構成としている。

ディプロマポリシー

所定の期間在学し、医歯理工学専攻の開設科目や本専攻が認めた他大学の授業科目を履修して修了要件単位数を修得し、本専攻が行う修士論文又は課題研究報告の審査および最終試験に合格した以下のいずれかの学識および実務能力を修得した者に、対応する名称の学位を授与する。

1. 修士（医科学）

医学領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

2. 修士（歯科学）

歯学領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

3. 修士（理学）

生命理学領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

4. 修士（工学）

生体工学領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

5. 修士（口腔保健学）

口腔保健領域の教育、研究、実務に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

標準修業年限

標準修業年限 2年

2. 修了要件及び履修方法

1. 修了要件

医歯理工学専攻に2年以上在学し、授業科目を30単位以上修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

2. 履修方法

履修登録は、**指導教員**と相談のうえ、履修する科目を決定し、前期及び後期の所定の期間内に登録の手続きを行わなければならない。履修登録の受付は学務部学務企画課にて行う。

同じ時間帯に開講する2つの科目を履修登録することはできない。

※取得する学位により、履修科目が異なるため、履修登録にあたっては事前に指導教員と授業の履修方法等について、相談のうえ行うこと。

1) 履修科目について

本専攻において修得すべき30単位の履修方法は、次のとおりとする。

取得学位の必修科目を履修し、選択科目と合わせて30単位以上を履修すること。なお、「医歯学総合概論」「初期研究研修」「医歯理工学先端研究特論」「課題研究」の8単位はすべての学位に共通する必修科目のため、必ず履修すること。なお、次ページの「開設科目及び修得単位一覧表」は、5つの取得学位別の必修科目と選択科目、及びその単位数を示している。◎は必修科目、斜線が入っているものは受講できない科目である。また選択科目の中から、必要単位数に達するように科目登録を行うこと。

2) 履修科目の追加について

履修科目を追加する場合は、各年度前期及び後期の所定の期間内に履修登録を受け付ける。追加履修をする場合も、学務部学務企画課に申し出ること。

3) 医療管理政策学(MMA)コースの講義について

次ページに記載されている選択科目のほかに、医療管理政策学(MMA)コースの科目を**年間10単位**まで、受講することができる。

なお、修得した単位は修了要件単位及びGPAにも算入されるものとする。医療管理政策学(MMA)コースの開設科目については、101ページ以降を参照すること。

4) 学際生命科学東京コンソーシアムの講義について

3)と同様に学際生命科学東京コンソーシアムの科目を**10単位**まで、受講することができる。

学際生命科学東京コンソーシアムの開設科目については、別冊「共通シラバス」を参照すること。

5) 授業・試験の休講措置等について

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う授業の休講・試験の延長を決定した場合は、本学のホームページ「学部・大学院」ニュース欄に掲載する。

<http://www.tmd.ac.jp/faculties-news/index.html>

6) 授業欠席について

授業を欠席する(した)場合は、授業欠席届【220ページ】(様式はホームページ「学部・大学院」→「大学院医歯学総合研究科」→「学務部学務企画課」→「諸手続」)を学務企画課に提出すること。原則として、遅刻・欠席の教員への連絡取次は受け付けない。

開設科目及び修得単位一覧表

科目名		科目コード	単位数	取得学位					科目責任者
				医科学	歯科学	口腔保健学	理 学	工 学	
1	医歯学総合概論	3001	2	◎	◎	◎	◎	◎	教育委員長
2	初期研究研修	3002/3102	1	◎	◎	◎	◎	◎	教育委員長
3	医歯理工学先端研究特論	3003	1	◎	◎	◎	◎	◎	教育委員長
4	課題研究	3004	4	◎	◎	◎	◎	◎	指導教員
5	医科学演習	3005	4	◎					指導教員
6	医科学実習	3006	4	◎					指導教員
7	歯科学演習	3007	4		◎				指導教員
8	歯科学実習	3008	4		◎				指導教員
9	口腔保健学演習	3009	4			◎			指導教員
10	口腔保健学実習	3010	4			◎			指導教員
11	理工学演習	3011	4				◎	◎	指導教員
12	理工学実習	3012	4				◎	◎	指導教員
13	人体形態学	3013	1	◎			いずれか 1科目 履修可能	いずれか 1科目 履修可能	寺田
14	口腔形態学	3014	1		◎	◎			柴田
15	人体機能学	3015	1	◎	◎	◎	選 択 科 目	選 択 科 目	杉原泉
16	病理病態学	3016	1	◎	◎	○			岡澤
17	環境社会医歯学	3017	1	◎	◎	◎			河原
18	口腔保健工学特論	3043	2	選 択 科 目	選 択 科 目	○			鈴木
19	口腔保健臨床実習	3018	2			○			品田
20	病院実習	3019	1						教育委員長
21	生化学	3020	2						畑
22	薬理学	3021	2						黒川
23	免疫学	3022	2						鐺田
24	発生・再生科学	3023	2						仁科
25	細胞生物学特論	3024	1						樽木
26	神経疾患特論	3025	2						田中光
27	遺伝医学特論	3026	2						稲澤
28	口腔保健福祉学	3027	2						品田
29	バイオインフォマティクス	3028	2						田中敏博
30	疾患オミックス情報学特論	3029	2						石野
31	機能分子化学	3030	2					☆	玉村
32	ケミカルバイオロジー特論	3031	2					☆	影近
33	ケミカルバイオロジー技術特論	3032	2					☆	細谷
34	分子構造学特論	3033	2					☆	伊藤
35	生体材料学	3034	2					☆	由井
36	応用生体材料学	3036	2					☆	永井
37	バイオメディカルデバイス理工学	3035	1					☆	安田
38	バイオメディカルシステム理工学	3044	1					☆	安田
39	医歯薬産業技術特論	3037	1					☆	岸田
40	英語交渉・ディベート特論	3038	2	選 択 科 目	選 択 科 目	選 択 科 目	選 択 科 目	選 択 科 目	村松
41	研究倫理・医療倫理学	3039	1						吉田
42	トランスレーショナルリサーチ特論	3040	2						影近
43	クリニカル・インフォマティクス特論	3041	2						村松
44	産学リンケージ特論	3042	2						玉村

◎：必修科目 ○：「病理病態学と口腔保健臨床実習」もしくは「口腔保健工学特論」を必ず履修すること。

☆：9科目15単位の中から、4単位以上必ず履修すること。

医療管理政策学（MMA）コース科目

系名	科目名	科目コード	単位数	取得学位				
				医科学	歯科学	口腔保健学	理 学	工 学
1. 医療政策	1 医療提供政策論	4011	1	10 単 位 ま で 選 択 可 能				
	2 医療社会政策論	4012	1					
	3 世界の医療制度	4013	1					
	4 医療保険論	4014	1					
	5 医療保険制度改革論	4015	1					
	6 医療計画制度	4016	1					
	7 医療産業論	4017	1					
	8 医療経済論	4018	1					
2. 医療の質確保とリスク管理	1 医療と社会の安全管理	4021	1					
	2 医療機関リスク管理	4022	1					
	3 医療のTQM	4023	1					
	4 医療機能評価	4024	1					
3. 医療関連法規と医の倫理	1 医療制度と法	4031	1					
	2 医事紛争と法	4032	1					
	3 生命倫理と法	4033	1					
4. 病院情報とセキュリティ	1 病院情報管理学	4041	1					
	2 診療情報管理学	4042	1					
	3 IT時代の医療診断システムとセキュリティ	4043	1					
5. 医療の国際文化論	1 医療思想史	4051	1					
	2 世界の文化と医療	4052	1					
	3 世界の宗教と死生観	4053	1					
6. 施設設備と衛生管理	1 病院設計・病院設備	4061	1					
	2 衛生工学・汚染管理	4062	1					
7. 経営戦略と組織管理	1 戦略と組織	4071	1					
	2 財務・会計	4072	1					
	3 医療の人間工学	4073	1					
8. 人的資源管理と人材開発	1 人的資源管理	4081	1					
	2 人材の開発と活用	4082	1					
	3 医療におけるリーダーシップ論	4083	1					
9. 医療における情報発信	1 医療とコミュニケーション	4091	1					
	2 医学概論	4093	1					
10. 臨床疫学	1 臨床研究・治験	4101	1					
	2 健康情報データベースと統計分析	4102	1					

MMAの講義は大学院講義室2（M&Dタワー13階）で次の時間に行われる。

時限	MMA 1時限目	MMA 2時限目
授業時間	18:00～19:30	19:40～21:10

時間割は105ページ参照

7) 取得学位別履修例について

以下は、取得学位別の履修例を示している。必修科目はもれなく受講すること。なお、選択科目についてはあくまで例なので、受講する科目は指導教員と相談のうえ、決めること。

学位別履修例

I. 医科学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	病院実習	1
初期研究研修	1	研究倫理・医療倫理学	1
医歯理工学先端研究特論	1	生化学	2
課題研究	4	遺伝医学特論	2
医科学演習	4	神経疾患特論	2
医科学実習	4	薬理学	2
人体形態学	1		
人体機能学	1		
病理病態学	1		
環境社会医歯学	1		
(必修科目単位数合計)	20	(選択科目単位数合計)	10
合計単位数		30単位	

II. 歯科学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	細胞生物学特論	1
初期研究研修	1	医歯薬産業技術特論	1
医歯理工学先端研究特論	1	免疫学	2
課題研究	4	発生・再生科学	2
歯科学演習	4	神経疾患特論	2
歯科学実習	4	機能分子化学	2
口腔形態学	1		
人体機能学	1		
病理病態学	1		
環境社会医歯学	1		
(必修科目単位数合計)	20	(選択科目単位数合計)	10
合計単位数		30単位	

III. 口腔保健学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	研究倫理・医療倫理学	1
初期研究研修	1	細胞生物学特論	1
医歯理工学先端研究特論	1	口腔保健福祉学	2
課題研究	4	ケミカル・イロジ-特論	2
口腔保健演習	4	生体材料学	2
口腔保健実習	4		
口腔形態学	1		
人体機能学	1		
病理病態学	1		
環境社会医歯学	1		
口腔保健臨地実習	2		
(必修科目単位数合計)	22	(選択科目単位数合計)	8
合計単位数		30単位	

Ⅳ．理学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	バイオメディカルバイオ理工学	1
初期研究研修	1	病院実習	1
医歯理工学先端研究特論	1	疾患オミクス情報学特論	2
課題研究	4	産学リンクージ特論	2
理工学演習	4	応用生体材料学	2
理工学実習	4	機能分子化学	2
		トランスレーショナルリサーチ特論	2
		クリニカル・インフォマティクス特論	2
(必修科目単位数合計)	16	(選択科目単位数合計)	14
合計単位数		30単位	

Ⅴ．工学

必修科目		選択科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
医歯学総合概論	2	人体形態学	1
初期研究研修	1	医歯薬産業技術特論	1
医歯理工学先端研究特論	1	生化学	2
課題研究	4	機能分子化学	2
理工学演習	4	分子構造学特論	2
理工学実習	4	バイオインフォマティクス	2
		産学リンクージ特論	2
		クリニカル・インフォマティクス特論	2
(必修科目単位数合計)	16	(選択科目単位数合計)	14
合計単位数		30単位	

3．成績

1) 成績評価について

授業科目の成績は、以下の基準に従い、秀・優・良・可を合格、不可を不合格とする。

評 価			GP	評価基準
秀	S (Superior)	90～100点	4	当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した
優	A (Excellent)	80～89点	3	当該科目の到達目標を全て達成した
良	B (Good)	70～79点	2	当該科目の到達目標を概ね達成した
可	C (Fair)	60～69点	1	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した
不可	D (Failing)	0～59点	0	当該科目の到達目標を達成していない

※2 2) GPAについて 参照

2) GPAについて

GPAとは、履修した各科目の成績評価に対して、それぞれポイント(GP)を定め、成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法のひとつである。GPAは当該年度のものと同累積のものを算出するが、成績証明書には累積GPAを表示するものとする。

I. GPA算出方法

$$\frac{\text{「秀」修得単位数} \times 4 + \text{「優」修得単位数} \times 3 + \text{「良」修得単位数} \times 2 + \text{「可」修得単位数} \times 1 + \text{「不可」修得単位数} \times 0}{\text{履修登録単位数}}$$

履修登録単位数

※小数点第3位以下は切り捨て

II. 履修取消について

履修取消とは、一旦履修登録した科目を大学の定める一定期間※3に本人からの請求により、履修を取り消すことをいう。履修取消を行った科目に関しては、GPAには算入されず、成績証明書にも記載されない。

履修取消の手続きは、履修登録科目取消願【219ページ】（様式はホームページ「学部・大学院」→「大学院医歯学総合研究科」→「学務部学務企画課」→「諸手続」）により学務部学務企画課に提出する。

なお、期間内に履修取消の手続きを行わず、自ら履修を放棄した場合は「不可」評価（GP=0）とする。

※3 履修取消の期間は、各授業科目の第5回目（MMAは3日目）の講義が開始されるまでとする。なお、夏期休業期間中等に行われる集中講義については、当該科目の履修確定日の翌日から授業開始日の一週間前までとする。

4. 講義時間

講義は次の時間帯に行う。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
授業時間	8:50 5	10:30 5	13:00 5	14:40 5	16:20 5	18:00 5	19:40 5
	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	21:10

※講義室入口横に設置されている出席管理端末に、学生証をかざすことで出席としてカウントされる。学生証を忘れた場合は欠席扱いとなるので、留意すること。

5. 講義室、実習室

講義は主に下記の講義室で行われるので、講義室の場所を把握しておくこと。なお、科目によっては下記以外の講義室で行う場合もあるので、その都度確認すること。

また、講義室、実習室に個人の所有物などを放置しないように注意すること。時間外使用を希望する場合は、学務企画課（内線：4534）に申し出て許可を得る必要がある。

湯島地区	3号館6階	大学院講義室
	歯科棟南4階	歯学部特別講堂
	M&Dタワー4階	図書館情報検索室
	M&Dタワー11階	大学院講義室3
	M&Dタワー21階	大学院講義室1
	M&Dタワー23階	共用セミナー室3
駿河台地区	22号館1階	第2会議室

平成27年度修士課程医歯理工学専攻授業時間割

月日	曜日	1 8:50～10:20	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:40～16:10	5 16:20～17:50	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10	
4月6日	月	14:00-15:00 ガイダンス							↑
4月7日	火	13:00 入学式							履
4月8日	水								修
4月9日	木								登
4月10日	金	3039:研究倫理・医療倫理1口	3013/14:人体/口腔形態学1◇	3013/14:人体/口腔形態学2◇					録
4月11日	土								受
4月12日	日								付
4月13日	月	(R I 取扱者に対する安全取り扱い講習会)							期
4月14日	火								期
4月15日	水	3002:初期研究研修△(9:50～17:00)							期
4月16日	木						3038:英語交渉・ディベート特論1/2◇		期
4月17日	金								↓
4月18日	土								↑
4月19日	日								履
4月20日	月	3039:研究倫理・医療倫理2口	3013/14:人体/口腔形態学3◇	3013/14:人体/口腔形態学4◇					修
4月21日	火	3039:研究倫理・医療倫理3口	3013/14:人体/口腔形態学5◇ 3031:ケミカルバイオロジー特論1口	3001:歯医学総合概論1☆	3001:歯医学総合概論2☆				登
4月22日	水	3039:研究倫理・医療倫理4口	3013/14:人体/口腔形態学6◇	3001:歯医学総合概論3☆	3001:歯医学総合概論4☆				録
4月23日	木	3039:研究倫理・医療倫理5口	3013/14:人体/口腔形態学7◇	3001:歯医学総合概論5☆	3001:歯医学総合概論6☆		3038:英語交渉・ディベート特論3/4◇		修
4月24日	金	3039:研究倫理・医療倫理6口	3013/14:人体/口腔形態学8◇	3001:歯医学総合概論7☆					正
4月25日	土								↓
4月26日	日								
4月27日	月								
4月28日	火								
4月29日	水								
4月30日	木								
5月1日	金								
5月2日	土								
5月3日	日								
5月4日	月								
5月5日	火								
5月6日	水								
5月7日	木	3039:研究倫理・医療倫理7口	3016:病理病態学1◇	3001:歯医学総合概論8☆		3038:英語交渉・ディベート特論5/6◇			
5月8日	金	3039:研究倫理・医療倫理8口	3028:バイオインフォマティクス1口	3001:歯医学総合概論9☆	3001:歯医学総合概論10☆				
5月9日	土								
5月10日	日								
5月11日	月	3020:生化学1◇	3016:病理病態学2◇ 3034:生体材料学1口	3001:歯医学総合概論11☆	3001:歯医学総合概論12☆	3034:生体材料学2◆			
5月12日	火	3020:生化学2◇	3016:病理病態学3◇ 3031:ケミカルバイオロジー特論2口	3031:ケミカルバイオロジー特論3口	3040:トランスレショナルリサーチ特論1/2◇				
5月13日	水	3020:生化学3◇	3016:病理病態学4◇	3001:歯医学総合概論13☆	3040:トランスレショナルリサーチ特論3/4◇				
5月14日	木	3020:生化学4◇	3016:病理病態学5◇ 3034:生体材料学3◆	3001:歯医学総合概論14☆		3038:英語交渉・ディベート特論7/8◇			
5月15日	金	3028:バイオインフォマティクス2口	3028:バイオインフォマティクス3口	3020:生化学5◇	3001:歯医学総合概論15☆				
5月16日	土								
5月17日	日								
5月18日	月	3015:人体機能学1◇ 3036:応用生体材料学1◆	3016:病理病態学6◇ 3036:応用生体材料学2◆	3020:生化学6◇	3016:病理病態学7◇				
5月19日	火	3015:人体機能学2◇	3016:病理病態学8◇	3020:生化学7◇					
5月20日	水	3015:人体機能学3◇ 3031:ケミカルバイオロジー特論4◆	3017:環境社会医学学1◇ 3031:ケミカルバイオロジー特論5◆	3020:生化学8◇	3040:トランスレショナルリサーチ特論5/6◇				
5月21日	木	3015:人体機能学4◇ 3034:生体材料学4◆	3017:環境社会医学学2◇ 3034:生体材料学5◆	3020:生化学9◇		3038:英語交渉・ディベート特論9/10◇			
5月22日	金	3028:バイオインフォマティクス4口	3028:バイオインフォマティクス5口	3020:生化学10◇	3020:生化学11◇				
5月23日	土								
5月24日	日								
5月25日	月	3015:人体機能学5◇ 3036:応用生体材料学3◆	3017:環境社会医学学3◇ 3036:応用生体材料学4◆	3020:生化学12◇					
5月26日	火	3015:人体機能学6◇	3017:環境社会医学学4◇	3020:生化学13◇					
5月27日	水	3015:人体機能学7◇ 3031:ケミカルバイオロジー特論6◆	3017:環境社会医学学5◇ 3031:ケミカルバイオロジー特論7◆	3020:生化学14◇	3040:トランスレショナルリサーチ特論7/8◇				
5月28日	木	3015:人体機能学8◇ 3034:生体材料学6◆	3017:環境社会医学学6◇ 3034:生体材料学7◆	3020:生化学15◇		3038:英語交渉・ディベート特論11/12◇			
5月29日	金	3028:バイオインフォマティクス6口	3028:バイオインフォマティクス7口	3021:薬理学1◇					
5月30日	土								
5月31日	日								
6月1日	月	3026:遺伝医学特論1◇ 3036:応用生体材料学5◆	3017:環境社会医学学7◇ 3036:応用生体材料学6◆	3021:薬理学2◇					

講義場所 △:MDタワー2階鈴木章夫記念講堂 ☆:歯科棟南4階 ◇:3号館6階 ♣:MDタワー4階 □:MDタワー21階 ■:1号館7階 ◆:22号館 ◎:21号館 ★:2号館2階

平成27年度修士課程医歯理工学専攻授業時間割

月	日	曜	1 8:50～10:20	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:40～16:10	5 16:20～17:50	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10
6月2日	火		3026：遺伝医学特論2◇	3017：環境社会医歯学8◇ 3036：応用生体材料学7◆	3021：薬理学3◇				
6月3日	水		3026：遺伝医学特論3◇ 3031：ケミカルバイオロジー特論8◆	3026：遺伝医学特論4◇ 3031：ケミカルバイオロジー特論9◆	3021：薬理学4◇	3040：トランスレーショナルリサーチ特論9/10◇			
6月4日	木		3026：遺伝医学特論5◇ 3034：生体材料学8◆	3026：遺伝医学特論6◇ 3034：生体材料学9◆	3021：薬理学5◇		3038：英語交渉・ディベート特論13/14◇		
6月5日	金		3028：バイオインフォマティクス8□	3028：バイオインフォマティクス9□	3021：薬理学6◇	3044：バイオメディカルシステム理工学1◆			
6月6日	土								
6月7日	日								
6月8日	月		3026：遺伝医学特論7◇ 3036：応用生体材料学8◆	3026：遺伝医学特論8◇ 3036：応用生体材料学9◆	3021：薬理学7◇				
6月9日	火		3026：遺伝医学特論9◇ 3031：ケミカルバイオロジー特論10◆	3026：遺伝医学特論10◇ 3031：ケミカルバイオロジー特論11◆	3021：薬理学8◇	3044：バイオメディカルシステム理工学2◆	3044：バイオメディカルシステム理工学3◆		
6月10日	水		3026：遺伝医学特論11◇	3026：遺伝医学特論12◇	3021：薬理学9◇	3040：トランスレーショナルリサーチ特論11/12◇			
6月11日	木		3026：遺伝医学特論13◇ 3034：生体材料学10◆	3026：遺伝医学特論14◇ 3034：生体材料学11◆	3021：薬理学10◇	3044：バイオメディカルシステム理工学4◆	3038：英語交渉・ディベート特論15◇		
6月12日	金		3028：バイオインフォマティクス10□	3028：バイオインフォマティクス11□	3021：薬理学11◇	3044：バイオメディカルシステム理工学5◆			
6月13日	土								
6月14日	日								
6月15日	月		3026：遺伝医学特論15◇ 3036：応用生体材料学10◆	3025：神経疾患特論1◇ 3036：応用生体材料学11◆	3021：薬理学12◇				
6月16日	火		3025：神経疾患特論2◇	3025：神経疾患特論3◇	3021：薬理学13◇	3044：バイオメディカルシステム理工学6◆	3044：バイオメディカルシステム理工学7◆		
6月17日	水		3025：神経疾患特論4◇ 3031：ケミカルバイオロジー特論12◆	3025：神経疾患特論5◇ 3031：ケミカルバイオロジー特論13◆	3021：薬理学14◇	3040：トランスレーショナルリサーチ特論13/14◇			
6月18日	木		3025：神経疾患特論6◇ 3034：生体材料学12◆	3025：神経疾患特論7◇ 3034：生体材料学13◆	3021：薬理学15◇	3044：バイオメディカルシステム理工学8◆			
6月19日	金		3028：バイオインフォマティクス12□	3028：バイオインフォマティクス13□	3024：細胞生物学特論1□ 3035：B細胞特論B1理工学1◆	3036：応用生体材料学12◆	3036：応用生体材料学13◆		
6月20日	土								
6月21日	日								
6月22日	月		3025：神経疾患特論8◇	3025：神経疾患特論9◇	3024：細胞生物学特論2□ 3035：B細胞特論B1理工学2◆				
6月23日	火		3025：神経疾患特論10◇	3025：神経疾患特論11◇	3024：細胞生物学特論3□ 3035：B細胞特論B1理工学3◆	3036：応用生体材料学14◆			
6月24日	水		3025：神経疾患特論12◇ 3031：ケミカルバイオロジー特論14◆	3025：神経疾患特論13◇ 3031：ケミカルバイオロジー特論15◆	3024：細胞生物学特論4□ 3035：B細胞特論B1理工学4◆	3036：応用生体材料学15◆	3040：トランスレーショナルリサーチ特論15◇		
6月25日	木		3025：神経疾患特論14◇ 3034：生体材料学14◆	3025：神経疾患特論15◇ 3034：生体材料学15◆	3024：細胞生物学特論5□ 3035：B細胞特論B1理工学5◆	3024：細胞生物学特論6□ 3035：B細胞特論B1理工学6◆			
6月26日	金		3028：バイオインフォマティクス14□	3028：バイオインフォマティクス15□	3024：細胞生物学特論7□ 3035：B細胞特論B1理工学7◆	3024：細胞生物学特論8□ 3035：B細胞特論B1理工学8◆			
6月27日	土								
6月28日	日								
6月29日	月								
6月30日	火								
7月1日	水		3019：病院実習(8:50～17:50)			予備日：ケミカルバイオロジー技術特論(14:40～19:30)			
7月2日	木								
7月3日	金								
7月4日	土								
7月5日	日								
7月6日	月								
7月7日	火								
7月8日	水		予備日：病院実習(8:50～17:50)			3032：ケミカルバイオロジー技術特論(14:40～19:30)			
7月9日	木								
7月10日	金								
7月11日	土								
7月12日	日								
7月13日	月								
7月14日	火								
7月15日	水								
7月16日	木								
7月17日	金								
7月18日	土								
7月19日	日								
7月20日	月								
7月21日	火								
8-9月			3018：口腔保健臨床実習(8:50～17:50)						

開催場所 △:MDタワー2階鈴木章夫記念講堂 ☆:歯科棟南4階 ◇:3号館6階 ♣:MDタワー4階 □:MDタワー21階 ■:1号館7階 ◆:22号館 ◎:21号館 ★:2号館2階

平成27年度修士課程医歯理工学専攻授業時間割

月 日	曜 日	1 8:50～10:20	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:40～16:10	5 16:20～17:50	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10	
10月1日	木								履 修 登 録 受 付 期 間 ↓
10月2日	金								
10月3日	土								
10月4日	日								
10月5日	月	3030：機能分子化学1◆	3030：機能分子化学2◆	3033：分子構造学特論1/2□					
10月6日	火	3023：発生・再生科学1□	3023：発生・再生科学2□						
10月7日	水	3027：口腔保健福祉学1■ 3043：口腔保健工学特論1★	3027：口腔保健福祉学2■ 3043：口腔保健工学特論2★						
10月8日	木								
10月9日	金	3022：免疫学1◇	3022：免疫学2◇		※15:05～16:35 3041：クリニカル・インフォマティクス特論1●				
10月10日	土								
10月11日	日								
10月12日	月			3033：分子構造学特論3/4□					
10月13日	火	3023：発生・再生科学3□	3023：発生・再生科学4□	3043：口腔保健工学特論3★	3043：口腔保健工学特論4★		3037：医歯薬産業技術特論1◎		
10月14日	水	3027：口腔保健福祉学3■	3027：口腔保健福祉学4■	3043：口腔保健工学特論5★					
10月15日	木	3029：疾患オミックス情報学特論1□	3029：疾患オミックス情報学特論2□						
10月16日	金	3022：免疫学3◇	3022：免疫学4◇						
10月17日	土								
10月18日	日								
10月19日	月	3030：機能分子化学3◆	3030：機能分子化学4◆	3033：分子構造学特論5/6□					履 修 登 録 受 付 期 間 ↓
10月20日	火	3023：発生・再生科学5□	3023：発生・再生科学6□	3023：発生・再生科学7□			3037：医歯薬産業技術特論2◎		
10月21日	水	3027：口腔保健福祉学5■ 3043：口腔保健工学特論6★	3027：口腔保健福祉学6■ 3043：口腔保健工学特論7★						
10月22日	木	3029：疾患オミックス情報学特論3□	3029：疾患オミックス情報学特論4♣	3029：疾患オミックス情報学特論5♣					
10月23日	金	3022：免疫学5◇	3022：免疫学6◇	3022：免疫学7◇	※15:05～16:35 3041：クリニカル・インフォマティクス特論2●				
10月24日	土								
10月25日	日								
10月26日	月	3030：機能分子化学5◆	3030：機能分子化学6◆	3033：分子構造学特論7/8□					
10月27日	火	3023：発生・再生科学8□	3023：発生・再生科学9□	3023：発生・再生科学10□ 3043：口腔保健工学特論8★	3043：口腔保健工学特論9★		3037：医歯薬産業技術特論3◎		
10月28日	水	3027：口腔保健福祉学7■	3027：口腔保健福祉学8■	3043：口腔保健工学特論10★	3029：疾患オミックス情報学特論6□	3029：疾患オミックス情報学特論7♣	3029：疾患オミックス情報学特論8♣		
10月29日	木								
10月30日	金	3022：免疫学8◇	3022：免疫学9◇	3022：免疫学10◇					
10月31日	土								
11月1日	日								
11月2日	月	3023：発生・再生科学11□	3023：発生・再生科学12□	3023：発生・再生科学13□			3037：医歯薬産業技術特論4◎		履 修 登 録 受 付 期 間 ↓
11月3日	火								
11月4日	水	3027：口腔保健福祉学9■ 3043：口腔保健工学特論11★	3027：口腔保健福祉学10■ 3043：口腔保健工学特論12★	3043：口腔保健工学特論13★					
11月5日	木	3029：疾患オミックス情報学特論9□	3029：疾患オミックス情報学特論10□						
11月6日	金	3022：免疫学11◇	3022：免疫学12◇						
11月7日	土								
11月8日	日								
11月9日	月	3030：機能分子化学7◆	3030：機能分子化学8◆	3033：分子構造学特論11/12□					
11月10日	火	3023：発生・再生科学14□	3023：発生・再生科学15□				3037：医歯薬産業技術特論5◎		
11月11日	水	3027：口腔保健福祉学11■	3027：口腔保健福祉学12■			3029：疾患オミックス情報学特論11□			
11月12日	木	3029：疾患オミックス情報学特論12□	3029：疾患オミックス情報学特論♣/□（予備日）						
11月13日	金	3022：免疫学13◇	3022：免疫学14◇						
11月14日	土								
11月15日	日								
11月16日	月	3030：機能分子化学9◆	3030：機能分子化学10◆	3033：分子構造学特論13/14□					履 修 登 録 受 付 期 間 ↓
11月17日	火	3030：機能分子化学11◆ 3043：口腔保健工学特論14★	3030：機能分子化学12◆ 3043：口腔保健工学特論15★				3037：医歯薬産業技術特論6◎		
11月18日	水	3027：口腔保健福祉学13■	3027：口腔保健福祉学14■						
11月19日	木	3029：疾患オミックス情報学特論13□	3029：疾患オミックス情報学特論14□						
11月20日	金	3022：免疫学15◇	3029：疾患オミックス情報学特論15□		※15:05～16:35 3041：クリニカル・インフォマティクス特論3●				
11月21日	土								
11月22日	日								
11月23日	月								
11月24日	火	3030：機能分子化学13◆	3030：機能分子化学14◆	3030：機能分子化学15◆		3033：分子構造学特論15□	3037：医歯薬産業技術特論7◎		
11月25日	水	3027：口腔保健福祉学15■							
11月26日	木								
11月27日	金								
11月28日	土								
11月29日	日								
11月30日	月								
12月1日	火								履 修 登 録 受 付 期 間 ↓
12月2日	水						3037：医歯薬産業技術特論8◎		
12月3日	木								
12月4日	金					※15:05～16:35 3041：クリニカル・インフォマティクス特論4●			
12月5日	土								
12月6日	日								
12月7日	月								
12月8日	火								
12月9日	水								
12月10日	木								
12月11日	金					※15:05～16:35 3041：クリニカル・インフォマティクス特論5●			
12月12日	土								
12月13日	日								
12月14日	月								
12月15日	火								
12月16日	水								
12月17日	木								
12月18日	金					※15:05～16:35 3041：クリニカル・インフォマティクス特論6●			

※1 産学リンケージ特論(3042)およびクリニカル・インフォマティクス特論(3041)は時間割から除く。※2 時間割は予定であり、やむを得ない事情により12月以降にも講義が行われることがある。

講義場所 △:MDタワー2階鈴木章夫記念講堂 ★:歯科棟南4階 ◇:3号館6階 ♣:MDタワー4階 □:MDタワー21階 ●:MDタワー23階 ■:1号館7階 ◆:22号館 ◎:21号館 ★:

2号館2階

4. 授業科目の講義内容

医歯学総合概論

Philosophy of Medicine and Dentistry

科目コード: 3001 1年次 2単位

1. 担当教員

科目責任者: 修士課程教育委員長

連絡先: 学務部学務企画課大学院教務第二掛

TEL:03-5803-4534、Email: grad02@ml.tmd.ac.jp

	名前	分野・職名
科目担当者	金兼 弘和	発生発達病態学分野・准教授
	磯部 光章	循環制御内科学分野・教授
	西川 徹	精神行動医科学分野・教授
	久保田 俊郎	生殖機能協関学分野・教授
	横関 博雄	皮膚科学分野・教授
	稲瀬 直彦	統合呼吸器病学分野・教授
	小川 佳宏	分子内分泌代謝学分野・教授
	岩井 秀之	医学部・特任講師
	小林 宏寿	腫瘍外科学分野・低侵襲医学研究センター・特任准教授
	岡田 大蔵	摂食機能保存学分野・講師
	鵜澤 成一	顎顔面外科学分野・講師
	池田 英治	歯髄生物学分野・講師
	新井 文子	血液内科学分野・講師
	榎本 光裕	整形外科学分野・高気圧治療部・講師
	伊藤 真以	臨床検査医学分野・助教

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

現代の医歯学の学問体系について全体像の概要、臨床分野における疾病予防を含めた医療活動の重要性、主要な疾患に関する疫学、診断、治療、およびリハビリテーションの基礎的知識、社会に貢献する医歯学研究のあり方と進め方について授業する。

概要

疾病の診断、治療、予防及び疫学の基本的戦略、臨床医学・歯学の診断、治療における基本的原理に加え、医歯学を支える学際的な学問分野領域の重要性と可能性及び生命倫理とリスクマネジメントについても授業する。

4. 授業の到達目標

現代の医歯学の学問体系の全体像を理解するとともに、各臨床医学・歯学分野における疾患の診断、治療、予防及び疫学の基本的戦略方法を理解する。

さらに、医学・歯学における研究にとって最も重要な生命倫理とリスクマネジメントについて理解する。

5. 授業方法

本学医学部・歯学部臨床主要分野の教員による講義形式の授業である。出席管理システムを使用する。

6. 授業内容

下の別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績は、参加状況と受講姿勢(75%、ただし2/3以上の出席が必要)、レポート(25%)から評価する。レポート課題は、「出席した授業の要旨をまとめる。全体で、A4 4枚以内」授業の最終日から3週間以内に学務企画課に提出のこと。

8. 準備学習等についての具体的な指示

下記参考書その他により予習してから受講することを勧める。

9. 参考書

中村實監修 新編臨床医学概論 医学書院 平成16年 ISBN4-86003-326-4
教科書・参考書等は授業中に指示される場合がある。

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

学務企画課へ問い合わせること。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月21日 (火) 13:00～14:30	摂食機能保存学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	岡田 大蔵
2	4月21日 (火) 14:40～16:10	顎顔面外科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	鵜澤 成一
3	4月22日 (水) 13:00～14:30	発生発達病態学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	金兼 弘和
4	4月22日 (水) 14:40～16:10	整形外科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	榎本 光裕
5	4月23日 (木) 13:00～14:30	腫瘍外科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	小林 宏寿
6	4月23日 (木) 14:40～16:10	皮膚科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	横関 博雄
7	4月24日 (金) 13:00～14:30	統合呼吸器病学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	稲瀬 直彦
8	5月7日 (木) 13:00～14:30	歯髄生物学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	池田 英治
9	5月8日 (金) 13:00～14:30	臨床検査医学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	伊藤 真以
10	5月8日 (金) 14:40～16:10	生殖機能協関学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	久保田 俊郎
11	5月11日 (月) 13:00～14:30	精神行動医科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	西川 徹
12	5月11日 (月) 14:40～16:10	循環制御内科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	磯部 光章
13	5月13日 (水) 13:00～14:30	内分泌・代謝内科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	小川 佳宏
14	5月14日 (木) 13:00～14:30	血液内科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	新井 文子
15	5月15日 (金) 14:40～16:10	膠原病・リウマチ内科学 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)	岩井 秀之

初期研究研修

科目コード: 3002 1年次 1単位

1. 担当教員

科目責任者: 修士課程教育委員長

連絡先: 別表のとおり。

2. 科目の教育方針

研究開始に当たり、種々の研究分野における基本的な研究概念や具体的な研究方法の必要知識および研究実施上の注意事項を学習する。

3. 授業計画・授業内容

別表のとおり。

4. 成績評価方法

授業の参加状況に基づいて総合的に評価を行う。

Initial Research Training (for international students)

科目コード: 3102 1年次 1単位

[Course Description]

Research work should be done in accordance with various rules and regulations including those related to ethics, and those related to handling of toxic substances, radioactive materials and animals. This series of lectures introduce rules and regulations that the students should follow during research work. Also, the students learn how to use libraries and data bases, and how to avoid scientific misconducts.

[Grading]

Attendance

[Course Schedule]

See the next page: Table

[Notes]

Master's course students are automatically registered "Initial Research Training" (Code: 3002). If you are an international student, you can register "Initial Research Training for international students" (Code: 3102) instead of "Initial Research Training" (Code: 3002).

[Inquiring]

Educational Planning Section
TEL 5803-4534

医歯理工学先端研究特論

Special Lectures for Advanced Research on Life Science and Technology

科目コード: 3003 1年次 1単位

1. 担当教員

科目責任者: 修士課程教育委員長

連絡先: 学務部学務企画課大学院教務第二掛

TEL:03-5803-4534、Email: grad02@ml.tmd.ac.jp

2. 科目の教育方針

学内外のトップサイエンティストによる専門的な内容を含む講演やセミナーに積極的に参加し最先端の研究領域についての見識を広める。

3. 授業科目の教育内容および講義日時

本特論は、医歯学総合研究科医歯理工学専攻の全ての学生に対する共通必修科目である。医歯理工学研究における専門的かつ最新の知見を含む講演やセミナーに参加することによって、最先端の研究領域についての見識を広めることを目的とする。本特論の講義として該当するセミナー等は以下のとおりとする。

1) 学内で開催されるセミナー等

- ・大学院特別講義
- ・大学院セミナー
- ・難研セミナー
- ・生材研セミナー

2) 指導教員から推薦を受けたセミナー等(指導教員が学務企画課へ事前に照会すること。)

※上記のセミナー等は、参加制限なし(誰でも参加可能)、事前登録不要、無料のセミナーであることを原則とする。

今年度の大学院特別講義は次ページ一覧表のとおりとするが、日程、会場等の詳細は決定次第、掲示板及びホームページ等で随時周知する。

各セミナーについてのURLは、以下を参照のこと。

大学院特別講義、大学院セミナー http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/seminar/index.html

難研セミナー <http://www.tmd.ac.jp/mri/events/index.html>

生材研セミナー <http://www.tmd.ac.jp/i-mde/www/event/index.html>

4. 評価方法

8回以上の出席者が対象になる。8回を超える出席回数(20%)、セミナーで発言したかどうか・発言したセミナーの回数(20%)を加味して評価する。

5. 受講上の注意

所定の出席票を必ず使用して、1年次末までに聴講をすませること。自らが専攻しようとする専門分野ばかりでなく広範な研究領域のセミナーに参加することが望ましい。

出席票は、各講義・セミナーの担当教員に署名をもらう。出席票およびレポートは1年次の3月末までに学務企画課へ提出すること。

平成 27 年度大学院特別講義

◎特別講義（医学系分野主催）

No.	講義題目	講師	所属	担当分野
1	アジア太平洋地域における非感染症対策の現状と進捗評価指標の開発	Dr. Hai-Rim Shin	WHO西太平洋地域事務局・非感染症対策部長	国際保健医療協力学
2	医学研究をめぐる倫理的諸問題について	位田 隆一	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・特別客員教授	先進倫理医科学
3	身体疾患患者の困難な訴えに対応するコツ	堀川 直史	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック・教授	心療・緩和医療学
4	ミスフォールド蛋白質/MHCクラスII分子複合体による新たな自己免疫疾患発症機構	荒瀬 尚	大阪大学免疫学フロンティア研究センター・教授	生体防御学
5	小さな酵母細胞から見えて来たオートファジーの世界	大隅 良典	東京工業大学 フロンティア研究機構・教授	病態細胞生物学
6	染色体異常症候群における合併症の発症メカニズムの解明	北畠 康司	大阪大学 大学院医学系研究科・助教	発生発達病態学
7	胃がんの発生機構と早期診断治療に関する最近の進歩（仮題）	三木 一正	日本胃がん予知・診断・治療研究機構・理事長／東邦大学・名誉教授／がん研有明病院・顧問	人体病理学
8	グレリン 基礎から臨床へ	寒川 賢治	国立循環器病センター・研究所長	細胞生理学
9	脳に内在する再生機構	澤本 和延	名古屋市立大学大学院医学研究科 再生医学分野・教授	幹細胞制御
10	未定（睡眠、オレキシン関係）	柳沢 正史	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構（WPI-IIS）・機構長	腎臓内科学
11	定量プロテオミクスの最前線	夏目 徹	独立行政法人 産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター・研究センター長	システム発生・再生医学
12	急性白血病の理解と克服にむけた取り組み	石川 文彦	理化学研究所統合生命医科学研究センター グループディレクター・主任研究員	疾患モデル動物解析学
13	プロスタグランジン研究と産学連携	成宮 周	京都大学・メディカルイノベーションセンター長	分子内分泌代謝学
14	産業化を目指した同種軟骨細胞シートによる軟骨再生	佐藤 正人	東海大学 整形外科・教授	運動器外科学／応用再生医学（共催）
15	単一軸索の電気生理学：サブセラー記録による研究の進歩	神谷 温之	北海道大学医学研究科神経生物学分野・教授	システム神経生理学
16	脳発生および成体における神経幹細胞の運命制御	後藤 由紀子	東京大学薬学部分子生物学・教授	病態代謝解析学
17	未定	山本 昌昭	東京女子医科大学東医療センター・脳神経外科客員教授／医療法人浦川会勝田病院水戸ガンマハウス・脳神経外科部長	脳神経機能外科学
18	Optogeneticsを用いたグリア細胞の機能解析	松井 広	東北大学大学院医学系研究科・新医学領域創成分野・准教授	分子神経科学
19	情動の神経機能解剖学的解析	篠田 晃	山口大学大学院機能神経解剖学分野（山口大学医学部医学科）・教授	精神行動医科学
20	RNA editing異常による孤発性ALS発症メカニズム	郭 伸	国際医療福祉大学・特任教授	神経病理学
21	ALS診断と治療	梶 龍児	徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 神経科学分野（医学部神経内科）・教授	脳神経病態学
22	蛍光偏光顕微鏡開発とその応用	谷 知己	Associate Scientist, Marine Biological Laboratory, Woods Hole, Massachusetts, USA.	神経機能形態学
23	透明化技術について	上田 泰己	東京大学薬理学講座システムズ薬理学・教授	細胞薬理学
24	細胞の光パターンニング	中西 淳	独立行政法人物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点・独立研究者	細胞生物学

◎特別講義（歯学系分野主催）

No.	講義題目	講師	所属	担当分野
1	腸内環境を介した免疫制御の基礎的解明と免疫創薬・ワクチン開発への応用的展開	國澤 純	医薬基盤研究所ワクチンマテリアルプロジェクト	分子免疫学
2	腸内細菌学	本田 賢也	慶應義塾大学医学部	分子免疫学
3	未定	井本 遼勢	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	顎口腔外科学
4	未定	野原 幹司	大阪大学歯学部附属病院	顎口腔外科学
5	未定	木村 宏	東京工業大学生命工学研究科	顎口腔外科学
6	歯科における侵襲制御学	宮脇 卓也	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	疼痛制御学
7	局所麻酔薬が持つ性質 -臨床と基礎からの検討-	水間 謙三	岩手医科大学医学部	疼痛制御学
8	社会における小児歯科の役割	武井 啓一	武井歯科医院	小児歯科学
9	学校歯科医から見た地域歯科保健	長井 博昭	長井歯科診療所	小児歯科学
10	歯の移動の生体反応	山本 照子	東北大学大学院歯学研究科	咬合機能矯正学
11	OSAIに対する顎顔面手術の応用、特に上気道形態とその生理学的・流体力学的分析方法について	外木 守雄	日本大学歯学部	咬合機能矯正学
12	矯正臨床における諸問題とその解決に向けた試み	横 宏太郎	昭和大学歯学部	咬合機能矯正学
13	Useful Tips for Cephalometrics and CBCT imaging	宮下 邦彦	宮下矯正歯科医院	咬合機能矯正学
14	Technological Design of Dental Materials (仮題)	岡田 浩一	クラレメディカル株式会社	う蝕制御学
15	The material science behind cements and newly developed materials (仮題)	伏島 歩登志	株式会社ジーシー	う蝕制御学
16	Reconsideration of established endpoints of the dental treatment (仮題)	花田 信弘	鶴見大学歯学部	う蝕制御学
17	Technology in Dental Materials (仮題)	平田 広一郎	株式会社トクヤマデンタル	う蝕制御学
18	Cell to cell communication in oral biofilm (仮題)	泉福 英信	国立感染症研究所	う蝕制御学
19	Fluoride and Caries prevention (仮題)	福田 康	ライオン株式会社	う蝕制御学
20	Development of Preventive GLOMER based on PRG Technology (仮題)	Mark N Schwer	株式会社松風	う蝕制御学
21	咬合学を発展させるために	坂東 永一	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	摂食機能保存学
22	咬合学と歯科臨床	中野 雅徳	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	摂食機能保存学
23	レーザーで何ができるか？	嶋倉 道郎	奥羽大学歯学部	摂食機能保存学
24	未定	佐々木 啓一	東北大学大学院歯学研究科	摂食機能保存学
25	遊離端ブリッジについて	福島 俊士	鶴見大学歯学部	摂食機能保存学
26	未定	末瀬 一彦	大阪歯科大学歯科審美学室 大阪歯科大学歯科技工専門学校	摂食機能保存学
27	再生エナメル質による新しい歯科材料の開発 (仮題)	寺田 善博	奥羽大学歯学部	摂食機能保存学
28	インプラントの長期予後を獲得するための補綴装置の要件	近藤 尚知	岩手医科大学歯学部	摂食機能保存学
29	歯髄組織における免疫担当細胞と象牙芽細胞のクロストーク	大島 勇人	新潟大学大学院医歯学総合研究科	歯髄生物学
30	根管洗浄液の所要特性	木瀬 俊彦	株式会社ネオ製薬工業	歯髄生物学
31	根管充填用シーラーおよびガッタパーチャの所要特性	蒲原 敬	株式会社ジーシー	歯髄生物学
32	要介護高齢者に対する補綴治療	堀 一浩	新潟大学大学院医歯学総合研究科	部分床義歯補綴学
33	補綴的にみた顎骨再建	日比 英晴	名古屋大学大学院医学系研究科	部分床義歯補綴学
34	顎位と不定愁訴	西川 洋二	西川歯科医院	インプラント・口腔再生医学
35	リスクマネジメント	永山 正人	総合歯科クリニック永山ファミリー歯科	インプラント・口腔再生医学
36	インプラント治療におけるコンサルテーション	宮地 理津子	CURRENT・R株式会社	インプラント・口腔再生医学
37	脳における顔情報処理	永福 智志	福島県立医科大学医学部	認知神経生物学
38	動物のエピソード記憶	佐藤 暢哉	関西学院大学文学部	認知神経生物学
39	痛みの脳内機構	岩田 幸一	日本大学歯学部	認知神経生物学
40	ヒトの手操作運動の中枢性制御機構	大木 紫	杏林大学医学部	認知神経生物学
41	ヒストンの翻訳後修飾とエピジェネティクス	木村 宏	東京工業大学大学院生命工学研究科	分子発生学
42	頭部と心臓の発生連関	栗原 裕基	東京大学大学院医学系研究科	分子発生学

No.	講義題目	講師	所属	担当分野
43	歯科領域と膠原病・リウマチ性疾患	亀田 秀人	東邦大学医学部	分子細胞機能学
44	疾患エクソソームの解明と診断治療への応用	落谷 孝広	国立がん研究センター分子細胞治療研究分野	分子細胞機能学
45	Glycationと細胞応答	山本 博	金沢大学医薬保健学総合研究科	分子細胞機能学
46	未定	斉藤 正夫	山梨大学医学部	顎顔面外科学
47	社会とこどもの健康	藤原 武男	国立成育医療研究センター社会医学研究部	顎顔面矯正学
48	福祉工学への招待-ヒトの潜在能力を生かすモノづくり-	伊福部 達	東京大学高齢社会総合研究機構	顎顔面補綴学
49	見て触って聴いて分かる、音声科学	荒井 隆行	上智大学理工学部情報理工学科	顎顔面補綴学
50	音声・対話の分析技術をその応用	木村 晋太	株式会社アニモ	顎顔面補綴学
51	歯周組織再構築の今後の展望（仮題）	村上 伸也	大阪大学大学院歯学研究科	硬組織薬理学
52	生体適合性を有する3次元ナノ・マイクロパターン化足場材料による歯周組織再生（仮題）	田中 賢	山形大学大学院理工学研究科	硬組織薬理学
53	口腔疾患を司る歯界面科学の創成（仮題）	三浦 佳子	九州大学大学院工学研究院	硬組織薬理学
54	タンパク質機能改変技術による自己免疫疾患の分子病態解明と画期的治療法の開発（仮題）	角田 慎一	医薬基盤研究所創薬基盤研究部	硬組織薬理学
55	外分泌腺における分泌タンパク質の選別輸送	吉垣 純子	日本大学松戸歯学部	硬組織病態生化学
56	スフィンゴ脂質合成系の律速酵素の反応制御機構解明	生城 浩子	大阪医科大学医学部	硬組織病態生化学
57	骨免疫学の最前線（仮題）	高柳 広	東京大学大学院医学系研究科	分子情報伝達学
58	骨と多臓器の連関（仮題）	片山 義雄	神戸大学大学院医学研究科	分子情報伝達学
59	歯周病疾患遺伝子の検索	長澤 敏行	北海道医療大学歯学部	歯周病学
60	Periodontal Treatment and Socket Preservation Technique	Diego Borgese	Faculty of Medicine and Surgery, Catholic University of Rome	歯周病学
61	Periimplant Diseases, Revise 3	弘岡 秀明	スウェーデンデンタルセンター	歯周病学
62	いま、ペリオの世界で起きていること。	二階堂 雅彦	二階堂歯科医院歯周病・インプラントクリニック	歯周病学
63	統計学の基礎1	小林 航	千葉商科大学政策情報部	医療経済学
64	統計学の基礎2	小林 航	千葉商科大学政策情報部	医療経済学
65	非市場性サービスの質の評価と生産性の計測	乾 友彦	学習院大学国際社会学部	医療経済学
66	まちなか集積と医療経済分析	伊藤 由希子	東京学芸大学人文社会学系	医療経済学
67	米国での研究留学と臨床留学	林 千絵	吉野歯科診療所	歯学教育開発学
68	口腔機能向上プログラムの地域での実践	佐々木 勝忠	奥州市国保衣川歯科診療所	健康推進歯学
69	世界水準の予防歯科とGP-専門医療の連携を目指して-	築山 雄次	つきやま歯科医院	健康推進歯学
70	「8020の里」をめざして～地域歯科保健の実験室…30年間の報告～	中田 和明	香美町国民健康保険免塚歯科診療所	健康推進歯学
71	低付着性ガムの機能評価について（仮題）	坂ノ下 典正	ロッテ中央研究所基礎研究部	スポーツ歯医学
72	ジュニア期の外傷とマウスガード（仮題）	飯沼 光生	朝日大学歯学部	スポーツ歯医学
73	外傷歯における歯髄変化について	中村 幸生	吉田歯科医院	歯学教育システム評価学
74	保険診療の一環としての歯内治療	片岡 博樹	片岡歯科医院	歯学教育システム評価学
75	歯科臨床に役立つ精神医学概論	本村 春彦	川添記念病院精神科	歯科心身医学
76	社会と脳（仮題）	藤井 直敬	理化学研究所脳科学総合研究センター適応知性研究チーム	歯科心身医学
77	ヒューマンサービス専門職における発達モデル	中嶋 義文	三井記念病院精神科	歯科心身医学
78	医療事故情報収集等事業の現状と展望（仮題）	後 信	日本医療機能評価機構医療事故防止事業部 九州大学病院医療安全管理部	歯科心身医学
79	接着から考えるう蝕治療と修復処置「むし歯は治らない」から始めよう！	安田 登	キャビネ・ダンテール御茶ノ水	歯科医療行動科学
80	歯周治療と共に26年間の臨床から見えてきたこと	長谷川 嘉和	長谷川歯科医院	歯科医療行動科学
81	天然歯の保存から始まる歯科臨床	斎田 寛之	斎田歯科医院	歯科医療行動科学
82	長期経過症例（15年～30年）から部分床義歯を再考する	豊間 均	日本大学歯学部	歯科医療行動科学

課題研究

Research for Thesis

科目コード: 3004 1-2年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

研究課題に関する学位論文の完成を念頭に置き、医歯理工学における研究とは何かを学び、基本的研究遂行能力を培う。

概要

指導教員(および副指導教員)の指導のもとで研究活動を行う。

4. 授業の到達目標

教員の指導のもとに研究課題を設定し、これについての研究計画を立案する。必要な計画変更を加えつつ研究を遂行する。研究成果をまとめて考察を加え修士論文を作成する。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)の指定する方法

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

成績評価は、修士論文などから総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指示による

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定による

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)と普段からコミュニケーションを図ること。

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

医科学演習

Seminar of Medical Science

科目コード: 3005 1年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

指導教員(および副指導教員)を交えた少人数環境におけるセミナー等により、医科学研究に必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、情報収集能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力を身につける。

概要

指導教員(および副指導教員)の所属する分野や関連分野のセミナー、輪読会、ジャーナルクラブ、プロGRESSレポート等に参加し、医科学研究の最新知識や技術情報を学び、研究背景・方法および実験技術の基本を理解するなかで、研究に必要な基本能力を獲得する。

4. 授業の到達目標

医科学研究における、基本的プレゼンテーション能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力等を身につける。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)を交えた少人数環境におけるセミナー等

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

指導教員(および副指導教員)の指定による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定する参考書

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)とよく打ち合わせのこと

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

医科学実習

Practice of Medical Science

科目コード: 3006 1年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

一対一環境または少人数環境における実習指導により、医科学研究に必要な実際的な研究手法、研究技術、機器操作方法、データ解析方法、問題解決方法を身につける。

概要

立案した研究課題の遂行に必要な情報収集、実験、データ解析、問題解決のための情報収集法、実験技術や解析手法を学ぶ。

4. 授業の到達目標

医科学研究のための、情報収集法、実験手技、データ解析方法を習得し、研究遂行のための問題解決能力を培う。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)の分野のメンバーによる一対一環境または少人数環境における実習指導による。

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

指導教員(および副指導教員)の指定による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定する参考書

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)とよく打ち合わせのこと

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

歯科学演習

Seminar of Dental Science

科目コード: 3007 1年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

指導教員(および副指導教員)を交えた少人数環境におけるセミナー等により、歯科学研究に必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、情報収集能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力を身につける。

概要

指導教員(および副指導教員)の所属する分野や関連分野のセミナー、輪読会、ジャーナルクラブ、プロGRESSレポート等に参加し、歯科学研究の最新知識や技術情報を学び、研究背景・方法および実験技術の基本を理解するなかで、研究に必要な基本能力を獲得する。

4. 授業の到達目標

歯科学研究における、基本的プレゼンテーション能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力等を身につける。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)を交えた少人数環境におけるセミナー等

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

指導教員(および副指導教員)の指定による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定する参考書

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)とよく打ち合わせのこと

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

歯科学実習

Practice of Dental Science

科目コード: 3008 1年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

一対一環境または少人数環境における実習指導により、歯科学研究に必要な実際的な研究手法、研究技術、機器操作方法、データ解析方法、問題解決方法を身につける。

概要

立案した研究課題の遂行に必要な情報収集、実験、データ解析、問題解決のための情報収集法、実験技術や解析手法を学ぶ。

4. 授業の到達目標

歯科学研究のための、情報収集法、実験手技、データ解析方法を習得し、研究遂行のための問題解決能力を培う。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)の分野のメンバーによる一対一環境または少人数環境における実習指導による。

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

指導教員(および副指導教員)の指定による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定する参考書

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)とよく打ち合わせのこと

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

口腔保健学演習

Seminar of Oral Health Science

科目コード: 3009 1年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

指導教員(および副指導教員)を交えた少人数環境におけるセミナー等により、口腔保健学研究に必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、情報収集能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力を身につける。

概要

指導教員(および副指導教員)の所属する分野や関連分野のセミナー、輪読会、ジャーナルクラブ、プロGRESSレポート等に参加し、口腔保健学研究の最新知識や技術情報を学び、研究背景・方法および実験技術の基本を理解するなかで、研究に必要な基本能力を獲得する。

4. 授業の到達目標

口腔保健学研究における、基本的プレゼンテーション能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力等を身につける。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)を交えた少人数環境におけるセミナー等

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

指導教員(および副指導教員)の指定による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定する参考書

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)とよく打ち合わせのこと

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

口腔保健学実習

Practice of Oral Health Science

科目コード: 3010 1年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

一対一環境または少人数環境における実習指導により、口腔保健学研究に必要な実際の研究手法、研究技術、機器操作方法、データ解析方法、問題解決方法を身につける。

概要

立案した研究課題の遂行に必要な情報収集、実験、データ解析、問題解決のための情報収集法、実験技術や解析手法を学ぶ。

4. 授業の到達目標

口腔保健学研究のための、情報収集法、実験手技、データ解析方法を習得し、研究遂行のための問題解決能力を培う。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)の分野のメンバーによる一対一環境または少人数環境における実習指導による。

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

指導教員(および副指導教員)の指定による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定する参考書

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)とよく打ち合わせのこと

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

理工学演習

Seminar of Science and Engineering

科目コード: 3011 1年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

指導教員(および副指導教員)を交えた少人数環境におけるセミナー等により、理工学研究に必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、情報収集能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力を身につける。

概要

指導教員(および副指導教員)の所属する分野や関連分野のセミナー、輪読会、ジャーナルクラブ、プロGRESSレポート等に参加し、理工学研究の最新知識や技術情報を学び、研究背景・方法および実験技術の基本を理解するなかで、研究に必要な基本能力を獲得する。

4. 授業の到達目標

理工学研究における、基本的プレゼンテーション能力、文献検索能力、文献精読能力、論理的思考能力等を身につける。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)を交えた少人数環境におけるセミナー等

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

指導教員(および副指導教員)の指定による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定する参考書

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)とよく打ち合わせのこと

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

理工学実習

Practice of Science and Engineering

科目コード: 3012 1年次 4単位

1. 担当教員

指導教員(および副指導教員)

2. 主な講義場所

指導教員(および副指導教員)の分野の研究室等、指導教員(および副指導教員)が指定する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

一対一環境または少人数環境における実習指導により、理工学研究に必要な実際的な研究手法、研究技術、機器操作方法、データ解析方法、問題解決方法を身につける。

概要

立案した研究課題の遂行に必要な情報収集、実験、データ解析、問題解決のための情報収集法、実験技術や解析手法を学ぶ。

4. 授業の到達目標

理工学研究のための、情報収集法、実験手技、データ解析方法を習得し、研究遂行のための問題解決能力を培う。

5. 授業方法

指導教員(および副指導教員)の分野のメンバーによる一対一環境または少人数環境における実習指導による。

6. 授業内容

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

7. 成績評価の方法

指導教員(および副指導教員)の指定による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指導教員(および副指導教員)の指定する内容

9. 参考書

指導教員(および副指導教員)の指定する参考書

10. 履修上の注意事項

指導教員(および副指導教員)とよく打ち合わせのこと

11. オフィスアワー

指導教員(および副指導教員)の指定による

12. 備考

人体形態学・口腔形態学

Human Anatomy・Oral Anatomy, Histology and Embryology

科目コード: 3013・3014 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	寺田 純雄	神経機能形態学分野・教授	terada.nana@tmd.ac.jp
	柴田 俊一	顎顔面解剖学分野・教授	sshibata.mfa@tmd.ac.jp
科目担当者	中田 隆夫	細胞生物学分野・教授	nakata.cbio@tmd.ac.jp
	井上 明宏	細胞生物学分野・准教授	inoue.cbio@tmd.ac.jp
	秋田 恵一	臨床解剖学分野・教授	akita.fana@tmd.ac.jp
	田畑 純	硬組織構造生物学分野・准教授	tabatamj.bss@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

医歯学研究者として必要となる、人体の形態学的な研究方法についての基礎的な知識を与えること。

概要

中田教授、井上准教授: ヒト組織の構造と機能

秋田教授、人体構造とその機能

寺田教授、神経系の解剖・組織学

柴田教授: 歯学領域における解剖・組織学

田畑准教授: 硬組織の起源と進化・構造と機能

4. 授業の到達目標

生命科学の研究は、構造と物質と機能の三つの側面から生命現象を理解することによって進んできた。人体の構造を理解する為に、解剖学が生まれ、それは最も古典的な医歯学研究の手法として現在まで生き続けている。一方で最先端の生命科学研究では、単分子構造の解析や分子複合体の解析などにおいて、形態学は必須の研究手法となっている。このような多様な形態学の研究手法、形態学独自のものの見方を学生諸君に伝えることを目指す。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

筆記試験に基づいて評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

大学の生命系学部レベルを越える特段の予備知識や準備は要求しないが、生命科学科目の履修経験が十分でない場合は、大学教養レベルの生物学の教科書(簡略なもので構わない)を通読してから授業に臨むこと。

9. 参考書

細胞生物学・組織学関連

- (1) 細胞生物学・組織学の要点整理 Gartner et al. 山内訳 メディカルサイエンスインターナショナル
- (2) 最新カラー組織学 Gartner et al. 石村、井上監訳 西村書店
- (3) Molecular Cell Biology Lodish et al. Freeman and Co.
- (4) Molecular Biology of the Cell, Alberts et al. Garland

生物顕微鏡関連

- (1) 顕微鏡の使い方ノート 羊土社
- (2) 顕微鏡フル活用イラストレイテッド 秀潤社
- (3) Protein Localization by Fluorescence Microscopy Allan edit. Oxford Univ. Press

肉眼解剖学関連

- (1) ラングマン 人体発生学 Sadler 安田、沢野訳 メディカルサイエンスインターナショナル
- (2) トートラ 人体の構造と機能 Tortora, Grabowski 大野他訳 丸善
- (3) 岩波講座 現代医学の基礎3「人体のなりたち」坂井、佐藤編 岩波書店
- (4) 人体解剖学 藤田 南江堂

神経解剖学関連

- (1) 分冊解剖学アトラス3神経系と感覚器 文光堂
- (2) 図説中枢神経系 医学書院
- (3) The Human Brain and Spinal Cord, Heimer, Springer-Verlag

硬組織・歯学領域関連

- (1) 歯の比較解剖学 後藤、大泰司編 医歯薬出版
- (2) Bones and Cartilage, Hall, Springer-Elsevier
- (3) カラーエッセンシャル口腔組織・発生学 Avery 高野監訳 西村書店
- (4) Ten Cate's Oral Histology Nanci, Mosby
- (5) 新骨の科学 須田、小澤ら 医歯薬出版

10. 履修上の注意事項

講義を契機として上掲の参考書のうち気に入ったものを通読し、知識と理解を深めることを推奨する。

11. オフィスアワー

授業期間の午後5時から午後7時:科目責任者教授室

12. 備考

形態学は生命体のマクロから単分子構造までを対象とする幅広い学問分野であり、生命科学を探究する上での基盤として位置づけられる。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月10日 (金) 10:30~12:00	歯学領域における解剖・組織学(1) 3号館6階 大学院講義室	柴田 俊一
2	4月10日 (金) 13:00~14:30	ヒト組織の構造と機能(1) 3号館6階 大学院講義室	中田 隆夫
3	4月20日 (月) 10:30~12:00	歯学領域における解剖・組織学(2) 3号館6階 大学院講義室	柴田 俊一
4	4月20日 (月) 13:00~14:30	硬組織の構造と形成機構(1) 3号館6階 大学院講義室	田畑 純
5	4月21日 (火) 10:30~12:00	人体構造とその機能 3号館6階 大学院講義室	秋田 恵一
6	4月22日 (水) 10:30~12:00	ヒト組織の構造と機能(2) 3号館6階 大学院講義室	井上 明宏
7	4月23日 (木) 10:30~12:00	硬組織の構造と形成機構(2) 3号館6階 大学院講義室	田畑 純
8	4月24日 (金) 10:30~12:00	神経系の解剖・組織学 3号館6階 大学院講義室	寺田 純雄

人体機能学

Functional Organization of the Human Body

科目コード: 3015 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	杉原 泉	システム神経生理学分野・教授	isugihara.phy1@tmd.ac.jp
科目担当者	竹田 秀	細胞生理学分野・教授	shu-ky@umin.ac.jp
	黒川 洵子	生体情報薬理学分野・准教授	junkokuro.bip@mri.tmd.ac.jp
	田中 光一	分子神経科学分野・教授	tanaka.aud@mri.tmd.ac.jp
	菅波 孝祥	臓器代謝ネットワーク講座・教授	suganami.mem@tmd.ac.jp
	杉内 友理子	システム神経生理学分野・准教授	ysugiuchi.phy1@tmd.ac.jp
	内田 信一	腎臓内科学分野・准教授	suchida.kid@tmd.ac.jp
	渡邊 守	消化器病態学分野・教授	mamoru.gast@tmd.ac.jp
	藤江 俊秀	統合呼吸器病学分野・助教	tfujie.pulm@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

人体の各器官は生命活動を円滑に維持するために、それぞれの臓器・組織に特有な機能を発揮している。各々に特有な機能とその発現機構に関する知識を獲得、機能解析の方法論や機能破綻による障害や疾患の発症につながる基本事項を理解して、医学研究の進め方の基礎知識を習得する。

概要

各々の専門分野の教員が分担して、各器官系の機能的特徴、機能発現の機序、機能発現のための構造的基盤、機能破綻と障害・疾患の発症との関連、などについて講義する。

4. 授業の到達目標

医歯科学研究者を目指す者は、人体各器官・臓器・組織の生理学的機能の基礎的知識とその解析方法・基本理念を理解していることが必要とされる。生命活動を維持するために果たす人体各器官の機能とその発現機序、ならびにそれらについての機能解析の方法論などを体系的に教授する。

5. 授業方法

講義形式の授業を行う。PC制御プロジェクターと、紙媒体配付資料を用いる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業の参加状況と聴講態度(50%、ただし、2/3以上の出席が必要)、及びレポート(50%、課題は別表の下に記載)に基づいて総合的に評価を行う。学会出席等により授業の参加が2/3に満たない場合には、代わりの課題を課す。

8. 準備学習等についての具体的な指示

すでに終了している授業(特に形態学)を復習し、また、参考書にて、関係する部分を予習しておくのを勧める。

9. 参考書

御手洗監訳、ガイトン生理学原著第11版、エルゼビア・ジャパン、2010年、ISBN 978-4-86034-724-6
 鯉淵監訳、リッピンコットシリーズイラストレイテッド生理学、丸善出版、2014年、ISBN 978-4-621-08800-5
 Koeppen, Berne & Levy Physiology 6th Ed. Mosby Elsevier, 2010, ISBN 978-0-323-07362-2
 小澤瀬司ら編集、標準生理学、第7版、医学書院、2009年、ISBN 978-4-260-00301-8 (「前庭系の機能」,「心臓のリズム形成機能」)
 曾我部正博編、イオンチャネル、共立出版、1997年、ISBN-13: 9784320054684 (「イオンチャネル、トランスポーター、受容体」)
 黒川清編集、腎臓学: 病態生理からのアプローチ、南江堂、1995年、ISBN 9784524202331 (「腎臓」)
 須田立雄ら編著、新 骨の科学、医歯薬出版、2007年、ISBN 978-4-263-45609-5 (「骨格系の機能」)
 以上図書館で閲覧可能。内容が多岐にわたるので各授業内容の担当教員にも直接相談すること。

10. 履修上の注意事項

積極的に質問することを勧める。

11. オフィスアワー

内容に関しては各授業の担当教員に直接問い合わせること(上記連絡先参照)。

14. 備考

特になし。

【レポート課題】

人体機能学の講義のなかから2つ(※)の講義を選び、その講義から学んだことが各自の計画している修士課程の研究課題にどのようなヒントや着想を与えたか、またはそれぞれの研究領域にどのように応用しうるかについてA4用紙2枚程度で論じてください。

(※所属研究室の教員による講義がある場合は、それを除いた講義から2つ選ぶこと。書き直しと再提出を課す場合もある。特に、講義内容とそれからのヒントや着想を記述することが必要であり、それとは無関係に自分の研究課題について記述しているのでは評価は低い。)

提出期限:平成27年6月26日(金)

提出場所:学務部学務企画課大学院教務第二掛(1号館西1階) 03-5803-4534

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月18日(月) 8:50~10:20	「骨格系の機能」:骨組織の機能、代謝維持機構について、近年注目されている臓器連関の視点も含めて概説する(参考書一新 骨の科学(医歯薬出版)) 3号館6階 大学院講義室	竹田 秀
2	5月19日(火) 8:50~10:20	「前庭系の機能」:回転や上下の動きを感じるメカニズムと、体のバランスを保ち視線を固定するためのしくみについて解説する。(標準生理学,小澤静司,福田康一郎編集,医学書院) 3号館6階 大学院講義室	杉内 友理子
3	5月20日(水) 8:50~10:20	「イオンチャネル、トランスポーター、受容体」:膜興奮性の機能分子であるイオンチャネル、トランスポーター、受容体の生理的機能と構造について、基礎から最新の知見まで概説する。(イオンチャネル、曾我部編、共立出版) 3号館6階 大学院講義室	田中 光一
4	5月21日(木) 8:50~10:20	「肺の機能」:肺の重要な働きの一つにガス交換が挙げられる。呼吸運動とそれに伴う酸素と炭酸ガスの交換のメカニズムについて解説する。 3号館6階 大学院講義室	藤江 俊秀
5	5月25日(月) 8:50~10:20	「腎臓」:腎臓は体液の質と量の恒常性維持の中心に位置する臓器である。その機能を担う物質輸送について臓器レベルから分子レベルまでを解説する。(腎臓学:病態生理からのアプローチ,南江堂) 3号館6階 大学院講義室	内田 信一
6	5月26日(火) 8:50~10:20	「脂肪組織の多面性とメタボリックシンドローム」:内臓脂肪型肥満を背景として糖脂質代謝障害、高血圧症を重積して発症するメタボリックシンドロームの病態生理を理解するためには、脂肪組織の多面性を知ることが欠かせない。メタボリックシンドロームにおける脂肪組織の機能的意義について概説する。 3号館6階 大学院講義室	菅波 孝祥
7	5月27日(水) 8:50~10:20	「消化管の働き」:食道から大腸までの消化管は皮膚の200倍以上も外界に接し、どんな下等動物にも存在する古い器官である。消化管を保つために血管系・神経系・免疫系・内分泌系等全てが発達してきたとも考えられ、人体機能のプロトタイプとしての複雑な消化管の働きを解説する。 3号館6階 大学院講義室	渡邊 守
8	5月28日(木) 8:50~10:20	「心臓のリズム形成機能」:心臓がポンプとして有効に機能するためには、心臓全体が電氣的に統御され、収縮—弛緩をリズムカルに繰り返すリズム形成機能が必要である。今回の授業では、リズム形成機能とその破綻としての不整脈について解説する。 3号館6階 大学院講義室	黒川 洵子

病理病態学

Pathology

科目コード: 3016 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	岡澤 均	神経病理学分野・教授	okazawa.npat@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	北川 昌伸	包括病理学分野・教授	masa.pth2@tmd.ac.jp
	江石 義信	人体病理学分野・教授	eishi.path@tmd.ac.jp
	栢森 高	口腔病理学分野・助教	kayamori.mpa@tmd.ac.jp
	明石 巧	診断病理学分野・准教授	akashi.path@tmd.ac.jp
	小林 大輔	人体病理学分野・助教	d-koba.pth1@tmd.ac.jp
	沢辺 元司	保健衛生学研究科・教授	m.sawabe.mp@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

病変を形態学的に検出するための基礎的検索方法を先ず習得する。更に、色々の疾患で認められる病変の病因・発生機序を分析するための基礎となる病理学総論を理解させる。

概要

江石 教授: 病変検出の基礎的方法・病理学概論

北川 教授: 病理診断学の求める医学研究

明石 准教授: 環境と疾患

岡澤 教授: 細胞の損傷・細胞死 細胞の老化

江石 教授: 免疫系の異常

小林 助教: 循環障害とショック及び奇形

栢森 助教: 良性および悪性腫瘍

沢辺 教授: 急性及び慢性炎症

4. 授業の到達目標

特に病理学を専攻する者でなくても、研究する過程で細胞や組織の顕微鏡的或いは超微細形態学的変化の有無や性状を調べる必要が出てくると思われる。その際に、何が異常な病変なのか、その原因は何か、その原因がどのようなメカニズムで変化を引き起こしたのか、という点を判断できる基礎的能力を体系的に育てる。

5. 授業方法

パワーポイント等を用いて講義を行い、最後に質問等を受ける。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

講義内容について自発的に学習しておくことが望ましい。

9. 参考書

ロビンス基礎病理学 第7版 廣川書店（第1部 病理学総論）

標準病理学 第4版 医学書院

Robbins Pathologic Basis of Disease 6th Edition Saunders

10. 履修上の注意事項

講義内容を集中して聞き理解すること。

11. オフィスアワー

授業終了後に科目担当者と個別に相談のこと。あるいは科目責任者にメールでコンタクトすることは可。

12. 備考

他科目との関連性

神経疾患総論とは深い関係を持つ。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月7日（木） 10:30～12:00	1. 病理学的方法の基礎 2. 病理学概論 3号館6階 大学院講義室	北川 昌伸
2	5月11日（月） 10:30～12:00	1. 病理診断学の求める医学研究 2. 感染症の病理学 3号館6階 大学院講義室	北川 昌伸
3	5月12日（火） 10:30～12:00	1. 環境汚染と化学物質による傷害 2. 物理的因子による傷害 3. 栄養障害の病理学 3号館6階 大学院講義室	明石 巧
4	5月13日（水） 10:30～12:00	1. 細胞の損傷・細胞死の病理 2. 生体の老化の病理 3号館6階 大学院講義室	岡澤 均
5	5月14日（木） 10:30～12:00	1. 循環障害の病理学 2. ショックの機序と病態 3. 奇形の概論 3号館6階 大学院講義室	小林 大輔
6	5月18日（月） 10:30～12:00	1. 免疫の概論 2. 組織傷害の免疫学的機構 3. 自己免疫疾患 4. 生体の修復機構 3号館6階 大学院講義室	江石 義信
7	5月18日（月） 14:40～16:10	1. 良性及び悪性腫瘍の特徴 2. 腫瘍の疫学 3. 腫瘍の原因因子と発癌 3号館6階 大学院講義室	栢森 高
8	5月19日（火） 10:30～12:00	1. 急性炎症の病理学 2. 慢性炎症の病理学 3号館6階 大学院講義室	沢辺 元司

環境社会医歯学

Environmental/Social Health

科目コード: 3017 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野・教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	太田 伸生	国際環境寄生虫病学分野・教授	matata.vip@tmd.ac.jp
	上村 公一	法医学分野・教授	kuemura.legm@tmd.ac.jp
	中村 桂子	国際保健医療協力学分野・准教授	nakamura.ith@tmd.ac.jp
	村松 正明	分子疫学分野・教授	muramatsu.epi@tmd.ac.jp
	高瀬 浩造	研究開発学分野・教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
	伏見 清秀	医療政策情報学分野・教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
	吉田 雅幸	先進倫理医科学分野・教授	masa.vasc@tmd.ac.jp
	川渕 孝一	医療経済学分野・教授	kawabuchi.hce@tmd.ac.jp
	森尾 郁子	歯学教育開発学分野・教授	imorio.edev@tmd.ac.jp
	川口 陽子	健康推進歯学分野・教授	yoko.ohp@tmd.ac.jp
	上野 俊明	スポーツ医歯学分野・准教授	t.ueno.spmd@tmd.ac.jp
	荒木 孝二	歯学教育システム評価学分野・教授	k.araki.gend@tmd.ac.jp
	木下 淳博	教育メディア開発学分野・教授	kinoshita.emdv@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

社会における医歯理工学の役割と相互関係を理解する。

概要

太田教授 : 熱帯感染症対策、新興・再興感染症の社会的発生要因
 上村教授 : 法医学の役割、死因究明制度
 中村准教授 : 世界のさまざまな地域の健康課題に関わる基礎知識と分析の基礎技法
 河原教授 : 保健医療福祉分野のデータ分析、政策形成過程の解明とその評価
 村松教授 : ヒトゲノムの解析とその医療、福祉、ヘルスケアの応用
 高瀬教授 : 生命科学におけるデータマネジメント
 伏見教授 : 大規模医療機関における医療の質評価と経営的分析の方法論とデータ解析の実例
 診療情報の保管・参照・研究利用の法的問題と情報技術との関連
 吉田教授 : 医歯理工学研究に必要な生命倫理と研究倫理
 川渕教授 : わが国で展開されている医療政策の概念的骨子
 森尾教授 : 医学・歯学教育カリキュラムの開発
 川口教授 : 口腔疾患の予防およびオーラルヘルスプロモーションの進め方
 上野准教授 : 顎口腔領域に発生するスポーツ外傷の種類と成因、口腔防護装置マウスガードの効果と製法、顎口腔機能とスポーツパフォーマンスの関連性
 荒木教授 : 医学・歯学教育カリキュラムにおける評価
 木下教授 : 医療系教育におけるICT活用教育の実例
 ※ただし、今年度は別表の記載内容について講義を行うこととする。

4. 授業の到達目標

特に環境社会医歯学を専攻する者でなくとも、医歯理工学研究者を目指す諸君に、社会と医歯理工学との接点となる内容を体系的に教授する。

5. 授業方法

科目担当者の講義による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。

9. 参考書

社会医学事典. 高野健人、河原和夫、他編. 朝倉書店.
医療訴訟と専門情報. 福田剛久、高瀬浩造編. 判例タイムズ.
医学教育の理論と実践. 監訳: 鈴木康人、錦織宏. 篠原出版
テスト・スタンダード. 日本テスト学会編. 金子書房
その他、各教員が指示する。

10. 履修上の注意事項

講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。

11. オフィスアワー

毎日午前11:00から12:00 科目責任者 政策科学分野 河原教授室

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月20日(水) 10:30~12:00	保健医療福祉分野のデータ分析、政策形成過程の解明とその評価について解説する。 (3号館6階 大学院講義室)	河原 和夫
2	5月21日(木) 10:30~12:00	世界のさまざまな地域の健康課題に関わる基礎知識と分析の基礎技法を解説する。 (3号館6階 大学院講義室)	中村 桂子
3	5月25日(月) 10:30~12:00	生命科学におけるデータマネジメントの手法を解説する。 (3号館6階 大学院講義室)	高瀬 浩造
4	5月26日(火) 10:30~12:00	わが国で展開されている医療政策の概念的骨子について解説する。 (3号館6階 大学院講義室)	川淵 孝一
5	5月27日(水) 10:30~12:00	医学・歯学教育カリキュラムの開発方法について解説する。 (3号館6階 大学院講義室)	森尾 郁子
6	5月28日(木) 10:30~12:00	法医学の役割、死因究明制度について解説する。 (3号館6階 大学院講義室)	上村 公一
7	6月1日(月) 10:30~12:00	口腔疾患の予防およびオーラルヘルスプロモーションの進め方について解説する。 (3号館6階 大学院講義室)	川口 陽子
8	6月2日(火) 10:30~12:00	医歯理工学研究に必要な生命倫理と研究倫理について解説する。 (3号館6階 大学院講義室)	吉田 雅幸

口腔保健工学特論

Oral Health Engineering

科目コード: 3043 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	鈴木 哲也	口腔機能再建工学分野・教授	suzuki.opoe@tmd.ac.jp
科目担当者	高橋 英和	口腔機材開発工学分野・教授	takahashi.bmoe@tmd.ac.jp
	杉本 久美子	口腔基礎工学分野・教授	ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
	大木 明子	口腔基礎工学分野・准教授	moki.mfoe@tmd.ac.jp
	安江 透	口腔機材開発工学分野・講師	yasue.fpoec@tmd.ac.jp
	池田 正臣	口腔機能再建工学分野・講師	ikedada.csoe@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

口腔保健工学を支える基礎研究、基礎技術の多彩で具体的な応用例を学ぶことにより、幅広い問題解決についての知識を得ることを目的としている。

概要

口腔保健工学専攻の教員が担当し、口腔保健工学を支える研究・技術について各自の専門分野を基盤に講義する。

4. 授業の到達目標

口腔保健工学を支える研究成果・技術について、それぞれの開発・応用・機能及び問題点の各項目について議論し、基盤的な知識を具体的な応用に結びつける戦略について学ぶ。

5. 授業方法

配布資料とパワーポイントを用いた講義を中心とし、必要に応じて実際のサンプル等を用いるなどの方法も取り入れ、受講者が講義前後で自主学習することも可能なようにできるだけ配慮していく。

6. 授業内容

別表のとおり

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

担当教員が個々に指示するが、出来るだけ配布資料の事前配布によって準備学習を容易にし、講義時間内の理解を深めるように工夫していく。

9. 参考書

教科書・参考書・参考論文等は、科目担当者が指示する。

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

授業内容等に関する質問は、随時、科目担当者に相談すること。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月7日（水） 8:50～10:20	デジタルデンティストリーの新展開 （2号館2階 第3講義室）	鈴木 哲也
2	10月7日（水） 10:30～12:00	歯冠色の客観的評価方法 （2号館2階 第3講義室）	池田 正臣
3	10月13日（火） 13:00～14:30	歯科補綴物の作製で用いる加工方法とその精度 （2号館2階 第3講義室）	高橋 英和
4	10月13日（火） 14:40～16:10	歯科用修復材料の摩耗の評価方法と測定条件の影響 （2号館2階 第3講義室）	
5	10月14日（水） 13:00～14:30	補綴装置と唾液分泌機能・唾液成分および情動との関連 （2号館2階 第3講義室）	杉本 久美子
6	10月21日（水） 8:50～10:20	摂食嚥下機能と味覚・嗅覚刺激による機能改善 （2号館2階 第3講義室）	
7	10月21日（水） 10:30～12:00	高齢者の機能性義歯の製作とその3次元形態分析 （2号館2階 第3講義室）	鈴木 哲也
8	10月27日（火） 13:00～14:30	ガラス繊維を用いた歯科補綴材料の創生とその応用 （2号館2階 第3講義室）	高橋 英和
9	10月27日（火） 14:40～16:10	アディティブマニファクチャリング（積層造形法）に用いる材料とその特徴 （2号館2階 第3講義室）	
10	10月28日（水） 13:00～14:30	3D プリンターによる立体造形モデルの構築(1) （2号館2階 第3講義室）	鈴木 哲也
11	11月4日（水） 8:50～10:20	3D プリンターによる立体造形モデルの構築(2) （2号館2階 第3講義室）	
12	11月4日（水） 10:30～12:00	アタッチメントとミリングを応用した精密技工 （2号館2階 第3講義室）	安江 透
13	11月4日（水） 13:00～14:30	上顎欠損に対する上顎顎義歯とその製作法 （2号館2階 第3講義室）	大木 明子
14	11月17日（火） 8:50～10:20	下顎、舌欠損に対する顎義歯とその製作法 （2号館2階 第3講義室）	
15	11月17日（火） 10:30～12:00	顔面欠損に対する顔面補綴とその製作法 （2号館2階 第3講義室）	

口腔保健臨地実習

Oral Health Care Clinical Training

科目コード: 3018 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	品田 佳世子	口腔疾患予防学分野・教授	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
科目担当者	荒川 真一	生涯口腔保健衛生学・教授	s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
	遠藤 圭子	口腔健康教育学分野・准教授	usagi.ohce@tmd.ac.jp
	近藤 圭子	生涯口腔保健衛生学・講師	solan.ltoh@tmd.ac.jp
	小原 由紀	口腔健康教育学分野・講師	ohara.pvoh@tmd.ac.jp
	遠藤 慶子	地域・福祉口腔保健衛生学分野・講師	k-enohcw@tmd.ac.jp
	大塚 紘末	口腔疾患予防学分野・助教	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
	安田 昌代	歯学部附属病院・助教	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

具体的な日程、診療科、施設名は、実習前までに決定し、連絡する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

患者の口腔内状況、生活背景、基礎疾患等および地域の状況を把握し、口腔保健に関する問題・課題を発見する。また、それらを解決するための臨床口腔保健活動および地域口腔保健活動を効果的に展開するために必要な知識・技術・実践能力・評価方法等を、実習を通して習得する。

概要

- 1) 病院の患者について歯科衛生診断・計画を立案し、口腔疾患予防や保健指導などの実践を行う。
- 2) 基礎疾患を有する患者や地域住民の生活上の特徴をふまえ、口腔保健に関する問題・課題およびニーズを解決するため効果的な活動方法を、実践する。
- 3) 口腔保健事業の具体的な展開方法と口腔保健サービスの実践力と方法論および施策化の方法を習得するために、行政機関での実習を行う。
- 4) 地域口腔保健活動に関連する業種との連携を推進し、地域住民との協働活動、他職種連携、活動の施策化、地域住民活動の基盤づくりの方法を検討し、発表する。
- 5) その他

4. 授業の到達目標

歯学部附属病院、医学部附属病院における臨床実習および地域における臨地実習を行い、口腔保健に関する問題・課題を発見し、それらを解決するための臨床口腔保健活動および地域口腔保健活動を効果的に展開するために必要な知識・技術・実践能力・評価方法等を、実習を通して習得する。

5. 授業方法

臨床実習: 東京医科歯科大学歯学部附属病院において、患者の歯科保健指導および歯科予防処置を行う。

臨地実習: 本学医学部附属病院における口腔ケア等、学外の保健センター、学校、地域の施設等において見学実習等を行う。

6. 授業内容

具体的な日程、診療科、施設名は、実習前までに決定し、連絡する。

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

事前に説明を行う。

9. 参考書

担当教員が指示する。

10. 履修上の注意事項

日本の歯科衛生士免許を取得した者で、本学歯学部附属病院のオリエンテーションに出席した者(平成27年4月2日、3日予定)。

11. オフィスアワー

随時(事前にメールにて問い合わせください) 科目責任者 品田教授室(口腔疾患予防学分野)

12. 備考

遅刻および休む場合は、実習指導教員および科目責任者に連絡する(メールまたは電話)。事前に実習内容を担当教員に確認し、予習しておくこと。

病院実習

Visit Experience and Practice at Hospital Departments

科目コード: 3019 1年次 1単位

1. 担当教員

科目責任者: 修士課程教育委員長

連絡先: 学務部学務企画課大学院教務第二掛

TEL:03-5803-4534、Email: grad02@ml.tmd.ac.jp

	名前	分野・職名
科目担当者	小田 茂	歯科総合診療部・准教授
	秀島 雅之	回復系診療科・講師
	渡邊 守	光学医療診療部・部長・教授
	森田 定雄	リハビリテーション部・部長・准教授
	頼 建光	血液浄化療法部・部長・准教授
	梶原 道子	輸血部・部長・講師
	明石 巧	病理部・副部長・准教授
	大橋 勇	放射線部・副部長・准教授
	東田 修二	検査部・副部長・准教授

2. 主な講義場所

オリエンテーション(ガイダンス)にて、説明する。オリエンテーション(ガイダンス)については、受講学生に学務企画課より連絡する。

3. 授業目的・概要等

授業目的

人々が心身ともに健康な状態を維持するために、医療従事者が果たす役割及び実際の医療活動を理解することを目的として、医療現場を体験訪問する。このことにより、病と健康、ならびに病める人についての理解を深め、あわせて最先端の医療についての基本的知識を修得する。

概要

少人数グループで各診療科において見学実習を行なう。

4. 授業の到達目標

本学附属病院の最先端の医療現場を体験し、医療従事者との交流を通じて、医歯学研究者としての心構えを体得する。

5. 授業方法

少人数グループに分かれ、グループごとに5日間の実習期間中に毎日1つの診療部、計5つの診療部を回り、各診療部(診療科)で担当教員の指導のもとで見学実習を行なう。本科目の履修学生総数が判明した後に学務企画課で学生の班分けと診療科の割当を行なう。実習前にオリエンテーション(ガイダンス)を行い、ローテーション表を含む実習要項を配布し説明する。診療部ごとに、集合時間、集合場所が異なるので注意のこと。

6. 授業内容

ガイダンス(実習開始以前に1時間ほどで行う)

- [I] 患者の立場から病院・医療を観察する(理学療法部、血液浄化療法部)
- [II] 診断と病院機能を支える仕組みを理解する(病理部、放射線部、輸血部)
- [III] 診断と診療の実態を理解する(光学医療診療部、検査部)
- [IV] 歯科の診療内容を把握し、歯科医療に多雨する造形を深める(歯学部附属病院)

7. 成績評価の方法

各実習の参加、実習態度(50%、ただし2/3以上の参加が必要)及びレポート等(50%)から評価する。レポート課題(予定)は、『病院実習』での医療現場体験を通じてあなた自身が考えたことを1000字以内で述べよ。で、実習から約1ヶ月のうちに提出すること。具体的には、ガイダンスにおいて周知する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

オリエンテーション(ガイダンス)に必ず出席のこと。下の注意事項に留意のこと。

9. 参考書

「国立大学法人東京医科歯科大学医学部・医学部附属病院・大学院医歯学総合研究科・大学院保健衛生学科概要2014」・「国立大学法人東京医科歯科大学歯学部・歯学部附属病院・大学院医歯学総合研究科概要2014」から、附属病院の部分。そのほかの教科書・参考書等は授業中に指示される場合がある。

10. 履修上の注意事項

(1) 病院実習は、実際の医療現場を使用して行うので、事前に当該実習に係る実習要項をよく読み、医療人としての自覚を持ち、責任ある行動をとること。

(2) 欠席するときは学務企画課に欠席届を提出し、各実習の責任者もしくは担当教員に事前に必ず連絡をすること。(病気その他特別な事由以外の欠席は認めない。)

(3) 守秘義務を守ること(事前に誓約書に署名のこと)

(4) 実習上の注意事項

① きれいな白衣を着用のこと。

② 医療人として常識ある容姿・服装・態度で参加すること。(ジーンズ・Tシャツ、脱げやすい履き物、踵のないまたは高い履き物等禁止)

③ 香水等強い臭いの出るものは控えること。

④ 私語を慎むこと。

⑤ ネームプレート(学生証)を着用のこと。

⑥ 集合時間を守ること。

⑦ 指導教員の指示に従うこと。

⑧ 携帯電話の持ち込み禁止、または電源をOFFとすること。

⑨ その他(各実習先の指示に従う)

11. オフィスアワー

学務企画課または科目責任者へ問い合わせること。

12. 備考

履修は1年次に限る。なお、履修希望者が多数の場合は、履修者を制限することがある。

生化学

Molecular and Cellular Biology

科目コード: 3020 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	畑 裕	病態代謝解析学分野・教授	yuhammch@tmd.ac.jp
科目担当者	北嶋 繁孝	遺伝生化学分野・教授	kita.bgen@mri.tmd.ac.jp
	幸田 尚	エピジェネティクス分野・准教授	tkohda.epgn@mri.tmd.ac.jp
	稲澤 譲治	分子細胞遺伝学分野・教授	johinaz.cgen@mri.tmd.ac.jp
	井上 純	分子細胞遺伝学分野・講師	un.cgen@mri.tmd.ac.jp
	清水 重臣	病態細胞生物学分野・教授	shimizu.pcb@mri.tmd.ac.jp
	佐藤 憲子	分子疫学分野・准教授	nsato.epi@mri.tmd.ac.jp
	篠村 多摩之	結合組織再生学分野・准教授	t.shinomura.trg@tmd.ac.jp
	横山 三紀	硬組織病態生化学分野・准教授	m.yokoyama.bch@tmd.ac.jp
	信久 幾夫	幹細胞制御分野・准教授	nobuhisa.scr@mri.tmd.ac.jp

2. 主な講義室

別表のとおり

3. 授業目標・概要等

授業目標

生命の基本単位である細胞とその基盤であるゲノムについて理解する。また、ゲノムの維持と情報発現の乱れが細胞や生体にかかわる病態となって現れるのか、基本的な原理を理解すると共に、医歯科学研究の進め方の基礎知識を修得する。

概要

幸田准教授: ゲノムのエピジェネクス制御、ジェネティクスとエピジェネティクス

北嶋教授: ゲノム情報の転写と時空間的発現制御、および翻訳過程の制御

稲澤教授: ゲノムの変異と疾患、ヒトゲノムプロジェクト、ポストゲノム

井上講師: ゲノムの変異と疾患、ヒトゲノムプロジェクト、ポストゲノム

畑教授: コースの説明、生化学基礎の復習とがん細胞に見られる代謝

鹿川准教授: ゲノム情報の選択的活用と細胞分化

清水教授: 細胞死

佐藤准教授: ゲノムの複製・修復・組換え、ゲノムの修飾と発生、ゲノム疫学とパーソナルゲノム医療の基盤

横山准教授: 蛋白質の構造と機能

篠村准教授: 細胞外マトリックスの分子細胞生物学

4. 授業の到達目標

特に生化学を専攻する者でなくても、種々の研究の過程において分子生物学的・細胞生物学的手法や考え方が必要になると思われる。医歯科学研究者を目指す学生、医薬関連企業などへの就職を志望する学生が習得すべき、生命の基盤である細胞とゲノムに関する知識と解析方法を教授する。

5. 授業方法

パワーポイントを用いる講義による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価方法

参加状況と筆記試験(五択問題、マークシートによる客観的試験)による。ただし、講義14については、レポートで成績評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

11項に上げるような標準的な参考書の通読を心掛けてほしい。

9. 参考書

「分子生物学」(田沼靖一編、丸善)、「生化学分子生物学」(Elliott WH、東京化学同人)、

「ストライヤー生化学」、「細胞の分子生物学」(Molecular Biology of the Cell、Newton Press)

「ゲノムサイエンスの新たな挑戦」蛋白質核酸酵素12月増刊号2001年(共立出版)

「遺伝子医療革命」ゲノム科学が私たちを変える フランシス・S・コリンズ著、矢野真千子訳、2011 (NHK出版)

「デブリン生化学——臨床の理解のために 原書7版」(上代淑人、澁谷正史、井原康夫監訳、丸善)

10. 履修上の注意事項

講義で全てを網羅的にカバーすることは困難なので、各自、11項に上げるような標準的な参考書の通読を心掛けてほしい。

11. オフィスアワー

授業期間中と前後一週間。あらかじめメールで連絡してください。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月11日 (月) 8:50~10:20	1. コースの説明をする。 2. 生化学基礎の復習をする。 3. がんと代謝について解説する。	畑 裕
2	5月12日 (火) 8:50~10:20	3号館6階 大学院講義室	
3	5月13日 (水) 8:50~10:20	1. 遺伝子構造(エクソン、イントロ)と転写ユニット、プロモーターについて解説する。 2. 転写因子異常による疾患と転写症候群について解説する。 3. リボソームにおける翻訳制御の機構について解説する。 4. 転写開始、伸長、終結、リサイクリングの「転写サイクル」とその装置、転写制御因子と作用機構を解説する。 5. 転写の種類と、転写産物のプロセッシングについて解説する。	北嶋 繁孝
4	5月14日 (木) 8:50~10:20	3号館6階 大学院講義室	
5	5月15日 (金) 13:00~14:30	1. 核酸(DNA, RNA)の構造と機能を解説し、分子生物学のセントラルドグマについて説明する。 2. DNA複製機構と細胞周期制御を説明する。 3. 染色体の構造及び核内構造について解説する。 4. DNA修復、DNA組換え機構、及び疾患との関連について説明する。 5. 発生過程におけるDNAメチル化状態の変化について解説する。	佐藤 憲子
6	5月18日 (月) 13:00~14:30	3号館6階 大学院講義室	
7	5月19日 (火) 13:00~14:30	1. 生物に存在する2種類の遺伝情報について解析を行うジェネティクスとエピジェネティクスという2つの学問体系を説明する。 2. ゲノムのエピジェネティクス制御の基盤について解説する。 3. 哺乳動物におけるエピジェネティクス1(ゲノムインプリンティング) 4. 哺乳動物におけるエピジェネティクス2(クローン動物における遺伝子発現)	幸田 尚
8	5月20日 (水) 13:00~14:30	3号館6階 大学院講義室	
9	5月21日 (木) 13:00~14:30	1. ゲノム情報の選択的活用と細胞分化について解説する。	信久 幾夫
		3号館6階 大学院講義室	
10	5月22日 (金) 13:00~14:30	1. 遺伝性疾患の種類と発症機構について解説する。 2. 染色体異常の生成機構と疾患に関する知識を修得する。 3. 遺伝病の染色体・遺伝子解析技術の基礎知識と技術を理解し修得する。	稲澤 譲治
		3号館6階 大学院講義室	
11	5月22日 (金) 14:40~16:10	1. 疾患の遺伝子診断、分子標的治療、遺伝子治療に関する基礎知識を解析する。 2. ヒトゲノムプロジェクト、トランスクリプトミクス、プロテオミクスを解説する。	井上 純
		3号館6階 大学院講義室	
12	5月25日 (月) 13:00~14:30	1. ゲノム、環境因子、形質の関わりを研究する方法について解説する。 2. パーソナルゲノム情報に基づいたオミックス医療学を理解するための基礎知識を解説し、パーソナルゲノム医療の課題を考察する。	佐藤 憲子
		3号館6階 大学院講義室	
13	5月26日 (火) 13:00~14:30	1. 細胞死について解説する。	清水 重臣
		3号館6階 大学院講義室	
14	5月27日 (水) 13:00~14:30	1. 膜タンパク質の構造とアセンブリの解析の現状について解説する。 2. 膜タンパク質の細胞上での局在化における脂質の役割について解説する。	横山 三紀
		3号館6階 大学院講義室	
15	5月28日 (木) 13:00~14:30	1. 細胞外マトリックスの分子細胞生物学について解説する。	篠村 多摩之
		3号館6階 大学院講義室	

薬理学

Pharmacology

科目コード: 3021 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	黒川 洵子	生体情報薬理学分野・准教授	junkokuro.bip@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	永田 将司	薬物動態学分野・准教授	mna-mpha@tmd.ac.jp
	安原 真人	薬物動態学分野・教授	yasuhara.mpha@tmd.ac.jp
	田邊 勉	細胞薬理学分野・教授	t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp
	福田 哲也	血液内科学分野・助教	fuku.hema@tmd.ac.jp
	玉村 啓和	メディシナルケミストリー分野・教授	tamamura.mr@tmd.ac.jp
	古川 哲史	生体情報薬理学分野・教授	t_furukawa.bip@mri.tmd.ac.jp
	青木 和広	硬組織薬理学分野・准教授	kazu.hpha@tmd.ac.jp
	影近 弘之	薬化学分野・教授	kage.chem@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

薬物と標的高分子を、化学分子として認識させ、薬理作用を化合物間の相互作用として理解させる。薬物が生体に投与され作用を発揮するまでの過程を理解させる。臨床薬理学を通じて薬理作用を総合的に理解させる。

概要

受容体理論;自律神経・循環器薬と作用機序;中枢神経薬理学;レセプターと薬物の分子間相互作用、作用発現の分子機構;薬物の体内動態;硬組織に作用する薬物開発;抗癌剤の構造と作用機序;ペプチド創薬と薬理作用;抗炎症薬とその作用機序;ステロイドホルモンの作用;医薬品安全性。

4. 授業の到達目標

薬理学とは、薬物と生体との相互作用を研究する科学である。薬物作用を薬物と標的の生体高分子(蛋白質および核酸)の分子相互作用として捕らえ、構造化学的側面から理解する。更に薬物の体内挙動を薬物動態学的立場から講述し、薬物を生体内の標的分子に送達させるためのデリバリーシステムについて理解する。最後に医学歯学の臨床薬理学講義から薬物治療の基本概念を理解する。

5. 授業方法

授業は講義形式で行い、PC制御プロジェクターと配付資料を用いる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(50点)、小テスト(25点)、参加状況(25点)を総合して判定する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

すでに終了している授業(特に人体機能学)の復習をすることを勧める。

9. 参考書

教科書・参考書・参考論文等は授業内容に記載してある。

10. 履修上の注意事項

薬物と生体との相互作用について考慮しながら履修する。

11. オフィスアワー

授業開始1週間前から授業終了までの毎週金の午後3時から午後5時:教員室
尚, 内容が多岐にわたるため各授業内容の担当教員に直接相談するほうが望ましい。

12. 備考

予告なしに授業中に小テストを課すことがある。小テストの結果も成績評価の対象とする(成績評価の項を参考に
するように)。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月29日 (金) 13:00～14:30	Introduction 薬理学概論 (3号館6階 大学院講義室)	黒川 洵子
2	6月1日 (月) 13:00～14:30	薬物動態学(1) (3号館6階 大学院講義室)	永田 将司
3	6月2日 (火) 13:00～14:30	薬物動態学(2) (3号館6階 大学院講義室)	
4	6月3日 (水) 13:00～14:30	ペプチド創薬と薬理作用(1) (3号館6階 大学院講義室)	玉村 啓和
5	6月4日 (木) 13:00～14:30	ペプチド創薬と薬理作用(2) (3号館6階 大学院講義室)	
6	6月5日 (金) 13:00～14:30	末梢神経薬理学 (3号館6階 大学院講義室)	黒川 洵子
7	6月8日 (月) 13:00～14:30	循環薬理学 (3号館6階 大学院講義室)	古川 哲史
8	6月9日 (火) 13:00～14:30	神経情報伝達の薬理 (3号館6階 大学院講義室)	田邊 勉
9	6月10日 (水) 13:00～14:30	中枢神経薬理学 (3号館6階 大学院講義室)	
10	6月11日 (木) 13:00～14:30	医薬品の安全性 (3号館6階 大学院講義室)	安原 真人
11	6月12日 (金) 13:00～14:30	硬組織に作用する薬物開発(1) (3号館6階 大学院講義室)	青木 和広
12	6月15日 (月) 13:00～14:30	硬組織に作用する薬物開発(2) (3号館6階 大学院講義室)	
13	6月16日 (火) 13:00～14:30	抗癌剤とその作用機序 (3号館6階 大学院講義室)	福田 哲也
14	6月17日 (水) 13:00～14:30	抗炎症薬とその作用機序 (3号館6階 大学院講義室)	黒川 洵子
15	6月18日 (木) 13:00～14:30	ステロイドホルモン (3号館6階 大学院講義室)	影近 弘之

免疫学

Immunology

科目コード: 3022 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	鐺田 武志	免疫学分野・教授	tsubata.imm@tmd.ac.jp
科目担当者	鈴木 春巳	国立国際医療研究センター研究所・部長	
	烏山 一	免疫アレルギー学分野・教授	karasuyama.mbch@tmd.ac.jp
	反町 典子	国立国際医療研究センター研究所・プロジェクト長	
	東 みゆき	分子免疫学分野・教授	miyuki.mim@tmd.ac.jp
	久保 允人	東京理科大学・教授	
	北村 大介	東京理科大学・教授	
	檜木 俊聡	生体防御学分野・教授	ohteki.bre@tmd.ac.jp
	清水 則夫	フロンティア研究室ウイルス治療学・准教授	nshivir@tmd.ac.jp
	渡部 良広	鳥居薬品研究所・副所長	
	王 継揚	免疫学分野・特任講師	jywang.imm@mri.tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

免疫システムの成り立ちや免疫応答の仕組みなどの免疫学の基本的な概念を理解し、さらに、感染免疫や免疫疾患の解明と制御への展開を行なえる免疫学的思考法を身につける。

概要

リンパ球の発生や選択などの免疫システムの成り立ちや、免疫応答の基本的な仕組みを中心とした講義を行なうとともに、感染免疫や自己免疫、アレルギーなどの疾患の理解と薬剤開発も含めた免疫制御法の開発についての講義を行なう。

4. 授業の到達目標

学部生で免疫学に接することができなかった学生も対象として、免疫の基本的な仕組みにフォーカスをあてた講義を行なうとともに、受講者の積極的な参加により、免疫学的思考法を育成する。

5. 授業方法

通常の講義とともに、授業への積極的な参加を行なうよう、ディスカッション等を随時取り入れて授業を進める。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

試験の結果(70%程度)と授業への参加状況(30%程度)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

免疫学の基礎知識は必要とはしないが、生化学、分子生物学の基本的な知識が必要である。不十分な場合にはあらかじめ自習しておくこと。

9. 参考書

エッセンシャル免疫学 Peter Parham (監訳 笹月健彦)MEDSI

10. 履修上の注意事項

積極的に参加すること。

11. オフィスアワー

科目責任者。随時。あらかじめメール等により相談し、アポイントをとること。

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月9日（金） 8:50～10:20	免疫系の抗原認識 （3号館6階 大学院講義室）	鏑田 武志
2	10月9日（金） 10:30～12:00	免疫系の抗原認識 （3号館6階 大学院講義室）	
3	10月16日（金） 8:50～10:20	先天免疫 （3号館6階 大学院講義室）	反町 典子
4	10月16日（金） 10:30～12:00	Bリンパ球の発生と分化 （3号館6階 大学院講義室）	烏山 一
5	10月23日（金） 8:50～10:20	Tリンパ球の分化と選択 （3号館6階 大学院講義室）	鈴木 春巳
6	10月23日（金） 10:30～12:00	Tリンパ球の分化と選択 （3号館6階 大学院講義室）	
7	10月23日（金） 13:00～14:30	サイトカインとT細胞免疫応答 （3号館6階 大学院講義室）	久保 允人
8	10月30日（金） 8:50～10:20	液性免疫応答 （3号館6階 大学院講義室）	王 継揚
9	10月30日（金） 10:30～12:00	液性免疫応答 （3号館6階 大学院講義室）	
10	10月30日（金） 13:00～14:30	T細胞の活性化と免疫応答 （3号館6階 大学院講義室）	東 みゆき
11	11月6日（金） 8:50～10:20	粘膜免疫 （3号館6階 大学院講義室）	樗木 俊聡
12	11月6日（金） 10:30～12:00	Bリンパ球活性化とシグナル伝達 （3号館6階 大学院講義室）	北村 大介
13	11月13日（金） 8:50～10:20	ウイルス感染と免疫 （3号館6階 大学院講義室）	清水 則夫
14	11月13日（金） 10:30～12:00	ウイルス感染と免疫 （3号館6階 大学院講義室）	
15	11月20日（金） 8:50～10:20	免疫領域での薬剤開発 （3号館6階 大学院講義室）	渡部 良広

発生・再生科学

Developmental and Regenerative Bioscience

科目コード: 3023 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	仁科 博史	発生再生生物学分野・教授	nishina.dbio@tmd.ac.jp
科目担当者	関矢 一郎	応用再生医学分野・教授	sekiya.arm@tmd.ac.jp
	浅原 弘嗣	システム発生・再生医学分野・教授	asahara.syst@tmd.ac.jp
	田賀 哲也	幹細胞制御分野・教授	taga.scr@tmd.ac.jp
	西村 栄美	幹細胞医学分野・教授	nishscm@tmd.ac.jp
	宮坂 尚幸	小児・周産期地域医療学講座(寄附講座)・特任教授	n.miyasaka.gyne@tmd.ac.jp
	原田 理代	臨床解剖学分野・助教	harada.fana@tmd.ac.jp
	星 治	形態・生体情報解析学分野・教授	o-hoshi.aps@tmd.ac.jp
	金井 正美	疾患モデル動物解析学分野・教授	mkanai.arc@tmd.ac.jp
	平山 順	発生再生生物学分野・准教授	hirayama.dbio@mri.tmd.ac.jp
	黒柳 秀人	遺伝子発現制御研究室・准教授	kuroyana.end@tmd.ac.jp
	井関 祥子	分子発生学分野・教授	s.iseki.emb@tmd.ac.jp
	幸田 尚	環境エピゲノム分野・准教授	tkohda.epgn@tmd.ac.jp
	石野 史敏	エピジェネティクス分野・教授	fishino.epgn@tmd.ac.jp
	森尾 友宏	発生発達病態学分野・教授	tmorio.ped@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

個の発生を通して、医学生物学的知識を蓄えるだけでなく、まだ解明されていないパラダイムが何であるかを学び、それが明かされる事で期待されるインパクトを想像することで、サイエンス教育の本質に迫ることを目的とする。

概要

生命の誕生から発達まで、最新の分子生物学、遺伝学のレベルで概説する。また、小児成長における遺伝疾患を系統的に学習し、発生学を基盤とした、将来のstem細胞を用いた再生医療への展望を考える。

4. 授業の到達目標

発生・再生・生殖医学に関する基本的知識を学び、最先端の研究戦略を理解する。
医学と生物学の両面から、十分な情報を得て、この分野において深い洞察力をつけることを目標とする。

5. 授業方法

PowerPointを用いた講義を中心に行う。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業の参加状況(50点)及び試験(50点)に基づいて総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

「Developmental Biology」 SINAUER社 Scott F. Gilbert

「わかる実験医学シリーズ 発生生物学がわかる」 羊土社 編集／上野直人, 野地澄晴

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

随時 科目責任者 仁科博史 発生再生生物学分野 メールもしくは電話にて問合せのこと。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月6日 (火) 8:50～10:20	肝臓の発生と再生 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	仁科 博史
2	10月6日 (火) 10:30～12:00	間葉系幹細胞と再生医学(関節軟骨・半月板を例として) (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	関矢 一郎
3	10月13日 (火) 8:50～10:20	幹細胞からみた中枢神経系の発生と再生 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	田賀 哲也
4	10月13日 (火) 10:30～12:00	色素幹細胞や毛包幹細胞を中心とした組織幹細胞やニッチの話 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	西村 栄美
5	10月20日 (火) 8:50～10:20	ヒト胎児の発生と発育 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	宮坂 尚幸
6	10月20日 (火) 10:30～12:00	小児科における発生・発育に関わる疾患 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	森尾 友宏
7	10月20日 (火) 13:00～14:30	付属肢の発生 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	原田 理代
8	10月27日 (火) 8:50～10:20	原子間力顕微鏡によるヒト染色体の構造解析 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	星 治
9	10月27日 (火) 10:30～12:00	疾患モデルマウスの発生、再生医療への応用 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	金井 正美
10	10月27日 (火) 13:00～14:30	頭蓋顎顔面の発生と再生 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	井関 祥子
11	11月2日 (月) 8:50～10:20	モデル生物の発生と遺伝子発現制御 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	黒柳 秀人
12	11月2日 (月) 10:30～12:00	四肢をモデルとした発生分子生物学 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	浅原 弘嗣
13	11月2日 (月) 13:00～14:30	小型魚類を用いた発生再生研究 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	平山 順
14	11月10日 (火) 8:50～10:20	受精と生殖における分子生物学 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	幸田 尚
15	11月10日 (火) 10:30～12:00	エピジェネティクスと発生 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	石野 史敏

細胞生物学特論

Molecular Cell Biology

科目コード: 3024 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	樗木 俊聡	生体防御学分野・教授	ohteki.bre@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	澁谷 浩司	分子細胞生物学分野・教授	shibuya.mcb@mri.tmd.ac.jp
	仁科 博史	発生再生生物学分野・教授	nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp
	石野 史敏	エピジェネティクス分野・教授	fishino.epgn@mri.tmd.ac.jp
	中島 友紀	分子情報伝達学分野・准教授	naka.csi@tmd.ac.jp
	井関 祥子	分子発生学分野・教授	s.iseki.emb@tmd.ac.jp
	一條 秀憲	東京大学・教授	
	山梨 裕司	東京大学・教授	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

細胞の分化・増殖・活性化・死の分子機構について、さまざまな細胞・組織での情報交換・伝達の基本原理を学ぶ。

概要

生物個体を形成している個々の細胞・組織は、固有形質を保ちながらも、お互いに密接な情報交換を行い全体として統合のとれた生命活動を営んでいる。本特論では、各組織の細胞内・細胞間でどのような分子ネットワークを介して情報を交換しているのかについて講義を行う。

4. 授業の到達目標

各組織の細胞内・細胞間での情報交換・伝達の基本原理を学び、組織の恒常性維持機構、その破綻による疾患誘導機構を理解する。

5. 授業方法

パワーポイントを用いた通常授業に加え、適宜、質疑応答により理解度をチェックする。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(52点)と参加状況(48点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

特になし。

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

授業終了後に各科目担当者と個別に、または科目責任者とメールで相談することとする。

12. 備考
特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月19日（金） 13:00～14:30	樹状細胞の細胞生物学 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	檜木 俊聡
2	6月22日（月） 13:00～14:30	骨を構成する細胞のバイオロジー （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	中島 友紀
3	6月23日（火） 13:00～14:30	頭蓋顔面の先天異常 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	井関 祥子
4	6月24日（水） 13:00～14:30	エピジェネティクスからみた生命現象 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	石野 史敏
5	6月25日（木） 13:00～14:30	肝形成を制御するシグナル伝達系 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	仁科 博史
6	6月25日（木） 14:40～16:10	ストレスシグナルと疾患 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	一條 秀憲
7	6月26日（金） 13:00～14:30	形態形成を制御するシグナル伝達機構 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	澁谷 浩司
8	6月26日（金） 14:40～16:10	神経筋シナプス形成シグナルと疾患、制御 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	山梨 裕司

神経疾患特論

Introduction to Medical Neurosciences

科目コード: 3025 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中 光一	分子神経科学分野・教授	tanaka.aud@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	藤田 啓史	ジョンスホプキンス大学・研究員	
	岡澤 均	神経病理学分野・教授	okazawa.npat@mri.tmd.ac.jp
	杉原 泉	システム神経生理学分野・教授	isugihara.phy1@tmd.ac.jp
	味岡 逸樹	脳統合機能研究センター・准教授	iajioka.cbir@tmd.ac.jp
	渡瀬 啓	脳統合機能研究センター・准教授	keinuro@tmd.ac.jp
	田村 拓也	神経病理学分野・助教	tamtak.npat@mri.tmd.ac.jp
	相田 知海	分子神経科学分野・助教	aida.aud@mri.tmd.ac.jp
	岡田 隆	上智大学・教授	
	星野 幹雄	NCNP脳機能病態学分野・連携教授	hoshino@ncnp.go.jp
	吉川 武男	理化学研究所・チームリーダー	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

神経系の形成機序・生理機能や各種神経・精神疾患の病態・病因について、基本的な原理を理解すると共に、実際の研究の進め方の基礎知識を修得する。

概要

脳の形成機序から作動原理までの正常な脳機能、脳研究の基本的な方法論、脳機能破綻による精神神経疾患の概略に関して、講義を行う。また、学外の講師による、最新の精神神経疾患に関する特別講義も行う。

4. 授業の到達目標

脳の形成と生理機能の基本原則とその分子基盤について理解する。さらに、主要な精神神経疾患の病態に関する最新の知見を理解する。

5. 授業方法

講義形式と対話形式の併用

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、授業の参加状況(50点)と試験の総合点(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし

9. 参考書

- ・「脳神経科学イラストレイテッド」(羊土社)、「脳・神経科学入門講座(上・下)」(羊土社)
- ・「脳と神経—分子神経生物学入門」(共立出版)
- ・「記憶と脳」サイエンス社
- ・「Neuroscience—Exploring the brain」(Lippincott Williams & Wilkins)
- ・「From Neuron to Brain」(Sinauer)
- ・「精神の脳科学」(シリーズ脳科学6、東京大学出版会)
- ・「脳神経疾患の分子病態と治療への展開」(羊土社 ISBN:978-4-7581-0284-1 C3047)

10. 履修上の注意事項

特になし

11. オフィスアワー

内容が多岐にわたるので各授業内容の担当教員に直接相談すること。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月15日(月) 10:30~12:00	神経科学に用いられる研究方法を理解する1 (3号館6階 大学院講義室)	田中 光一
2	6月16日(火) 8:50~10:20	神経科学に用いられる研究方法を理解する2 (3号館6階 大学院講義室)	杉原 泉
3	6月16日(火) 10:30~12:00	脳の発生を理解する (3号館6階 大学院講義室)	星野 幹雄
4	6月17日(水) 8:50~10:20	神経幹細胞の制御 (3号館6階 大学院講義室)	味岡 逸樹
5	6月17日(水) 10:30~12:00	神経細胞分化の制御 (3号館6階 大学院講義室)	
6	6月18日(木) 8:50~10:20	記憶・学習のメカニズムを理解する (3号館6階 大学院講義室)	岡田 隆
7	6月18日(木) 10:30~12:00	小脳の機能を理解する (3号館6階 大学院講義室)	藤田 啓史
8	6月22日(月) 8:50~10:20	疾患と学習記憶 (3号館6階 大学院講義室)	田村 拓也
9	6月22日(月) 10:30~12:00	精神神経疾患のゲノムを解読する (3号館6階 大学院講義室)	相田 知海
10	6月23日(火) 8:50~10:20	精神神経疾患のゲノムを操作する (3号館6階 大学院講義室)	
11	6月23日(火) 10:30~12:00	精神疾患のメカニズムを理解する (3号館6階 大学院講義室)	吉川 武男
12	6月24日(水) 8:50~10:20	神経変性疾患のメカニズムを理解する1 (3号館6階 大学院講義室)	渡瀬 啓
13	6月24日(水) 10:30~12:00	神経変性疾患のメカニズムを理解する2 (3号館6階 大学院講義室)	岡澤 均
14	6月25日(木) 8:50~10:20	グリア細胞の機能を理解する (3号館6階 大学院講義室)	田中 光一
15	6月25日(木) 10:30~12:00	脳発達障害を起こす疾患を理解する (3号館6階 大学院講義室)	田中 光一

遺伝医学特論

Introduction to Human Molecular Genetics

科目コード: 3026 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	稲澤 謙治	分子細胞遺伝学分野・教授	johinaz.cgen@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	北嶋 繁孝	遺伝生化学分野・教授	kita.bgen@mri.tmd.ac.jp
	木村 彰方	遺伝制御学分野・教授	akitis@mri.tmd.ac.jp
	秋山 好光	分子腫瘍医学分野・講師	yakiyama.monc@tmd.ac.jp
	三木 義男	遺伝子応用医学分野・教授	miki.mgen@mri.tmd.ac.jp
	菅波 孝祥	臓器代謝ネットワーク講座・特任教授	suganami.mem@tmd.ac.jp
	石野 史敏	エピジェネティクス分野・教授	fishino.epgn@mri.tmd.ac.jp
	久保田 俊郎	生殖機能協同学・教授	t.kubota.gyne@tmd.ac.jp
	井上 純	(難研)分子細胞遺伝分野・講師	jun.cgen@mri.tmd.ac.jp
	鹿島田 健一	発生発達病態学分野・講師	kkashimada.ped@tmd.ac.jp
	田中 裕二郎	ゲノム構造制御分野・准教授	ytanaka.bgen@mri.tmd.ac.jp
	田中 敏博	疾患多様性遺伝学分野・教授	ttana.brc@tmd.ac.jp
	岡田 随象	疾患多様性遺伝学分野・講師	yokada.brc@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

遺伝医学の基礎から最先端のゲノム医学までの知識を修得する一方、疾患と遺伝子に関してその発症メカニズム、診断、治療、予防ならびに生命倫理までを学ぶ。

概要

稲澤 謙治: 遺伝疾患の基礎、ゲノム解析と疾患遺伝子の分析技術、ゲノム応用医学、遺伝子と癌

岡田随象: ヒトゲノムの多様性と疾患、遺伝統計学の基礎

北嶋 繁孝: ヒトDNAの変異、転写共役修復と疾患

木村 彰方: 遺伝医学と生命倫理

秋山 好光: ヒトDNAの突然変異と不安定性、ヒト遺伝子と癌

三木 義男: ヒト遺伝子と生活習慣病

菅波 孝祥: 疾患モデル動物の作製と遺伝子治療

石野 史敏: エピジェネティクスと疾患

小崎 健一: ゲノム解析手法と遺伝疾患の診断

鹿島田健一: 小児科領域の遺伝疾患

田中裕二郎: ゲノム構造と機能

久保田俊郎: 生殖・発生と遺伝医学

田中敏博: 循環器領域の臨床遺伝学

4. 授業の到達目標

ヒトゲノム塩基配列の全容が明らかになった。このポストシーケンス時代にあって疾患の本態を理解し、その診断、治療、さらに予防を視野に入れた医学研究を展開するには、遺伝医学の知識は必須である。本講義では、遺伝医学の基礎知識と研究手法を教授するだけでなく、生命の誕生から終焉までのヒトの生涯で起きる生命現象と、その破綻によって起きるさまざまな疾患の発症メカニズムを説きながら、基礎から最先端までの疾患遺伝学、ゲノム応用医学を教授する。

5. 授業方法

パワーポイントを用いたセミナー形式の講義。講義資料を用意することもある。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

本科目の最終日に試験を課しその結果 (60点) とともに参加状況 (40点) を勘案して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

予め授業内容欄を参考に関連知識の涵養に努め、質問事項等を準備しておくことで講義の理解が深まる。

9. 参考書

1. The Biology of Cancer. Weinberg RA. Garland Science, Taylor & Francis Group 2006.
2. Human Molecular Genetics. Strachan T. & Read AP. Bios Scientific Publisher 2nd Ed.
3. (上記日本語訳) ヒトの分子遺伝学. 村松正実監修メディカルサイエンスインターナショナル
4. Molecular Biology of The Cell (4th ed) Alberts B. 他
5. (上記日本語訳) 細胞の分子生物学・第3版 松原謙一他監訳 Newton Press

6. ゲノムから生命システムへ 蛋白質核酸酵素 12月増刊2005(共立出版)
7. Genomes. Brown T.A. Bios Scientific Publisher 3rd Ed. 2007
8. (上記日本語訳)ゲノム 第3版. 村松正実監訳メディカルサイエンスインターナショナル
9. 生命科学. 柳田充弘、佐藤文彦、石川冬木編 2004年2月刊(東京化学同人)
10. がん研究のいま「がんの診断と治療」中村祐輔、稲澤譲治編著 2006年2月刊(東大出版)
11. 遺伝子医療革命ーゲノム科学が私たちを変えるー フランシス・S・コリンズ著
矢野真千子訳、2011 (NHK出版)
12. Thompson&Thompson Genetics in Medicine, 7th Edition. Nussbaum R et al. Saunders.
13. (上記日本語訳)トンプソン&トンプソン 遺伝医学. 福嶋義光監訳 メディカルサイエンスインターナショナル
14. 遺伝医学 やさしい系統講義18講 監修 福嶋義光、編集 第55回日本人類遺伝学会大会事務局 2013 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)

10. 履修上の注意事項

特になし

11. オフィスアワー

授業内容等の問い合わせに関しては、科目責任者および科目担当者に電子メール等で随時連絡を取ることに、適宜これに対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月1日 (月) 8:50~10:20	遺伝医学の基礎(現状と展望)について学ぶ。 1) 遺伝医学の歴史 2) ヒトメンデル遺伝の特徴 遺伝子異常と癌の発生機構、診断、予防に関して理解する。 1) 癌抑制遺伝子と遺伝性腫瘍 2) 癌遺伝子の活性化と発がん 3) ゲノム情報と医療 (3号館6階 大学院講義室)	稲澤 譲治
2	6月2日 (火) 8:50~10:20	ヒトゲノムの多様性が疾患にどう関わっているのか、遺伝統計学を通じて学ぶ。 1) ヒトゲノムの多様性と遺伝統計学 2) ヒト疾患におけるゲノム解析の進歩 (3号館6階 大学院講義室)	岡田 随象
3	6月3日 (水) 8:50~10:20	クロマチンの基本構造とその制御機構を理解する。 1) ヒストン修飾酵素のはたらき 2) クロマチン構造の解析法 3) クロマチン構造に起因する疾患 (3号館6階 大学院講義室)	田中 裕二郎
4	6月3日 (水) 10:30~12:00	遺伝子異常とヒト疾患の発生機構、診断、予防に関して理解する。 1) ヒトの病気と遺伝子の関わり 2) ヒト疾患の原因遺伝子の同定と診断、治療 3) 遺伝子多様性と個別化医療 (3号館6階 大学院講義室)	三木 義男
5	6月4日 (木) 8:50~10:20	遺伝子改変モデル動物の基礎と疾患解明への戦略を理解する。 1) トランスジェニック技術と遺伝子ターゲティング 2) 遺伝子治療の現状と展望 (3号館6階 大学院講義室)	菅波 孝祥
6	6月4日 (木) 10:30~12:00	ゲノム研究の成果、応用と生命倫理について学ぶ。 1) ヒトゲノム・遺伝子解析研究のガイドライン 2) 遺伝子診断と遺伝カウンセリング 3) トランスレーショナルメディスン (3号館6階 大学院講義室)	木村 彰方
7	6月8日 (月) 8:50~10:20	小児科領域の遺伝疾患の病態と臨床を学ぶ (1) 胎児発生と出生前診断 (2) 小児の代表的な先天性疾患 (3号館6階 大学院講義室)	鹿島田 健一
8	6月8日 (月) 10:30~12:00	婦人科領域と遺伝性疾患、遺伝医学に関して学ぶ。 1) 生殖と発生の分子機構 2) 生殖と発生の異常による疾患 (3号館6階 大学院講義室)	久保田 俊郎
9	6月9日 (火) 8:50~10:20	ゲノム不安定性のメカニズムと、疾患との関連を理解する。 1) DNA変異と転写共役修復、その傷害による疾患 2) 遺伝子異常、タンパク質異常と細胞死 (3号館6階 大学院講義室)	北嶋 繁孝
10	6月9日 (火) 10:30~12:00	疾患におけるヒトゲノムの多様性の意義を学ぶ。 1) ヒトゲノムの多様性 2) ヒトゲノムプロジェクト 3) 家系解析による疾患遺伝子の同定 4) 集団解析による疾患遺伝子の同定 (3号館6階 大学院講義室)	木村 彰方
11	6月10日 (水) 8:50~10:20	DNA損傷と遺伝的不安定性に関して理解する。 1) 遺伝的不安定と疾患 2) 遺伝的不安定性と癌 (3号館6階 大学院講義室)	秋山 好光
12	6月10日 (水) 10:30~12:00	ゲノムの解析手法に関する基本知識と遺伝医学への応用を理解する。 1) 細胞培養技術と染色体分析、染色体異常症 2) 各種ゲノム解析技術 (3号館6階 大学院講義室)	井上 純
13	6月11日 (木) 8:50~10:20	ヒトを含む哺乳類の個体発生・成長におけるエピジェネティック制御について学ぶ。 1) ゲノムインプリンティング 2) エピジェネティクス異常に起因する疾患 (3号館6階 大学院講義室)	石野 史敏
14	6月11日 (木) 10:30~12:00	循環器領域における遺伝要因に関して学ぶ。 1) 単一遺伝子疾患 2) 生活習慣病としての循環器疾患 3) 遺伝情報に基づく薬剤の使い分け (3号館6階 大学院講義室)	田中 敏博
15	6月15日 (月) 8:50~10:20	ゲノム情報に基づく個別化医療の社会実装(当該科目試験を実施する) (3号館6階 大学院講義室)	稲澤 譲治

口腔保健福祉学

Oral Health Generic Care Sciences

科目コード: 3027 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	品田 佳世子	口腔疾患予防学分野・教授	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
科目担当者	荒川 真一	生涯口腔保健衛生学分野・教授	s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
	遠藤 圭子	口腔健康教育学分野・准教授	usagi.ohce@tmd.ac.jp
	小野寺 光江	健康支援口腔保健衛生学分野・講師	m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp
	遠藤 慶子	地域・福祉口腔保健衛生学分野・講師	k-enohcw@tmd.ac.jp
	近藤 圭子	生涯口腔保健衛生学分野・講師	solan.ltoh@tmd.ac.jp
	小原 由紀	口腔健康教育学分野・講師	ohara.pvoh@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

口腔保健の計画実践方法を理解する。さらに、人々の健康と生活を支える口腔保健福祉の実践・政策の現状と方法論、地域を基盤とした医療・保健・福祉のネットワークの現状と方法論について理解する。

概要

- (1)口腔保健の概論および実践方法(口腔保健の概念、口腔保健と隣接領域、諸外国と我が国における口腔保健の歴史と現状、口腔保健に関わる専門職の特徴と役割)
- (2)口腔保健福祉の実践・政策の現状(歯科衛生士による実践の現状と課題、歯科衛生士を取り巻く制度・政策の現状と課題、口腔保健福祉が支援する人々の生活実態とニーズ)
- (3)口腔保健福祉の方法論(口腔保健福祉におけるヘルスプロモーションの活用、口腔保健福祉における国際生活機能分類の活用、口腔保健福祉における個別援助技術・集団援助技術の活用)
- (4)地域を基盤とした医療・保健・福祉のネットワークの現状(歯科保健医療と隣接領域のフォーマル・ネットワーク、地域住民のインフォーマル・ネットワークと健康教育)
- (5)地域を基盤とした医療・保健・福祉のネットワークの方法論(医療・保健・福祉のシームレスな地域包括ケア・ネットワーク、コミュニティ・オーガニゼーションの活用)
- (6)課題研究:口腔保健福祉と各自の研究と、両方に関連する英語の文献を検索し、文献内容に関して発表を行う。

4. 授業の到達目標

国民一人ひとりが健康で質の高い生活を営むうえで基礎的かつ重要な役割を果たす口腔保健を実践するための高度な知識を教授するとともに、人々の健康と生活を支える口腔保健福祉の実践・政策及び地域を基盤とした医療・保健・福祉のネットワークについて、その現状と方法論を教授する。

5. 授業方法

講義および課題発表

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は課題の提出資料(20点)、発表(30点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

授業中に説明する。

9. 参考書

担当教員が指示する。

10. 履修上の注意事項

課題の資料提出と発表は必ず行うこと。

11. オフィスアワー

随時(事前にメールにて問い合わせください) 科目責任者 品田教授室(口腔疾患予防学分野)

12. 備考

遅刻および休む場合は、科目責任者に連絡する(メールまたは電話)。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月7日 (水) 8:50～10:20	口腔保健の概論と実践方法Ⅰ 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	品田 佳世子
2	10月7日 (水) 10:30～12:00	口腔保健の概論と実践方法Ⅱ 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	
3	10月14日 (水) 8:50～10:20	口腔保健に関わる専門職の特徴と役割 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	近藤 圭子
4	10月14日 (水) 10:30～12:00	口腔保健の歴史と現状 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	遠藤 圭子
5	10月21日 (水) 8:50～10:20	歯科医療の臨床と口腔保健Ⅰ 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	荒川 真一
6	10月21日 (水) 10:30～12:00	歯科医療の臨床と口腔保健Ⅱ 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	
7	10月28日 (水) 8:50～10:20	口腔保健福祉に関する研究デザイン 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	品田 佳世子
8	10月28日 (水) 10:30～12:00	口腔保健福祉に関する課題(英語論文) 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	
9	11月4日 (水) 8:50～10:20	地域住民のインフォーマル・ネットワークと健康教育 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	遠藤 圭子
10	11月4日 (水) 10:30～12:00	口腔保健医療と隣接領域のフォーマル・ネットワーク 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	小野寺 光江
11	11月11日 (水) 8:50～10:20	口腔保健福祉における生活機能評価 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	小原 由紀
12	11月11日 (水) 10:30～12:00	口腔保健福祉が支援する人々の生活と相談援助 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	遠藤 慶子
13	11月18日 (水) 8:50～10:20	医療・保健・福祉のシームレスな地域包括ケア・ネットワーク 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	
14	11月18日 (水) 10:30～12:00	日本の介護福祉政策の課題(超高齢未来の課題) 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	
15	11月25日 (水) 8:50～10:20	課題発表 1号館西7階 口腔保健学科第1講義室	品田佳世子、他

バイオインフォマティクス

Bioinformatics

科目コード: 3028 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中 敏博	疾患多様性遺伝学分野・教授	ttana.brc@tmd.ac.jp
科目担当者	石川 俊平	ゲノム病理学分野・教授	sish.gpat@mri.tmd.ac.jp
	岡田 随象	疾患多様性遺伝学分野・テニユアトラック講師	yokada.brc@tmd.ac.jp
	浦山 ケビン	疾患多様性遺伝学分野・テニユアトラック講師	kevurayama@gmail.com
	谷本 幸介	難治疾患研究所ゲノム解析室・助教	ktani.nri@mri.tmd.ac.jp
	重水 大智	理化学研究所統合生命医科学研究センター・研究員	d.shigemizu@src.riken.jp
	藤本 明洋	理化学研究所統合生命医科学研究センター・副チームリーダー	afujircb@src.riken.jp
	佐藤 健吾	慶應義塾大学理工学部・講師	satoken@bio.keio.ac.jp
	田中 紀子	国立国際医療研究センター臨床研究センター・室長	ntanaka@hosp.ncgm.go.jp
	武田 浩一	日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所・技術理事	TAKEDASU@jp.ibm.com

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

バイオインフォマティクスの基本的な概念から、基礎研究・臨床研究、あるいは臨床の現場における利活用法まで、最先端の知識を包括的に修得する。

概要

バイオインフォマティクスは「生物」の持つ多様な膨大な情報から有用・有益なものを抜き出し、研究等に用いる。近年の次世代型シーケンサー・マイクロアレイ技術等、大量高速な情報取得技術の急速な発展に伴い、「ビッグデータ」がさまざまな場面で出現している現状を鑑みると、バイオインフォマティクスは近い将来、あらゆる解析研究に必須となることは明らかである。本講義においては、医学的な観点(課題解決型)からのみならず、理工学の面(真理追求型)から見たバイオインフォマティクスについても対象とする。すなわち、基礎研究から臨床応用研究まで幅広い領域にわたってバイオインフォマティクスを活用して先端的な研究を行っている講師陣による現状の概説、さらには臨床の現場での近未来の活用法についても講義を行う。

4. 授業の到達目標

さまざまな研究領域において活用されているバイオインフォマティクスにつき、研究の第一線の現状を認識し、将来の方向性を考える上での幅広い知識を習得する。

5. 授業方法

パワーポイントによるセミナー形式で講義を実施する。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(40点)と参加状況(4点×15回)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

以下にあげた参考書に目を通し、最前線の研究についての講義が十分理解できるよう、背景の理解をしておくことが望ましい。

9. 参考書

1. はじめてのバイオインフォマティクス（講談社 ISBN-10: 4061538624）
2. 実践 バイオインフォマティクス－ゲノム研究のためのコンピュータスキル－（オライリー・ジャパン ISBN-10: 4873110688）
3. バイオインフォマティクスのためのアルゴリズム入門（共立出版 ISBN-10: 4320056507）

10. 履修上の注意事項

本講義の最終日にレポートの提出が必要である。課題は第1回の講義の際に提示する。

11. オフィスアワー

月・火・木 午前9:00から10:00

水・金 午後6:00から7:00 科目責任者 田中教授室（内線4660）

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月8日（金） 10:30～12:00	バイオインフォマティクス概論 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	田中 敏博
2	5月15日（金） 8:50～10:20	遺伝統計学概論（1） （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	岡田 随象
3	5月15日（金） 10:30～12:00	遺伝統計学概論（2） （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	
4	5月22日（金） 8:50～10:20	疫学研究における情報学概論（1） （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	浦山 ケビン
5	5月22日（金） 10:30～12:00	疫学研究における情報学概論（2） （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	
6	5月29日（金） 8:50～10:20	RNA配列情報解析概論（1） （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	佐藤 健吾
7	5月29日（金） 10:30～12:00	RNA配列情報解析概論（2） （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	
8	6月5日（金） 8:50～10:20	疾患ゲノミクス概論（1） （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	石川 俊平
9	6月5日（金） 10:30～12:00	疾患ゲノミクス概論（2） （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	
10	6月12日（金） 8:50～10:20	次世代型シーケンサーを用いたゲノム情報解析 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	谷本 幸介
11	6月12日（金） 10:30～12:00	臨床研究における情報学 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	田中 紀子
12	6月19日（金） 8:50～10:20	人工知能ワトソンの医療への応用 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	武田 浩一
13	6月19日（金） 10:30～12:00	癌ゲノム解析の実際 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	藤本 明洋
14	6月26日（金） 8:50～10:20	遺伝性疾患のエクソーム解析の実際 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	重水 大智
15	6月26日（金） 10:30～12:00	生活習慣病感受性遺伝子 （M&Dタワー21階 大学院講義室1）	田中 敏博

疾患オミックス情報学特論

Disease OMICS Informatics

科目コード: 3029 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	角田 達彦	医科学数理分野・教授	tsunoda.mesm@mri.tmd.ac.jp
	重水 大智	医科学数理分野・講師	
	宮 冬樹	医科学数理分野・助教	
	中川 英刀	理化学研究所統合生命医科学研究センター・チームリーダー	
	加藤 護	国立がん研究センター・ユニット長	
	岡田 眞里子	理化学研究所統合生命医科学研究センター・チームリーダー	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

疾患オミックスおよびそれに必要な情報学について理解する。

概要

バイオインフォマティクスの臨床医科学応用について教える。個人の疾患発症予測と予防、そして患者一人一人に最適な治療法の確立が求められている。それには、オミックスデータの、情報処理技術に加え、統合的解析手法や、疾患への数理モデル的解析アプローチが不可欠である。難病、がん、生活習慣病などの難治疾患に対するオミックス解析とシステム解析を中心に、先端研究まで紹介する。

4. 授業の到達目標

- ・近年の医科学研究に、なぜ遺伝統計学などの数学や情報学が必要になってきているかを論述できる。
- ・疾患からオミックスデータを得る代表的な方法を説明することができる。
- ・疾患から得たオミックスデータを解析し、疾患の原因や、疾患に関わる遺伝子等を発見する方法を説明できる。
- ・疾患をシステムの的に理解する方法の具体例を説明できる。
- ・患者個人に合わせた治療や予防を行う方法について説明できる。

5. 授業方法

講義と、コンピュータを用いた実習

6. 授業内容

別表の通り

7. 成績評価の方法

成績評価は、講義への出席状況(60点)及び試験(40点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

Web検索等により、ヒトゲノム計画、遺伝子多型、ゲノムワイド関連解析、連鎖不平衡、次世代型シーケンサー等の、それぞれのおおまかな概念について、予習しておくことが望ましい。その他は講義が進むに従い、適宜指示する。

9. 参考書

資料を用意する予定。また、本講義の教科書ではなく、必須ではないが、『先制医療と創薬のための疾患システムバイオロジー』(培風館・田中 博 著)は、本分野に興味のある学生には一助となると考えられる。

10. 履修上の注意事項

授業で配布する資料の予備は保管しません。やむを得ない場合には、出席者からコピーをしてもらってください。授業中は飲食禁止です。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。各種障がいのために必要な場合には、予め申し出ること。私語は禁止します。

11. オフィスアワー

火曜日16:30から18:00(10月6日と11月24日を除く) 科目責任者 角田教授室(M&Dタワー25階)

12. 備考
特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月15日 (木) 8:50～10:20	疾患オミックス情報学概論 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	角田 達彦
2	10月15日 (木) 10:30～12:00	ゲノムワイド関連解析 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
3	10月22日 (木) 8:50～10:20	個別化医療のための予測 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	重水 大智
4	10月22日 (木) 10:30～12:00	ゲノムワイド関連解析等の実践1 (M&Dタワー4階 図書館情報検索室)	角田 達彦 重水 大智 宮 冬樹
5	10月22日 (木) 13:00～14:30	ゲノムワイド関連解析等の実践2 (M&Dタワー4階 図書館情報検索室)	
6	10月28日 (水) 14:40～16:10	次世代シーケンサーデータの解析 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	角田 達彦 宮 冬樹
7	10月28日 (水) 16:20～17:50	次世代シーケンサーデータ解析等の実践1 (M&Dタワー4階 図書館情報検索室)	角田 達彦 重水 大智 宮 冬樹
8	10月28日 (水) 18:00～19:30	次世代シーケンサーデータ解析等の実践2 (M&Dタワー4階 図書館情報検索室)	
9	11月5日 (木) 8:50～10:20	発現解析 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	宮 冬樹
10	11月5日 (木) 10:30～12:00	ケモインフォマティクスと薬剤適用拡大 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	重水 大智
11	11月11日 (水) 16:20～17:50	がんゲノム・オミックス解析 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	中川 英刀
12	11月12日 (木) 8:50～10:20	がん個別化医療の生物情報学 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	加藤 護
13	11月19日 (木) 8:50～10:20	非線形ネットワーク疾患数理モデル1 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	岡田 眞里子
14	11月19日 (木) 10:30～12:00	非線形ネットワーク疾患数理モデル2 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
15	11月20日 (金) 10:30～12:00	疾患オミックス情報学総論 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	角田 達彦

機能分子化学

Introduction to Chemistry and Biology of Biofunctional Molecules

科目コード: 3030 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	玉村 啓和	メディシナルケミストリー分野・教授	tamamura.mr@tmd.ac.jp
科目担当者	影近 弘之	薬化学分野・教授	kage.chem@tmd.ac.jp
	細谷 孝充	生命有機化学分野・教授	thosoya.cb@tmd.ac.jp
	渡邊 信元	理研生体分子制御学分野・連携教授	nwatanab@riken.jp
	平野 智也	生体機能分子科学分野・准教授	hira.chem@tmd.ac.jp
	野村 渉	メディシナルケミストリー分野・准教授	nomura.mr@tmd.ac.jp
	森 修一	薬化学分野・助教	s-mori.chem@tmd.ac.jp
	伊藤 哲	IDACセラノスティクス・社長	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

これまでに研究されてきた機能分子について、その設計のコンセプトや応用例について理解を深め、最新の成果について習得する。

概要

それぞれの担当教員が下記の講義を担当する。

玉村: ペプチド・蛋白質化学について解説する。

影近: 核内受容体の医薬化学について解説する。

細谷: 生体高分子の化学的探索について解説する。

渡邊: 機能分子による細胞増殖・分化の制御について解説する。

平野: 機能分子のデザインと開発戦略について解説する。

野村: ゲノム化学の基礎と展開について解説する。

森: 生体触媒を用いた物質創製について解説する。

伊藤: オーダーメイド医療について解説する。

4. 授業の到達目標

生体で機能する様々な化合物(ホルモンやタンパク分子)とゲノムを構成するDNAに関して、原子、分子レベルで構造と機能発現について理解し、これらの生体分子に関連する化合物の化学合成、構造解析、およびその応用に関する最近の研究について教育する。

5. 授業方法

パワーポイントを用いた講義を中心に、プリント、板書等で補足する。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業の参加状況(20点)及び試験(80点)に基づいて総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

参考書や担当教員のホームページ等を参考に予習しておく。

9. 参考書

受容体がわかる(加藤茂明著、羊土社)、ビタミン研究のブレイクスルー(日本ビタミン学会編、学振出版)、The Nuclear Receptors FactsBook(Laudet, V & Gronemeyer, H., Academic Press)、ゲノム化学の最前線(杉山弘・中谷和彦編、化学同人)、生命現象を理解する分子ツール(浜地格、二木史朗編、化学同人)
(資料配付予定)

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

授業開始1週間前から授業終了1週間後までの毎週月—金の午後3時から午後5時:
科目責任者 メディシナルケミストリー分野(玉村)教授室

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月5日 (月) 8:50~10:20	生体高分子の探索化学 (22号館1階第2会議室)	細谷 孝充
2	10月5日 (月) 10:30~12:00	生体高分子の探索化学 (22号館1階第2会議室)	
3	10月19日 (月) 8:50~10:20	核内受容体の医薬化学 (22号館1階第2会議室)	影近 弘之
4	10月19日 (月) 10:30~12:00	核内受容体の医薬化学 (22号館1階第2会議室)	
5	10月26日 (月) 8:50~10:20	ゲノム化学の基礎と展開 (22号館1階第2会議室)	野村 渉
6	10月26日 (月) 10:30~12:00	ゲノム化学の基礎と展開 (22号館1階第2会議室)	
7	11月9日 (月) 8:50~10:20	機能分子による細胞増殖・分化の制御 (22号館1階第2会議室)	渡邊 信元
8	11月9日 (月) 10:30~12:00	機能分子による細胞増殖・分化の制御 (22号館1階第2会議室)	
9	11月16日 (月) 8:50~10:20	個の医療：実際には (22号館1階第2会議室)	伊藤 哲
10	11月16日 (月) 10:30~12:00	個の医療：実際には (22号館1階第2会議室)	
11	11月17日 (火) 8:50~10:20	機能分子のデザインと開発戦略 (22号館1階第2会議室)	平野 智也
12	11月17日 (火) 10:30~12:00	機能分子のデザインと開発戦略 (22号館1階第2会議室)	
13	11月24日 (火) 8:50~10:20	ペプチド・蛋白質化学 (22号館1階第2会議室)	玉村 啓和
14	11月24日 (火) 10:30~12:00	ペプチド・蛋白質化学 (22号館1階第2会議室)	
15	11月24日 (火) 13:00~14:30	生体触媒を用いた物質創製 (22号館1階第2会議室)	森 修一

ケミカルバイオロジー特論

Chemical Biology

科目コード: 3031 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	影近 弘之	薬化学分野・教授	kage.chem@tmd.ac.jp
科目担当者	玉村 啓和	メディシナルケミストリー分野・教授	tamamura.mr@tmd.ac.jp
	細谷 孝充	生命有機化学分野・教授	thosoya.cb@tmd.ac.jp
	小嶋 聡一	理研生体分子制御学分野・連携教授	skojima@postman.riken.go.jp
	袖岡 幹子	理研生体分子制御学分野・連携教授	sodeoka@riken.jp
	平野 智也	生体機能分子科学分野・准教授	hira.chem@tmd.ac.jp
	須田 三記也	アステラス製薬株式会社・室長	
	高崎 淳	アステラス製薬株式会社・主席研究員	
	白井 宏樹	アステラス製薬株式会社・専任理事	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

ケミカルバイオロジー研究の基礎について理解し、最先端の研究手法や研究成果について学習する。特に、大学、研究所、企業等様々な立場におけるケミカルバイオロジー研究の考え方と現状を理解する。

概要

ケミカルバイオロジーという分野の概要とその基礎的手法を学び、更に、有機化学、合成化学、天然物化学、医薬化学、ゲノム創薬、バイオインフォマティクス、疾患科学などの観点から最先端の研究を紹介する。

4. 授業の到達目標

ケミカルバイオロジーとは、新しい機能を持つ分子を設計、合成し、生体内で機能させることで、生体機能を解明、もしくは制御する研究分野である。このような化学的アプローチによる生体機能研究はポストゲノム時代の生命科学研究の柱となる。本特論では、ケミカルバイオロジー研究の基礎と、現状ならびに今後の展開について講義を行う。

5. 授業方法

各講義担当者が、ケミカルバイオロジーの基礎及び先端研究について講義した後、討論を行う。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業の参加状況(40%)及び試験(60%)に基づいて総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

基礎有機化学の復習、もしくは次項に記載の入門書等による予習をしておくが良い。

9. 参考書

[入門書]入門ケミカルバイオロジー(オーム社)、現代化学への入門15「生命科学への展開」(上村大輔、袖岡幹子 著、岩波書店)[参考書]Chemical Biology(L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess 編、WILEY-VCH)、PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications (Wiley)、ケミカルバイオロジー 成功事例から学ぶ研究戦略(長野哲雄、萩原正敏監訳、丸善)、ケミカルゲノミクスの誕生(吉田稔編、蛋白質核酸酵素 Vol.50, No.9)、医療・診断をめざす先端バイオテクノロジー: バイオ研究のフロンティア3(工学図書)、生物有機化学-ケミカルバイオロジーへの展開-(裳華房)、Bioconjugate Techniques 2nd Ed.(Academic Press)、分子細胞生物学第5版(Lodish 他著、石浦章一他訳、東京化学同人)

10. 履修上の注意事項

特になし

11. オフィスアワー

授業開始1週間前から授業開始前日まで及び講義開催日の午後3時から午後5時:
科目責任者 薬化学分野(影近)教授室

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月21日 (火) 10:30～12:00	ケミカルバイオロジー概論 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	影近 弘之 平野 智也
2	5月12日 (火) 10:30～12:00	ケミカルバイオロジーのための有機化学 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	細谷 孝充
3	5月12日 (火) 13:00～14:30	ケミカルバイオロジーのための有機化学 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
4	5月20日 (水) 8:50～10:20	ケミカルバイオロジーと創薬 (2 2号館 1階第2会議室)	須田 三記也
5	5月20日 (水) 10:30～12:00	ケミカルバイオロジーと創薬 (2 2号館 1階第2会議室)	
6	5月27日 (水) 8:50～10:20	ケミカルバイオロジーとバイオメテック (2 2号館 1階第2会議室)	玉村 啓和
7	5月27日 (水) 10:30～12:00	ケミカルバイオロジーとバイオメテック (2 2号館 1階第2会議室)	
8	6月3日 (水) 8:50～10:20	ケミカルバイオロジーにおけるインフォマティクス (2 2号館 1階第2会議室)	白井 宏樹
9	6月3日 (水) 10:30～12:00	ケミカルバイオロジーにおけるインフォマティクス (2 2号館 1階第2会議室)	
10	6月9日 (火) 8:50～10:20	有機合成化学とケミカルバイオロジー (2 2号館 1階第2会議室)	袖岡 幹子
11	6月9日 (火) 10:30～12:00	有機合成化学とケミカルバイオロジー (2 2号館 1階第2会議室)	
12	6月17日 (水) 8:50～10:20	ケミカルバイオロジー的手法を用いた病態解析 (2 2号館 1階第2会議室)	小嶋 聡一
13	6月17日 (水) 10:30～12:00	ケミカルバイオロジー的手法を用いた病態解析 (2 2号館 1階第2会議室)	
14	6月24日 (水) 8:50～10:20	ケミカルバイオロジーとゲノム創薬研究 (2 2号館 1階第2会議室)	高崎 淳
15	6月24日 (水) 10:30～12:00	ケミカルバイオロジーとゲノム創薬研究 (2 2号館 1階第2会議室)	

ケミカルバイオロジー技術特論

Practical Chemical Biology

科目コード: 3032 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	細谷 孝充	生命有機化学分野・教授	thosoya.cb@tmd.ac.jp
科目担当者	影近 弘之	薬化学分野・教授	kage.chem@tmd.ac.jp
	鰐田 武志	免疫学分野・教授	tsubata.imm@tmd.ac.jp
	玉村 啓和	メディシナルケミストリー分野・教授	tamamura.mr@tmd.ac.jp
	平野 智也	生体機能分子科学分野・准教授	hira.chem@tmd.ac.jp
	野村 渉	メディシナルケミストリー分野・准教授	nomura.mr@tmd.ac.jp
	伊藤 茂	生体機能分子科学分野・助教	ito.chem@tmd.ac.jp
	湯浅 磨里	薬化学分野・助教	myuasa.chem@tmd.ac.jp
	森 修一	薬化学分野・助教	s-mori.chem@tmd.ac.jp
	吉田 優	生命有機化学分野・助教	s-yoshida.cb@tmd.ac.jp
	水口 貴章	メディシナルケミストリー分野・助教	mizuguchi.mr@tmd.ac.jp
	西山 義剛	生命有機化学分野・助教	nishiyama.cb@tmd.ac.jp
	松原 直子	免疫学分野・特任助教	n-matsubara.imm@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

ケミカルバイオロジー研究を行う上で必要な基礎技術の習得を目的とする。

概要

分子プローブの構造解析法、蛍光試薬による分光分析法、ケミカルライブラリースクリーニング法、および動物実験系における機能解析に関する講義および実験指導を行う。

4. 授業の到達目標

化学的な手法と知識を用いて生命現象の解明および生体機能を制御しようというケミカルバイオロジー研究は、21世紀の生命科学研究の最も重要な分野の一つである。本特論では、ケミカルバイオロジー研究の推進に必要な基礎技術に関する教育を行う。

5. 授業方法

全体での講義を行なうとともにそれぞれのテーマに関して小グループ(10名前後)に分かれて実験を行なう。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業への参加(原則として全日程参加を必須とする:50点)及びレポート(実験毎、全4種:計50点)に基づいて総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

別途配布するテキストを事前に予習してくること。

9. 参考書

有機化合物のスペクトルによる同定法(荒木峻他訳、東京化学同人); 有機化学のためのスペクトル解析法(野村正勝監訳、化学同人)

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

随時、科目担当者に相談すること。

12. 備考

履修希望者数が多数の場合、調整の上、追加予備日の6月29日(月)～7月3日(金)に同一内容の授業を開講する場合がある。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1 2 3	7月6日 (月) 14:40～19:30	ケミカルバイオロジー研究の基礎 21号館3F 第1会議室	細谷 孝充 影近 弘之
4 5 6	7月7日 (火) 14:40～19:30	NMR・MS・分子モデリングによる分子構造解析 21号館実習室・他	細谷 孝充 伊藤 茂 水口 貴章 西山 義剛
7 8 9	7月8日 (水) 14:40～19:30	分光分析の原理と応用 21号館実習室・他	玉村 啓和 平野 智也 吉田 優
10 11 12	7月9日 (木) 14:40～19:30	ケミカルライブラリースクリーニング 21号館実習室・他	影近 弘之 野村 渉 湯浅 磨里
13 14 15	7月10日 (金) 14:40～19:30	動物を用いた化合物の作用解析法 M&Dタワー21階北 免疫学分野内	鏑田 武志 松原 直子 森 修一

分子構造学特論

Special Lectures on Molecular Structures

科目コード: 3033 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伊藤 暢聡	分子構造情報学分野・教授	ito.str@tmd.ac.jp
科目担当者	伊倉 貞吉	分子構造情報学分野・准教授	ikura.str@tmd.ac.jp
	廣明 秀一	名古屋大学大学院・教授	
	木下 賢吾	東北大学大学院・教授	
	黒田 正孝	田辺三菱製薬株式会社・主任研究員	
	奈良 雅之	教養部化学分野・教授	nara.las@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

生体高分子の立体構造を正しく読み取り、構造生物学の成果を各々の研究分野に役立てることができるようになることを目指す。

概要

蛋白質を中心に生体高分子の立体構造について、その基礎やそこから得られる情報について学び、立体構造の広範な利用法を概観する。さらに、立体構造の決定に用いられる実験手法の基礎を学ぶことにより、それぞれの手法の特徴や欠点を理解し、様々な研究分野への応用する際の問題点を考える。なお、生物学や物理学の知識を前提とはしていないので、広い分野の学生が受講できる。

4. 授業の到達目標

生体高分子の立体構造を探究する構造生物学は、近年めざましい発展を遂げ、膨大な構造情報が蓄積・公開されており、また新規の構造も次々と報告されている。本講義は、構造生物学を専門としない学生が、こうした貴重な成果を理解し、利用できるようにするためのものである。

5. 授業方法

教員による講義を中心に、一部実習を含めてこの研究分野の具体像を学ぶ。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績の評価は、試験成績(70%)と授業の参加状況(30%)に基づいて総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

「タンパク質の立体構造入門」(藤 博幸、講談社)「タンパク質の構造入門」(Branden & Tooze、ニュートンプレス)

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

随時(メールにて事前連絡すること) 科目責任者 伊藤教授室

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月5日 (月) 13:00～14:30	蛋白質立体構造概論Ⅰ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	伊藤 暢聡
2	10月5日 (月) 14:40～16:10	蛋白質立体構造概論Ⅱ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
3	10月13日 (火) 13:00～14:30	立体構造と分子の機能Ⅰ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
4	10月13日 (火) 14:40～16:10	立体構造と分子の機能Ⅱ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
5	10月19日 (月) 13:00～14:30	生体高分子の立体構造決定方法Ⅰ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
6	10月19日 (月) 14:40～16:10	生体高分子の立体構造決定方法Ⅱ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
7	10月26日 (月) 13:00～14:30	蛋白質のフォールディングと安定性Ⅰ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	伊倉 貞吉
8	10月26日 (月) 14:40～16:10	蛋白質のフォールディングと安定性Ⅱ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
9	11月4日 (水) 13:00～14:30	核磁気共鳴(NMR)と蛋白質立体構造Ⅰ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	廣明 秀一
10	11月4日 (水) 14:40～16:10	核磁気共鳴(NMR)と蛋白質立体構造Ⅱ (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
11	11月9日 (月) 13:00～14:30	蛋白質の立体構造と計算機実験 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	木下 賢吾
12	11月9日 (月) 14:40～16:10	蛋白質の立体構造と創薬 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	黒田 正孝
13	11月16日 (月) 13:00～14:30	蛋白質の結晶化とデータ解析Ⅰ 大学院講義室1 & 分子構造情報学分野	伊藤 暢聡
14	11月16日 (月) 14:40～16:10	蛋白質の結晶化とデータ解析Ⅱ 大学院講義室1 & 分子構造情報学分野	
15	11月24日 (火) 16:20～17:50	赤外・ラマン分光法による構造解析 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	奈良 雅之

生体材料学

Advanced Biomaterials Science

科目コード: 3034 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	由井 伸彦	有機材料学分野・教授	yui.org@tmd.ac.jp
科目担当者	塙 隆夫	金属材料学分野・教授	hanawa.met@tmd.ac.jp
	山下 仁大	無機材料学分野・教授	yama-k.bcr@tmd.ac.jp
	堤 祐介	金属材料学分野・准教授	tsutsumi.met@tmd.ac.jp
	中村 美穂	無機材料学分野・准教授	miho.bcr@tmd.ac.jp
	田村 篤志	有機材料学分野・助教	tamura.org@tmd.ac.jp
	蘆田 茉希	金属材料学分野・助教	ashida.met@tmd.ac.jp
	堀内 尚紘	無機材料学分野・助教	nhori.bcr@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

生体に使用されるさまざまな材料についての基礎を理解する。硬組織および軟組織に使用される材料は、それぞれ要求される特性が異なるが、生体に使用される材料全般にわたり基礎的な知識を習得する。

概要

本年度は、それぞれの課程担当の教員が講義を担当する。

由井 教授：生体材料入門、高分子材料の構造と物性

塙 教授：有機・無機・金属の材料学的相違、医療に使用される金属材料

山下 教授：バイオセラミックスの分類と結晶構造

堤 准教授：金属材料の構造、金属材料の表面と腐食

中村准教授：アパタイト表面化学と生体親和性

田村 助教：高分子材料の合成・加工

蘆田 助教：金属材料の変形と破壊

堀内 助教：セラミックスの焼結とコーティング

4. 授業の到達目標

医療には機能回復のためにさまざまな材料が使用されている。医療および生体に使用される有機・金属・無機材料について、材料学的な基礎知識に焦点をあてて教授する。

5. 授業方法

配布資料とパワーポイントファイルを用いた講義を中心として、必要に応じて材料サンプルを用いるなどの方法も取り入れ、受講者が講義前後で自主学習することも可能なように出来るだけ配慮していく。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、参加状況(50点)と最終試験(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

担当教員が個々に指示するが、出来るだけ配布資料の事前配布によって準備学習を容易にし、講義時間中の理解を深めるような工夫をしていく。

9. 参考書

教科書・参考書・参考論文等は、各教員が指示する。

10. 履修上の注意事項

特になし

11. オフィスアワー

授業に関する質問は、随時、科目担当者に相談のこと。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月11日（月） 10:30～12:00	入門:生体材料の分類と歴史 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	由井 伸彦
2	5月11日（月） 16:20～17:50	総論1:有機・無機・金属の材料学的相違1 (22号館1階第2会議室)	塙 隆夫
3	5月14日（木） 10:30～12:00	総論2:有機・無機・金属の材料学的相違2 (22号館1階第2会議室)	
4	5月19日（火） 14:40～16:10	高分子材料の合成 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	田村 篤志
5	5月25日（月） 14:40～16:10	高分子材料の構造 (22号館1階第2会議室)	由井 伸彦
6	6月2日（火） 14:40～16:10	高分子材料の物性 (22号館1階第2会議室)	
7	6月2日（火） 16:20～17:50	高分子材料の成型加工 (22号館1階第2会議室)	田村 篤志
8	6月4日（木） 8:50～10:20	セラミックスの基礎・結晶科学 (22号館1階第2会議室)	山下 仁大
9	6月4日（木） 10:30～12:00	バイオセラミックス総論・分類と性質 (22号館1階第2会議室)	中村 美穂
10	6月11日（木） 8:50～10:20	バイオセラミックスプロセッシング・合成と焼結 (22号館1階第2会議室)	堀内 尚紘
11	6月11日（木） 10:30～12:00	アパタイト系バイオセラミックス (22号館1階第2会議室)	中村 美穂
12	6月18日（木） 8:50～10:20	金属材料の構造 (22号館1階第2会議室)	堤 祐介
13	6月18日（木） 10:30～12:00	金属材料の変形と破壊 (22号館1階第2会議室)	蘆田 茉希
14	6月25日（木） 8:50～10:20	医療に使用される金属材料 (22号館1階第2会議室)	塙 隆夫
15	6月25日（木） 10:30～12:00	金属材料の表面と腐食 (22号館1階第2会議室)	堤 祐介

応用生体材料学

Applied Biomaterials

科目コード: 3036 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	永井 亜希子	生体材料機能医学分野・准教授	nag-bcr@tmd.ac.jp
科目担当者	塙 隆夫	金属材料学分野・教授	hanawa.met@tmd.ac.jp
	由井 伸彦	有機材料学分野・教授	yui.org@tmd.ac.jp
	岸田 晶夫	物質医工学分野・教授	kishida.mbme@tmd.ac.jp
	木村 剛	物質医工学分野・准教授	kimurat.mbme@tmd.ac.jp
	永井 亜希子	生体材料機能医学分野・准教授	nag-bcr@tmd.ac.jp
	野崎 浩佑	生体材料機能医学分野・助教	k.nozaki.fpro@tmd.ac.jp
	田村 篤志	有機材料学分野・助教	tamura.org@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

バイオマテリアルを医療・歯科医療に用いる場合に知っておくべき生体側の反応や、生体との相互作用について、および臨床応用における課題の知識を得ることを目標としている。

概要

生体材料工学研究所の教員が、生物学・免疫学・生理学など医学・歯学の基礎学問を基盤にバイオマテリアル研究の観点から講義する。

4. 授業の到達目標

バイオマテリアルと生体と相互作用について、臨床応用に即したそれぞれの反応・相互作用および問題点の各項目について議論し、基盤的な知識を具体的な製品に結びつける戦略について学ぶ。

5. 授業方法

パワーポイントを用いて行う。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、授業の参加状況及び試験に基づいて総合的に行う。

参加は11回以上が定期試験受験のために必須であり、12回以上の参加回数に応じて20点まで加点する。また定期試験は80点満点とし、出席点と併せて100点満点で採点する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

バイオマテリアル、バイオエンジニアリングの医療貢献の可能性に関して抱負を持ち受講すること。

9. 参考書

教科書・参考書・参考論文等は、科目担当者が指示する。

10. 履修上の注意事項

8に同じ

11. オフィスアワー

授業内容等に関する質問は、随時、科目担当者に相談すること。

12. 備考

本講義は、「生体材料学(科目コード3034)」の応用編である。より深い理解のために、「生体材料学」との同時受講が望ましい。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月18日 (月) 8:50～10:20	生体の基礎1:病態と病理 (22号館1階第2会議室)	永井 亜希子
2	5月18日 (月) 10:30～12:00	生体の基礎2:疾病とバイオマテリアル (22号館1階第2会議室)	岸田 晶夫
3	5月25日 (月) 8:50～10:20	生体反応1:毒性と急性反応 (22号館1階第2会議室)	由井 伸彦
4	5月25日 (月) 10:30～12:00	生体反応2:慢性炎症と治癒 (22号館1階第2会議室)	岸田 晶夫
5	6月1日 (月) 8:50～10:20	生体反応3:代謝と薬物動態 (22号館1階第2会議室)	田村 篤志
6	6月1日 (月) 10:30～12:00	生体反応4:バイオマテリアルと感染 (22号館1階第2会議室)	野崎 浩佑
7	6月2日 (火) 10:30～12:00	生体反応5:細胞とバイオマテリアル (22号館1階第2会議室)	由井 伸彦
8	6月8日 (月) 8:50～10:20	臨床応用と課題1:高分子材料 (22号館1階第2会議室)	岸田 晶夫
9	6月8日 (月) 10:30～12:00	臨床応用と課題2:無機材料 (22号館1階第2会議室)	野崎 浩佑
10	6月15日 (月) 8:50～10:20	臨床応用と課題3:金属材料 (22号館1階第2会議室)	塙 隆夫
11	6月15日 (月) 10:30～12:00	臨床応用と課題4:再生医学とバイオマテリアル (22号館1階第2会議室)	木村 剛
12	6月19日 (金) 14:40～16:10	臨床応用と課題5:薬学とバイオマテリアル (22号館1階第2会議室)	田村 篤志
13	6月19日 (金) 16:20～17:50	今後の展開1:高分子材料 (22号館1階第2会議室)	由井 伸彦
14	6月23日 (火) 14:40～16:10	今後の展開2:金属材料 (22号館1階第2会議室)	塙 隆夫
15	6月24日 (水) 14:40～16:10	今後の展開3:無機材料 (22号館1階第2会議室)	永井 亜希子

バイオメディカルデバイス工学

Biomedical Device Science and Engineering

科目コード: 3035 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	安田 賢二	バイオ情報分野・教授	yasuda.bmi@tmd.ac.jp
科目担当者	宮原 裕二	バイオエレクトロニクス分野・教授	miyahara.bsr@tmd.ac.jp
	三林 浩二	センサ医工学分野・教授	m.bdi@tmd.ac.jp
	松元 亮	バイオエレクトロニクス分野・准教授	matsumoto.bsr@tmd.ac.jp
	野村 典正	バイオ情報分野・准教授	nomura.bmi@tmd.ac.jp
	荒川 貴博	センサ医工学分野・講師	arakawa.bdi@tmd.ac.jp
	寺蘭 英之	バイオ情報分野・助教	terazono.bmi@tmd.ac.jp
	當麻 浩司	センサ医工学分野・助教	toma.bdi@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

医学・歯科医療の従事者や生命科学・バイオデバイスやシステムの研究開発に携わる者において生命科学・医療の知識に加えて、最先端の科学技術を理解する事は不可欠となりつつある。本講座全体は「デバイス」を中心に理解するバイオメディカルデバイス工学と、「システム」を中心に理解するバイオメディカルシステム工学の2講座で構成され、最先端のバイオデバイスやシステムを理解するのに必須なバイオ工学や機械工学、電子電気工学、ナノ・マイクロ科学、情報科学などの学習と、実際に実用化されているバイオメディカルデバイス・システムの理解を通して、総合的なバイオメディカル理工学の知識と技術を理解し活用できるようにする。

概要

生命現象の解明や医療・健康科学の発展には、いまや最先端のバイオデバイスやシステムを利用することが不可欠になりつつある。「デバイス」を中心に理解する本講座では、生命科学の講義のみでは対応できないバイオテクノロジーやナノ・マイクロ、電子電気、計測、光学、力学等の基礎技術の概要を「デバイス」という微視的要素の観点から学習すると共に、最先端のバイオメディカル分野において研究開発されている医療、診断、研究用デバイスの最新のトピックスについて講義を行う。

4. 授業の到達目標

医学・歯学医療・生命科学の理解その研究開発にはバイオメディカル分野での総合的な理工学の知識や技術の習得が不可欠となっている。本科目では、上記バイオメディカル領域にて、遺伝子、タンパク質、細胞、組織、個体の各レベルにて実用化そして研究が進められている科学技術とその基盤となる理工学分野の基礎を理解し、当該領域での理工学に関する意識を高める。

5. 授業方法

別表のとおり講義形式にて行う。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業の参加状況(60%)及び試験(40%)に基づいて総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

初回授業のガイダンスならびに各授業において必要に応じて指示する。

9. 参考書

授業中に資料を適宜、配布する。

10. 履修上の注意事項

必要に応じて授業中に連絡する。

11. オフィスアワー

毎週月曜日午前11:00から12:00 科目責任者: 安田教授室(生材研・4階)

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月19日 (金) 13:00～14:30	ガイダンス: バイオメディカルデバイス理工学概論 バイオデバイスと構成的生命科学(1) 生命を測って理解する (22号館1階第2会議室)	安田 賢二
2	6月22日 (月) 13:00～14:30	バイオセンサと先端メディカル計測 (22号館1階第2会議室)	三林 浩二
3	6月23日 (火) 13:00～14:30	バイオマイクロシステムと先端バイオ計測 (22号館1階第2会議室)	荒川 貴博
4	6月24日 (水) 13:00～14:30	バイオフィotonicsと先端光センシング (22号館1階第2会議室)	當麻 浩司
5	6月25日 (木) 13:00～14:30	構成的生命科学(2) 生命を測って理解する (22号館1階第2会議室)	寺蘭 英之
6	6月25日 (木) 14:40～16:10	構成的生命科学(3) 生命を創って理解する (22号館1階第2会議室)	野村 典正
7	6月26日 (金) 13:00～14:30	界面の科学と分子認識 (22号館1階第2会議室)	宮原 裕二
8	6月26日 (金) 14:40～16:10	ソフトマテリアルの機能と応用 (22号館1階第2会議室)	松元 亮

バイオメディカルシステム工学

Biomedical System Science and Engineering

科目コード: 3044 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	安田 賢二	バイオ情報分野・教授	yasuda.bmi@tmd.ac.jp
科目担当者	高久田 和夫	バイオデザイン分野・教授	takakuda.mech@tmd.ac.jp
	川嶋 健嗣	バイオメカニクス分野・教授	kkawa.bmc@tmd.ac.jp
	野村 典正	バイオ情報分野・准教授	nomura.bmi@tmd.ac.jp
	寺藺 英之	バイオ情報分野・助教	terazono.bmi@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

医学・歯科医療の従事者や生命科学・バイオデバイスやシステムの研究開発に携わる者において生命科学・医療の知識に加えて、最先端の科学技術を理解する事は不可欠となりつつある。本講座全体は「デバイス」を中心に理解するバイオメディカルデバイス工学と、「システム」を中心に理解するバイオメディカルシステム工学の2講座で構成され、最先端のバイオデバイスやシステムを理解するのに必須なバイオ工学や機械工学、電子電気工学、ナノ・マイクロ科学、情報科学などの学習と、実際に実用化されているバイオメディカルデバイス・システムの理解を通して、総合的なバイオメディカル理工学の知識と技術を理解し活用できるようにする。

概要

生命現象の解明や医療・健康科学の発展には、いまや最先端のバイオデバイスやシステムを利用することが不可欠になりつつある。「システム」を中心に理解する本講座では、生命科学の講義のみでは対応できないバイオテクノロジーやナノ・マイクロ、電子電気、計測、光学、力学等の基礎技術の概要を「システム」という「要素の集合体」の観点から学習すると共に、最先端のバイオメディカル分野において研究開発されている医療、診断、研究用システムの最新のトピックスについて講義を行う。

4. 授業の到達目標

医学・歯学医療・生命科学の理解その研究開発にはバイオメディカル分野での総合的な理工学の知識や技術の習得が不可欠となっている。本科目では、上記バイオメディカル領域にて、遺伝子、タンパク質、細胞、組織、個体の各レベルにて実用化されて研究が進められている科学技術とその基盤となる理工学分野の基礎を理解し、当該領域での理工学に関する意識を高める。

5. 授業方法

別表のとおり講義形式にて行う。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業の参加状況(60%)及び試験(40%)に基づいて総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

初回授業のガイダンスならびに各授業において必要に応じて指示する。

9. 参考書

授業中に資料を適宜、配布する。

10. 履修上の注意事項

必要に応じて授業中に連絡する。

11. オフィスアワー

毎週月曜日午前11:00から12:00 科目責任者: 安田教授室(生材研・4階)

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月5日(金) 14:40～16:10	ガイダンス: バイオメディカルシステム理工学概論 バイオシステムと構成的生命科学(1) (22号館1階第2会議室)	安田 賢二
2	6月9日(火) 14:40～16:10	バイオメディカルシステムのための機械工学 (22号館1階第2会議室)	高久田 和夫
3	6月9日(火) 16:20～17:50	運動器システムの現状と発展 (22号館1階第2会議室)	
4	6月11日(木) 14:40～16:10	バイオメディカルシステムのための制御工学 (22号館1階第2会議室)	川嶋 健嗣
5	6月12日(金) 14:40～16:10	手術支援ロボットシステムの現状と発展 (22号館1階第2会議室)	
6	6月16日(火) 14:40～16:10	パワーアシストシステム (22号館1階第2会議室)	
7	6月16日(火) 16:20～17:50	心肺循環器システム (22号館1階第2会議室)	野村 典正
8	6月18日(木) 14:40～16:10	脳機能と神経システム (22号館1階第2会議室)	寺 蘭 英之

医歯薬産業技術特論

Medical, Dental and Pharmaceutical Industrial Engineering

科目コード: 3037 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	岸田 晶夫	物質医工学分野・教授	kishida.mbme@tmd.ac.jp
科目担当者	原田 直子	顎顔面矯正学分野・助教	naoko.ope@tmd.ac.jp
	入村 和子	生材研客員教授(医療機器センター)	担当 岸田
	未定	企業研究者	担当 岸田
	未定	企業研究者	担当 岸田
	小池 和央	医薬品医療機器総合機構・審査専門員	担当 岸田
	小林 綾乃	医薬品医療機器総合機構・審査専門員	担当 岸田
	岡本 吉弘	医薬品医療機器総合機構・審査専門員	担当 岸田

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療に資するための研究を遂行する場合に、目先の成果に捕らわれる近視眼的な研究ではなく、実用化までを俯瞰した骨太な研究戦略を構築できる能力の獲得をめざし、基盤的な知見について講義する。

概要

現役の許認可担当者あるいは企業研究者を招聘して、許認可あるいは研究開発の現場について、実用化までのハードルについて許認可側あるいは開発側からの視点でそれぞれ講義を行う。

4. 授業の到達目標

医薬品、医療デバイスを世に送り出すためには、開発・研究だけでなく、製造・許認可など種々のハードルを克服しなければならない。これらの事項について、許認可に従事している専門家および企業研究者を招聘して講義を行う。

5. 授業方法

講義内容が臨床応用・実用化の最先端のテーマであるため、初回の講義において講義内容の位置づけ・考え方について導入を行い、2回目に研究開発から実用化までの流れについて説明を行い、3回目以降はそれぞれの個別テーマについて専門家の講義を受ける。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業の参加状況(60%)及び講義終了後に行う小試験(40%)に基づいて総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし

9. 参考書

教科書・参考書・参考論文等は、科目担当者が指示する。

10. 履修上の注意事項

外部講師を招聘するため、開講時間が夜間となる。

11. オフィスアワー

授業内容等に関する質問は、随時、科目担当者に相談すること。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月13日 (火) 18:00～19:30	医歯薬産業技術特論導入 (21号館3階第1会議室)	岸田 晶夫
2	10月20日 (火) 18:00～19:30	医薬品・医療機器が世に出るまで (21号館3階第1会議室)	原田 直子
3	10月27日 (火) 18:00～19:30	医療機器の開発戦略・臨床試験 (21号館3階第1会議室)	入村 和子
4	11月2日 (月) 18:00～19:30	企業での開発1 (21号館3階第1会議室)	外来講師
5	11月10日 (火) 18:00～19:30	企業での開発2 (21号館3階第1会議室)	外来講師
6	11月17日 (火) 18:00～19:30	許認可1(医薬品) (21号館3階第1会議室)	小林 綾乃
7	11月24日 (火) 18:00～19:30	許認可2(医療機器) (21号館3階第1会議室)	岡本 吉弘
8	12月2日 (水) 18:00～19:30	許認可3(再生医療) (21号館3階第1会議室)	小池 和央

医薬品医療機器総合機構講師および企業の講師の都合により開催日時は変更されることがあります。

その場合には講義開始時および随時通知します。

英語交渉・ディベート特論

Negotiation and Debate in English

科目コード: 3038 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	村松 正明	分子疫学分野・教授	muramatsu.epi@tmd.ac.jp
科目担当者	竹本 佳弘	生体材料工学研究所・特任教授	takemoto.mech@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

プレゼンテーション、共同研究・留学、就職などの際に必要な交渉・ディベートに関する基本的な知識・技術を幅広く習得する。

概要

英語による交渉の必要性は、海外との共同研究、海外留学、国内外での就職活動などに見られるように、日々高まりつつある。このコースでは、初めて交渉について学ぶ学生を対象に、英語による交渉とディベートの基礎技術の習得を目指す。具体的にはコーチング技術を利用したアクティブリスニングを中心とした聞く能力と質問力の強化、クリティカルシンキングを用いた論理的な思考力の強化、さらには交渉の基本的な技術を学ぶ。その上でディベートによる議論とコンフリクトマネジメントの手法を学ぶことで、将来様々な問題に対応できるように、交渉に関する基本的な知識・技術を幅広く習得する。またこの講義を通して受講者のコミュニケーション力強化を図る。

4. 授業の到達目標

交渉の概略の理解と、英語での発言に抵抗感がなくなることを目指す。

5. 授業方法

英語による交渉とディベートの学習を講義と演習を交えながら学ぶ。また学生同士の評価も取り入れることで、学習者が客観的に改善点を知る機会を創出する。講義を効率的に実施するために、講義は主に日本語で、演習は英語で実施する。本特論は演習が中心となるため、ネイティブスピーカーとして米国人のJoseph Tabolt が演習のサポートとして参加する。また発音クリニックを計画しており、英語による発信力強化演習も予定している。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

講義への参加40%、講義時の質疑応答など30%、試験30%として評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

Harvard Business Essentials NEGOTIATION (Harvard Business Review Press)
(邦訳ハーバード・ビジネスエッセンシャルズ 交渉力(講談社))

10. 履修上の注意事項

演習形態を取るため参加が必須。講義日時が変更になることがあるので事前に確認すること。

11. オフィスアワー

随時、ただし電子メールで予約 科目担当者 竹本特任教授室 takemoto.mech@tmd.ac.jp

12. 備考

特論の都合上、受講者数を制限する。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月16日 (木) 18:00～19:30	ガイダンス、自己紹介 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘 村松 正明
2	4月16日 (木) 19:40～21:10	Ice Breaker (3号館6階 大学院講義室)	
3	4月23日 (木) 18:00～19:30	交渉の基本1 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘
4	4月23日 (木) 19:40～21:10	Voice Training、Active Listening (3号館6階 大学院講義室)	
5	5月7日 (木) 16:20～17:50	交渉の基本 2 (3号館6階 大学院講義室)	
6	5月7日 (木) 18:00～19:30	質問力、クリティカルシンキング (3号館6階 大学院講義室)	
7	5月14日 (木) 16:20～17:50	交渉戦略1 BATNA、ZOPA (3号館6階 大学院講義室)	
8	5月14日 (木) 18:00～19:30	交渉戦略2 自己分析(SWOT) (3号館6階 大学院講義室)	
9	5月21日 (木) 16:20～17:50	ディベート1 講義 (3号館6階 大学院講義室)	
10	5月21日 (木) 18:00～19:30	ディベート1 演習 (3号館6階 大学院講義室)	
11	5月28日 (木) 16:20～17:50	ディベート2 講義 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘 村松 正明
12	5月28日 (木) 18:00～19:30	ディベート2 演習 (3号館6階 大学院講義室)	
13	6月4日 (木) 16:20～17:50	ディベート3 講義 コンフリクトマネジメント (3号館6階 大学院講義室)	
14	6月4日 (木) 18:00～19:30	ディベート3 演習 コンフリクトマネジメント (3号館6階 大学院講義室)	
15	6月11日 (木) 16:20～17:50	総復習 (3号館6階 大学院講義室)	

研究倫理・医療倫理学

Medical and Research Ethics

科目コード: 3039 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	吉田 雅幸	生命倫理研究センター・教授	masa.vasc@tmd.ac.jp
科目担当者	小笹 由香	生命倫理研究センター・講師	yuka.bec@tmd.ac.jp
	堤 正好	株式会社エスアールエル	
	神田 英一郎	東京共済病院腎臓内科・部長	
	奥山 虎之	国立成育医療研究センター・検査部長	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

研究や医療行為に関連する倫理的課題について学び、目の課題に対して科学的かつ倫理的に妥当な判断ができる能力を培う。

概要

医学・生物学の急速な技術的進歩を社会に有用な形で還元して行くためには、これまでの医学・生物学の発展と社会的葛藤の歴史を正しく認識し、国際的にも通用する確かな生命倫理的知識を身につける必要がある。特に遺伝情報やES細胞などの利用に際しても、生命倫理学に基づき適格な判断ができるように指導する。研究者にとって最も身近な研究倫理審査について実習を交えて学習する。

4. 授業の到達目標

医学・生物学研究や日常の医療行為を行う上で必要とされる倫理的事項について体得する。

5. 授業方法

講義

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

授業への参加(全8回)状況及び授業中に出題する課題に対するA4用紙1枚程度のレポートの提出により総合的に評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

講義前に予め参考資料やインターネットを参照し、基礎的知識を身に付けておくこと。

9. 参考書

[入門書] ブレーン出版「遺伝診療をとりまく社会」水谷修紀、吉田雅幸 監修(絶版ですので必要な時は生命倫理研究センターで貸し出しますので申し出て下さい)

[参考書]1. 教育出版「テーマ30 生命倫理」生命倫理教育研究協議会 著(絶版ですが中古はわりと入手しやすいです)

2. 文春新書474「いのち 生命科学に言葉はあるか」最相葉月 著(絶版ですが中古はわりと入手しやすいです)

3. 医学出版 ポストゲノム時代の医療倫理 東京医科歯科大学生命倫理研究センター著(絶版ですので必要な時は生命倫理研究センターで貸し出しますので申し出て下さい)

4. じほう Ethical Issues Concerning Advanced Research 鈴木章夫 吉田雅幸 編著

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

個別の学習相談は事前に科目責任者と時間調整のこと。

時間調整の連絡は随時(平日10～16時)

科目責任者 吉田教授室(内4724)

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月10日 (金) 8:50～10:20	研究倫理・医療倫理総論1 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	吉田 雅幸
2	4月20日 (月) 8:50～10:20	研究倫理・医療倫理総論2 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	
3	4月21日 (火) 8:50～10:20	臨床研究計画論 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	神田 英一郎
4	4月22日 (水) 8:50～10:20	ヒト由来検体の取り扱いと研究倫理審査 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	吉田 雅幸
5	4月23日 (木) 8:50～10:20	遺伝子検査とその倫理的問題点 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	堤 正好
6	4月24日 (金) 8:50～10:20	先天性疾患治療の進歩と課題 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	奥山 虎之
7	5月7日 (木) 8:50～10:20	研究倫理審査実習 (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	吉田 雅幸
8	5月8日 (金) 8:50～10:20	遺伝カウンセリング (M&Dタワー21階 大学院講義室1)	小笹 由香

トランスレーショナルリサーチ特論

Translational Research

科目コード: 3040 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	影近 弘之	薬化学分野・教授	kage.chem@tmd.ac.jp
科目担当者	竹本 佳弘	生体材料工学研究所・特任教授	takemoto.mech@tmd.ac.jp
	岩澤 義郎	元US Tanabe Research Lab・副社長	
	岩崎 甫	元GSK開発本部長・取締役	
	石黒 昭博	医薬品医療機器総合機構・新薬審査部	
	橋本 一憲	センクレスト国際特許事務所・代表社員	
	佐藤 一雄	第一三共株式会社・部長	
	黒石 真史	ウオーターベイン・パートナーズ代表取締役パートナー	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

基礎研究から臨床研究・市場(社会的な応用・社会への還元)までの一連の過程の学習を通して、基礎研究・橋渡し研究(ベンチャー)・国際臨床研究における課題、市場の見方、知財特許の考え方、規制の考え方(レギュラトリーサイエンス)、研究開発プロジェクトを運営するためのプロジェクト・マネジメント手法などを総合的に学習し、ライフサイエンス実用化における鳥瞰的な視点の獲得を目指す。

概要

講義では、まず最初に創薬・育薬の全体像から製薬産業の世界的な動向を学習する。その上で基礎研究と応用研究(この場合は臨床研究)へ橋渡しする上で重要なベンチャーとその起業家(アントレプレナー)の手法を学習する。

さらには、大学において基礎研究から生まれた研究成果を、ベンチャーを利用して臨床へ導入するケースを演習を交えた議論を行う。背景知識として知財や規制に対する考え方なども学習する。また各種のプロジェクトを実際に行う際に必要となるプロジェクト・マネジメント手法を演習を交えて学ぶ。これらの一連の講義を通して、研究と社会を結ぶトランスレーショナルリサーチの現状と課題を全体的に学習する。

4. 授業の到達目標

ヒトを対象としたライフサイエンスの研究は、基礎研究、臨床研究、そしてその間をつなぐ橋渡し研究に分けて考えることができる。本科目では、それぞれのステージにおける課題の理解と鳥瞰的な視点の獲得を到達目標とする。

5. 授業方法

毎回講義の最初に最近のバイオに関する話題を取り上げる。講義は講師による講義の後に、学生間の議論と講師との質疑応答を実施することでインタラクティブな講義を行う。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

講義への参加40%、講義時の質疑応答など30%、試験30%として評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

特になし。

10. 履修上の注意事項

毎回の講義内容が相互に関係するため参加が必要である。またインタラクティブな講義を実施するため、講義への積極的な参加が求められる。

11. オフィスアワー

随時、ただし電子メールで予約 科目担当者 竹本特任教授室
takemoto.mech@tmd.ac.jp

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月12日 (火) 14:40～16:10	ガイダンス 創薬とは1 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘 岩澤 義郎
2	5月12日 (火) 16:20～17:50	創薬とは2 (3号館6階 大学院講義室)	
3	5月13日 (水) 14:40～16:10	医薬品開発と世界的な潮流1 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘 岩崎 甫
4	5月13日 (水) 16:20～17:50	医薬品開発と世界的な潮流2 (3号館6階 大学院講義室)	
5	5月20日 (水) 14:40～16:10	ベンチャーとアントレプレナーシップ1 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘
6	5月20日 (水) 16:20～17:50	ベンチャーとアントレプレナーシップ2 (3号館6階 大学院講義室)	
7	5月27日 (水) 14:40～16:10	個の医療とレギュラトリーサイエンス1 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘 石黒 昭博
8	5月27日 (水) 16:20～17:50	個の医療とレギュラトリーサイエンス2 (3号館6階 大学院講義室)	
9	6月3日 (水) 14:40～16:10	大学の知財 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘 橋本 一憲
10	6月3日 (水) 16:20～17:50	企業から見た知財 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘 佐藤 一雄
11	6月10日 (水) 14:40～16:10	ベンチャー投資と人材・財務戦略1 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘 黒石 真史
12	6月10日 (水) 16:20～17:50	ベンチャー投資と人材・財務戦略2 (3号館6階 大学院講義室)	
13	6月17日 (水) 14:40～16:10	プロジェクト・マネジメントの方法論1 (3号館6階 大学院講義室)	竹本 佳弘
14	6月17日 (水) 16:20～17:50	プロジェクト・マネジメントの方法論2 (3号館6階 大学院講義室)	
15	6月24日 (水) 16:20～17:50	発表会 (3号館6階 大学院講義室)	

クリニカル・インフォマティクス特論

Clinical Informatics

科目コード: 3041 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	村松 正明	分子疫学分野・教授	TEL:03-5280-8060 Email:muramatsu.epi@mri.tmd.ac.jp
科目担当者	岡田 随象	疾患多様性遺伝学分野・テニュアトラック講師	TEL:03-5803-4662 Email:yokada.brc@tmd.ac.jp
	茂櫛 薫	順天堂大学・ゲノム・再生医療センター・助教	TEL:03-3814-5672 Email:kmogushi@juntendo.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

ゲノム情報解析に基づくトランスレーショナル研究(クリニカル・インフォマティクス)の理念となる、ゲノム情報から疾患・病態を理解する考え方を学ぶとともに、クリニカル・インフォマティクスの実施に不可欠な先端的ゲノム解析技術(次世代シーケンシング、マイクロアレイ、疾患モデル)およびこれらのデータを解析する情報科学技術を学ぶ。

概要

東京工業大学 小長谷明彦教授と共同で実施する予定。実施日程は2015年の10～12月の予定。日程は決まり次第メールで連絡する。受講生はHarvard Medical Schoolで実施された講義の録画を視聴する(120分)。事前に通知された討論のポイントに従い、討論資料を作成する(60分)。担当教員および履修生(本学と東工大)の前で、準備した討論資料についてプレゼンテーションを行い、出席者全員で発表内容について討論する(90分)。プレゼンテーションと討論は英語で行う。討論を通して疑問点を理解し考察を深める。

4. 授業の到達目標

バイオインフォマティクスを医療に応用し、個別化ゲノム医療の実現に必要な計算技術などの習得を目的とする。本科目は、米国Harvard Medical SchoolのCenter for Biomedical Informaticsが実施するトランスレーショナル情報学の講義を、遠隔受講する。

5. 授業方法

ビデオ講義、討論形式

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

事前にビデオを見て学習する。

9. 参考書

- ・「先制医療と創薬のための疾患システムバイオロジー — オミックス医療からシステム分子医学へ」 田中 博(編著)、培風館
- ・「バイオ情報学」小長谷明彦著、コロナ社

10. 履修上の注意事項

開講日時に注意。東工大と日程調整を行い、2015年9月を目処に告知する。

11. オフィスアワー

毎日午前9:00から17:00 科目担当者 村松教授室

12. 備考

講義内容およびe-ラーニング教材の視聴には、以下のURLを参照のこと。

<http://konagaya-lab.sakura.ne.jp/tr/>

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	ガイダンス 10/9 15:05～16:35	講義概要とe-learning受講上の注意点等 (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
2	討論資料作成 随時120分	次世代シーケンス基礎/Peter Park (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
3	討論 10/23 15:05～16:35	次世代シーケンス基礎/Peter Park (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
4	HMS講義の聴講 随時120分	次世代シーケンス応用/Peter Park (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
5	討論資料作成 随時120分	次世代シーケンス応用/Peter Park (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
6	討論 11/20 15:05～16:35	次世代シーケンス応用/Peter Park (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
7	HMS講義の聴講 随時120分	次世代シーケンスによる生物知識の獲得 / Peter Kharchenko (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
8	討論資料作成 随時120分	次世代シーケンスによる生物知識の獲得 / Peter Kharchenko (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
9	討論 12/4 15:05～16:35	次世代シーケンスによる生物知識の獲得 / Peter Kharchenko (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
10	HMS講義の聴講 随時120分	次世代シーケンスによるエピゲノムへの 挑戦/ George Church (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
11	討論資料作成 随時120分	次世代シーケンスによるエピゲノムへの 挑戦/ George Church (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
12	討論 12/11 15:05～16:35	次世代シーケンスによるエピゲノムへの 挑戦/ George Church (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
13	HMS講義の聴講 随時120分	次世代シーケンスによる疾患モデル解析 /Peter Tonellato (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
14	討論資料作成 随時120分	次世代シーケンスによる疾患モデル解析 /Peter Tonellato (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫
15	討論 12/18 15:05～16:35	次世代シーケンスによる疾患モデル解析 /Peter Tonellato (M&Dタワー23階 セミナー室3)	村松正明、岡田随象、 小長谷明彦、茂櫛薫

産学リンケージ特論

Practice in Global Linkage between University and Industry

科目コード: 3042 1年次 2単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	玉村 啓和	メディシナルケミストリー分野・教授	tamamura.mr@tmd.ac.jp
科目担当者	三林 浩二	センサ医工学分野・教授	m.bdi@tmd.ac.jp
	影近 弘之	薬化学分野・教授	kage.chem@tmd.ac.jp
	竹本 佳弘	生体材料工学研究所・特任教授	takemoto.mech@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

修士課程で修得した研究能力と語学力を基礎力とし、それを結実させる応用力を身につけるため、産業界で活躍できる実践力を修得する。

概要

国内の企業にインターン・シップあるいは特別研修として派遣するケーススタディ体験型コースである。

4. 授業の到達目標

企業へのインターン・シップを通じて、社会がどのように動いており、何を求めているのか、社会のリアルタイムの動向と求める人材像を、現場に滞在して体験的に学習する。

5. 授業方法

事前研修はお茶の水女子大学または東京医科歯科大学にて実施する。企業説明会はパワーポイント等を用い、講義形式で行う。インターン・シップあるいは特別研修は実際に国内の企業でケーススタディーを体験する。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

予め、事前研修に参加する必要がある。成績評価は、参加状況(40点)とインターン・シップあるいは特別研修のレポート内容(60点)を総合して評価する。

インターン・シップあるいは特別研修に参加しなかった場合は、履修を取消したとみなす。

8. 準備学習等についての具体的な指示

社会が何を求めているのか、社会のリアルタイムの動向を前もって調べておく。

9. 参考書

特になし

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

随時 科目責任者 玉村教授室

12. 備考

受講者は、お茶の水女子大学または東京医科歯科大学にて実施される事前研修に参加する必要がある。インターン・シップあるいは特別研修は、随時、学務企画課より募集があるので、履修希望者は説明会に参加し、それに応募すること。希望者は事前に指導教員の許可を得た上で、実施計画書、志願の動機、達成目標、推薦書を提出し、書類審査の上、履修が許可される。終了後に、レポートを提出すること。

また、特に必要のない場合を除き、保険の加入が必要である。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5～6月ころ(1ヶ月くらい前にメールにてアナウンス)	事前研修(マナー講習)、お茶の水女子大学または東京医科歯科大学	玉村 啓和 三林 浩二 影近 弘之 竹本 佳弘
2 3	5～6月ころ(2～3週間くらい前にメールにてアナウンス)	企業説明会、東京医科歯科大学他	玉村 啓和 三林 浩二 影近 弘之 竹本 佳弘
4 5	5～6月ころ(2～3週間くらい前にメールにてアナウンス)	企業説明会、東京医科歯科大学他	玉村 啓和 三林 浩二 影近 弘之 竹本 佳弘
6～15	6～9月ころ	インターン・シップあるいは特別研修	未定

Introduction to Medical Neurosciences

[Chief Instructor] Dr. Kohichi Tanaka
M&D tower 21F, Ext. 5843,
E-mail: tanaka.aud@mri.tmd.ac.jp

[Course Description] The goal of this course is to provide students with a general introduction to the underlying principles and mechanisms of brain function that give rise to complex cognitive behavior.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Examination and Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October, 2016.

[Accessory Texts]

Mark F. Bear, Barry W. Connors and Michael A. Paradiso, Neuroscience: Exploring the Brain. Lippincott Williams & Wilkins.

[Notes]

Immunology

[Chief Instructor] Dr. Takeshi Tsubata
M&D tower 21F, Ext. 5835,
E-mail: tsubata.imm@mri.tmd.ac.jp

[Course Description] This course deals with basic principles of the immune system including both innate and acquired immunity, and strategies for regulating the immune system to solve the problems of immunological and infectious diseases.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Examination and Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October, 2016.

[Accessory Texts]

Peter Parham, "The immune system" (Second edition), Garland Science (2005)

[Notes]

Development and Regenerative Bioscience

[Chief Instructor] Dr. Hiroshi Nishina
M&D tower 21F, Ext. 4659,
E-mail: nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp

[Course Description] This course covers the human development from the fertilization to the postnatal maturation with an emphasis on embryonic development. We will discuss how modern molecular and genetic approaches are advancing the fundamentals of perinatal medicine and developmental biology. Special emphasis will be placed on developmental genetic disorders and the prospect of using stem cells in regenerative therapy. An additional objective of the course is to learn about research techniques and their application to currently unresolved issues and envisage new paradigms in medicine.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Examination and Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2015, which will be announced in October, 2015.

[Accessory Texts]

[Notes]

Introduction to Chemistry and Biology of Biofunctional Molecules

[Chief Instructor] Dr. Hirokazu Tamamura
Surugadai area, 21 Bldg., 6 th floor, Ext. 8036,
E-mail: tamamura.mr@tmd.ac.jp

[Course Description] This course deals with fundamentals and recent topics related to various biofunctional molecules, such as hormones and proteins, related to gene functions and/or cellular signal transduction. This course also covers the research techniques and their applications in the field of medicinal chemistry and chemical biology.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Final examination and Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October, 2016

[Accessory Texts]

L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess (eds.) Chemical Biology, WILEY-VCH; Laudet, V & Gronemeyer, H. (eds) The Nuclear Receptors FactsBook, Academic Press; M. Ptashne & A. Gann Genes & Signals, CSHL Press.

[Notes]

Chemical Biology

[Chief Instructor] Dr. Hiroyuki Kagechika

Surugadai area, 21Bldg, 6 th floor, Ext. 8032,

E-mail: kage.chem@tmd.ac.jp

[Course Description] Chemical biology is a new and significant field of bioscience. This field includes the research to solve the biological problems at the molecular level or to regulate the biological systems by using the techniques, knowledge and ideas of chemistry. This course deals with the overview of the chemical biology field including some topics of recent research.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Final examination and Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2015, which will be announced in October, 2015.

[Accessory Texts] L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess (eds.) Chemical Biology, WILEY-VCH

H. Osada (ed.) Bioprobes, Springer

Kamerling, J. P. (ed) Comprehensive Glycoscience From Chemistry to System Biology, Elsevier

Annes, J. P.; Munger, J. S.; Rifkin, D. B. *J Cell Sci* 116:217-224, 2003.

Liby, K. T.; Yore, M. M.; Sporn, M. B. *Nature Reviews Cancer* 7:357-369, 2007.

Ferrara, N.; Kerbel, R. S. *Nature* 438:967-974, 2005.

[Notes] None

Practical Chemical Biology

[Chief Instructor] Dr. Takamitsu Hosoya

Surugadai area, 21 Bldg., 1 st floor, Ext. 8117,

E-mail: thosoya.cb@tmd.ac.jp

[Course Description] This course deals with the experiments in the field of chemical biology. Chemical biology is the research field to solve the biological problems at the molecular level or to regulate the biological systems by using the techniques, knowledge and ideas of chemistry. The experiments include the molecular design, synthesis, structural analyses of bioprobes and their applications to the biological systems.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture & Lab

[Grading] Attendance, Report, and Discussion

[Level] Fundamental

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2015.

[Accessory Texts] Silverstein R. M et al. (eds.) Spectrometric Identification of Organic Compounds (John Wiley & Sons); L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess (eds.) Chemical Biology, WILEY-VCH.

[Notes] None

Special Lectures on Molecular Structures

[Chief Instructor] Dr. Nobutoshi Ito
M&D tower 22F, Ext. 4594,
E-mail: ito.str@tmd.ac.jp

[Course Description] This course deals with three-dimensional structure of biological macromolecules such as proteins and nucleic acids. The basic ideas about structural biology are shown first and their implications to the biological activity and industrial importance will then be discussed. The practical methods to determine such structures, mainly X-ray crystallography and nuclear magnetic resonance (NMR) spectroscopy are also explained.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture/Lab

[Grading] Final examination (90 %) Attendance (10 %)

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2015, which will be announced in October, 2015.

[Accessory Texts]

Branden & Tooze, "Introduction to Protein Structure" (Garland Publishing)

[Notes] None

Advanced Biomaterial Science

[Chief Instructor] Dr. Nobuhiko Yui
Surugadai area, 21 Bldg., 5 th floor, Ext. 8020
E-mail: yui.org@tmd.ac.jp

[Course Description] This course deals with bio-inspired systems using metals, ceramics, and organic materials from basic material science to biotechnological and biomedical applications. Recent topics about drug delivery system and tissue engineering will be also lectured.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Final examination, Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October, 2016.

[Accessory Texts]

[Notes]

Bioinformatics

[Chief Instructor] Dr. Toshihiro Tanaka
M&D tower B1F, Ext. 4660,
E-mail: ttana.brc@tmd.ac.jp

[Course Description] Humans are diverse organisms, and one area that this diversity is particularly exhibited is in the medical field such as in the way we develop disease and show resistance to treatment and drug side-effects. In order to understand this diversity, examination of inter-individual variation in our genetics and environment is essential by integrating both DNA and mRNA analysis (wet laboratory-based), together with data-mining and the statistical analytic evaluations of these data (dry lab). The purpose of this course is to provide the necessary foundation required to begin applying this integrative approach to individual research.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture & Practice

[Grading] Examination and Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October, 2016.

[Accessory Texts] None

[Notes] None

Disease OMICS Informatics

[Chief Instructor] Dr. Fumitoshi Ishino
M&D tower 23F, Ext. 4862,
E-mail: fishino.epgn@mri.tmd.ac.jp

[Course Description] Availability of this lecture in the consortium will be announced in October. In this lecture, we will discuss the progression of genomics from a genome project point of view. Since the completion of human genome project, we have much information on genomes of many other species including mammals to make comprehensive comparative analyses. Recently, several metagenome (or community genome) projects have been launched to understand how many organisms interact in complex environments, such as the human gut or the ocean. We will look at some of the tools which are used to analyze single, multiple and mixtures of genomes to detect and predict genes, proteins and other elements of interest. We also will explore the principles of the transcription of genes into mRNA. This lecture will focus on the computational aspects of performing sequence alignments. Local, global and multiple alignment strategies will be covered. We also will discuss an Integrative Omics. No prior knowledge in bioinformatics is required.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Examination and Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2015, which will be announced in October, 2015.

[Accessory Texts] Will be noticed later

[Notes] Nothing

Translational Research

[Chief Instructor] Dr. Hiroyuki Kagechika, Dr. Yoshihiro Takemoto
Surugadai area, 22 Bldg., 8 th floor, Ext. 8134,
E-mail: takemoto.mech@tmd.ac.jp

[Course Description] In this course, students will be engaged in translational research activity on the theme of Omics-based drug discovery and development. The course progresses from basic research methodology to clinical research level study in the context of practical application of Omics-based research.

Through this study, students can also learn about current translational research issues and activities. Guest speakers (lecturers) from a wide variety of areas of medicine and bioscience will be invited and will hold discussions with the participants. Students will learn about the workplace environment of pharmaceutical research and development (R&D) and regulation compliance in Japan.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Attendance and Examination

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October 2016.

[Accessory Texts]

[Notes] Attendance is mandatory for this course.

Biomedical Device Science and Engineering

[Chief Instructor] Dr. Kenji Yasuda
Surugadai area, 21 Bldg., 4 th floor, Ext.8046,
E-mail: yasuda.bmi@tmd.ac.jp

[Course Description] The purpose of this course is to acquire the knowledges of latest biomedical device (element) technologies, which is complimentary to biomedical system technologies. For understanding these technologies, related fundamental scientific and technological issues underlying those device technologies are also introduced and discussed.

[Units] One (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Attendance (60%) and Examination (40%)

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October 2016.

[Accessory Texts] To be announced during the lecture.

[Notes] None.

Biomedical System Science and Engineering

[Chief Instructor] Dr. Kenji Yasuda

Surugadai area, 21 Bldg., 4 th floor, Ext.8046,

E-mail: yasuda.bmi@tmd.ac.jp

[Course Description] The purpose of this course is to acquire the knowledges of latest biomedical system technologies, which is complimentary to biomedical device (element) technologies. For understanding these technologies, related fundamental scientific and technological issues underlying those system technologies are also introduced and discussed.

[Units] One (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Attendance (60%) and Examination (40%)

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October2016.

[Accessory Texts] To be announced during the lecture.

[Notes] None.

Applied Biomaterials

[Chief Instructor] Dr. Akiko Nagai

Surugadai area, 21 Bldg., 3 rd floor, Ext. 8168,

E-mail: nag-bcr@tmd.ac.jp

[Course Description] This course deals with the reaction of living body to biomaterials, physiology, biochemistry, cell biology, immunology in order to understand biomaterials in details. Future direction and the problems to be solved of the biomaterials research will be discussed.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Final examination, Attendance

[Course Schedule] The lectures will be scheduled in second half of 2016, which will be announced in October2016.

[Accessory Texts] To be announced by each lecturers.

[Notes]

5. 医療管理政策学（MMA）コース 授業科目

1. 医療管理政策学(MMA)コースの概要

○背景

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、医療サービスの管理運営や医療政策の実務において、高度な学術的知識と技術を備えた人材が必要となっている。米国における医療サービスの管理運営では、MBA (Master of Business Administration) の学位を持つ者が携わることがあるが、医療制度の異なる我が国においては、医師が医療機関の運営に携わることが従来からの慣行であった。

しかし、医療の高度化と複雑化に対応するためには、医療機関の運営や医療政策の実務に役立つ専門知識が必須である。即ち、効率的でかつ患者中心の医療を国際的な水準で提供し、国際化に伴う健康危機に円滑に対応するには、医学知識とともに医療組織を管理するマネジメント能力が必要となってきた。

そこで、質の高い医療サービスを提供するための戦略的な管理運営を行う知識と技能を備えた医療管理政策に携わる専門職の養成を図るべく、病院管理者ならびに医療政策等の立案に携わる社会人を対象に、四大学連合（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）による本コースを開設するに至った。

○特色

少子高齢化を背景とする国民医療費・社会保障費の高騰、良質で安全な医療サービスの提供の必要性、競争原理の一肩の導入、国際化・グローバル化する医療経営環境、患者の主体性の重視等、医療を取り巻く社会環境が急速に変化している。このような状況にあって、今後の医療機関運営では、医学だけでなく医療サービス管理と政策の高度な知識と技術が必要である。

本コースは、医療管理並びに医療政策の分野において指導的立場で活躍する人材の養成を図り、医療サービスに関わる社会的ニーズに応えようとするものである。急速な制度改革、グローバル化が進む医療の分野にあって、患者中心のより良い医療を効率的に提供できる社会システムの構築に寄与する人材を輩出しようとするものである。

○社会的ニーズ

現在、我が国の医療を取り巻く環境は、少子高齢化の進行、疾病構造の変化、医療技術等の進歩による国民医療費の増大などで急速に変化しつつある。また、医療に対する国民のニーズは多様化し、医療の質の確保や医療事故の防止が目下の急務となっている。これらの医療環境の変化に対応するには、医療機関の経営方法が大きな問題となってきた。

また、医療施設の機能分化も進み、民間の品質管理の手法も導入され、医療機能評価機構による医療施設の第三者評価を受ける施設も増加してきている。

こうしたなか、各医療機関の管理者は、安全対策の強化、EBM (Evidence-Based Medicine) の遂行インフォームド・コンセントやカルテ開示等による医師と患者の関係、電子カルテによる IT 技術の導入とその運営方法など、社会的にも経営的にも大きな変革を求められてきている。

医療環境や各種報告されている医療の方向性等を正確に認識し、良質の医療を提供するためには、医療関連分野を網羅した包括的な研究・教育が必要である。そのためには、幅広い周辺諸科学の知識を持つ、医療機関の管理運営責任者、及び科学的根拠に基づいた政策の立案・実施・評価を行う専門家の養成が急務となっている。

人材育成目標

医療管理政策学コースは医療サービスに関わる社会的ニーズに応えるため、指導的立場で活躍する人材養成課程を基に医療管理ならびに医療政策の分野において、患者中心のより良い医療を効率的に提供できる社会システムの構築に寄与する人材を育成する。

アドミッションポリシー

医療管理政策学コースにおいては医療サービスに関わる社会的ニーズに応えるため、指導的立場で活躍する人材養成課程を基に医療管理ならびに医療政策の分野において、患者中心のより良い医療を効率的に提供できる社会システムの構築に寄与する人材を育成する。

本専攻が掲げる育成目標に鑑みて、下記に該当する者を求める。

- ・医療管理政策学を学習するのに必要な基礎知識又は実務経験を有し、医療管理政策の展望について自らの考えを論理的に表現することができ、さらなる専門知識を体系的・集中的に学びとる意欲を有している。

カリキュラムポリシー

1. 医療管理政策学コースにおいては、医療管理および医療政策の理解・実践・展開に必要な講義科目を10系統の領域（①医療政策、②医療の質確保とリスク管理、③医療関連法規と医の倫理、④病院情報とセキュリティー、⑤医療の国際文化論、⑥施設設備と衛生管理、⑦経営戦略と組織管理、⑧人的資源管理と人材開発、⑨医療における情報発信、⑩臨床疫学）について基礎から実務にわたり共通に開設している。
2. 医療管理学コース、医療政策学コースそれぞれに必修科目を含めた履修モデルを設定している。
3. 医療管理学コースは1年間、医療政策学コースは2年間で履修する。
4. 講義のスケジュールは、系統間および系統内の関連を考慮して配置されている。また、学生の利便性を考慮し、授業の開始は18時以降からとなっている。
5. 研究を自ら立案・遂行できる能力を修得させるカリキュラム構成としている。

ディプロマポリシー

所定の期間在学し、医歯理工学専攻の開設科目や本専攻が認めた他大学の授業科目を履修して修了要件単位数を修得し、本専攻が行う修士論文又は課題研究報告の審査および最終試験に合格した以下のいずれかの学識および実務能力を修得した者に、対応する名称の学位を授与する。

修士（医療管理学）

医療提供施設等における管理的業務、あるいは医療管理学領域の研究、教育に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

修士（医療政策学）

行政機関での医療等の政策立案業務、医療政策領域の研究、教育、そして保健医療政策や関連する事業に従事できる人材となっており、高度な学識および実務能力を修得している。

平成27年度 MMAコース授業科目時間割

月	日	時限	月	火	水	木	金	土	日	整理 番号	管理 必修	政策 必修	担当 大学	科目担当(責任)教員	備 考	
4月	6～10	1 2		オリエンテーション												
	13～17	1 2	1.1 医療提供政策論	1.4 医療保険論	1.1 医療提供政策論					1.1	○	○	A	歯大 河原和夫		
	20～24	1 2	1.2 医療社会政策論		1.2 医療社会政策論					1.2		○	D	一橋大 猪飼周平		
5月	4/27～5/1	1 2	9.3 医学概論		祝 日	9.3 医学概論				9.3			A	歯大 高瀬浩造		
											1.4	○	○	D	一橋大 佐藤主光	4/14, 21, 28, 6/2の火曜日 (医療保険論)
											1.5			D	一橋大 佐藤主光	5/12, 19, 26, 6/2の火曜日 (医療保険制度改革論)
	11～15	1 2	1.3 世界の医療制度	1.5 医療保険制度改革論	1.3 世界の医療制度					1.3		○	A	歯大 河原和夫		
	18～22	1 2	1.6 医療計画制度		1.6 医療計画制度					1.6		○	A	歯大 河原和夫		
	25～29	1 2	2.1 医療と社会の安全管理		2.1 医療と社会の安全管理					2.1		○	A	歯大 河原和夫		
			2.2 医療機関リスク管理		2.2 医療機関リスク管理					2.2	○	○	A	歯大 安原真人		
6月											1.7			D	一橋大 佐藤主光	6/12, 19, 26, 7/3の金曜日 (医療産業論)
	8～12	1 2	9.1 医療とコミュニケーション							9.1			B	東外大 岡田昭人		
	15～19	1 2	2.4 医療機能評価				1.7 医療産業論			2.4	○	○	A	歯大 河原和夫		
	22～26	1 2	3.3 生命倫理と法							3.3		○	D	東京学芸大 佐藤雄一郎		
7月	6/29～7/3	1 2	4.3 IT時代の医療診断システムとセキュリティ							4.3			C	東工大 大山永昭		
	6～10	1 2	4.1 病院情報管理学					9.3 医学概論		4.1	○	○	A	歯大 高瀬浩造		
	13～17	1 2	3.1 医療制度と法					9.1 医療とコミュニケーション		3.1	○		D	明治大 小西知世		
	20～24	1 2	祝 日	4.2 診療情報管理学						4.2	○		A	歯大 伏見清秀		
8月	24～28	1 2	3.2 医事紛争と法							3.2	○		D	一橋大 滝沢昌彦		
9月	8/31～9/4	1 2	8.2 人材の開発と活用					5.2 世界の文化と医療		8.2	○		A	歯大 田中雄二郎		
	7～11	1 2	5.1 医療思想史							5.1		○	B	東外大 吉本 秀之		
	14～18		5.2 世界の文化と医療				5.3 世界の宗教と死生観			5.2			B	東外大 栗田博之		
	21～25	1 2	祝 日	祝 日	祝 日	5.3 世界の宗教と死生観				5.3			B	東外大 土佐 桂子		
10月	9/28～10/2	1 2	6.1 病院設計・病院設備							6.1	○	○	C	東工大 藤井晴行		
	5～9	1 2	6.2 衛生工学・汚染管理					1.8 医療経済論		6.2	○		C	東工大 湯浅和博		
											1.8			D	一橋大 佐藤主光	10/9, 23, 30, 11/20の金曜日 (医療経済論)
	12～16	1 2	祝 日	7.1 戦略と組織						7.1	○		D	一橋大 林 大樹		
	19～25	1 2						1.8 医療経済論	7.2 財務・会計 (土日集中講義)	7.2	○		D	一橋大 荒井 耕		
	26～30	1 2	7.3 医療の人間工学					1.8 医療経済論		7.3	○		C	東工大 伊藤謙治		
11月	2～6	1 2	8.1 人的資源管理	祝 日	8.1 人的資源管理					8.1	○		D	一橋大 林 大樹		
	9～13	1 2	8.3 医療におけるリーダーシップ論							8.3			A	歯大 田中雄二郎		
	16～20	1 2	特別講義					1.8 医療経済論								
	23～27	1 2	祝 日	2.3 医療のTQM						2.3	○	○	A	歯大 高瀬浩造		
12月	11/30～12/4	1 2	10.2 健康情報データベースと統計分析							10.2			A	歯大 高瀬浩造		
	7～11	1 2	10.1 臨床研究・治験			10.1 臨床研究・治験				10.1			A	歯大 安原真人		
	14～18	1 2	補講期間													

※ 1時限は18:00～19:30、2時限は19:40～21:10

※ 科目担当大学の記号は次のとおり

A…東京医科歯科大学担当科目

B…東京外国語大学担当科目

C…東京工業大学担当科目

D…一橋大学担当科目

医療提供政策論

Health Care System

科目コード:

4011

1年次

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野 教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	林 通平	Mediate Hayashi 株式会社 代表取締役社長、内閣官房医療イノベーション推進室 広報ワーキングチーム主査	
	小池 創一	自治医科大学 地域医療政策部門 教授	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ① データ面から、わが国の保健医療福祉介護分野の歴史的経緯および現状、それらの問題点を理解する。
- ② 過去あるいは現在の政策、さらに実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。
- ③ 医療提供体制の一翼を担う、薬剤産業の現状および課題を理解する。
- ④ 患者サイドから医療がどのように提供されているかを理解する。

概要

重層的・相補的な関係にある保健医療福祉分野の実態を理解するとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、現代のわが国の実情に最も適した政策遂行のあり方を考えていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4. 授業の到達目標

まず、統計資料をもとにわが国の保健医療福祉介護の現状と問題点を理解する。次に、これら分野の代表的な政策の分析を行い、問題点及び特性を理解する。特に、医療提供体制を規定している医療制度、保健医療従事者、製薬産業、保健医療施設、あるいはその隣接領域である福祉・介護保険施設・人材等の問題点、政策の理念、目的、目標、計画策定過程、執行体制、評価、住民参加等の項目に関する分析を国外の同様の計画とも対比しながら行い、理解を深めていく。加えて患者側の視点から医療提供体制を考える。そして、将来の最適な医療提供に関する政策の具体像が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

5. 授業方法

講義形式、討議、発表、事例検討などによる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、テスト結果または提出されたレポート内容(30点)と参加状況(70点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

マスメディアの情報も含めて、昨今の医療およびその周辺分野の状況を書籍・インターネット等で調べておく。

9. 参考書

教科書:「社会・環境と健康(エスカペーシック)」河原和夫(同文書院)ISBN978-4-8103-1370-3

参考書:

- ①「日本の医療」池上直樹、J.C.キャンベル(中公新書)
 - ②「厚生労働白書」
 - ③「国民衛生の動向2013/2014」(財)厚生統計協会)
 - ④「厚生省50年誌」
 - ⑤「戦後医療の五十年」有岡二郎(日本医事新報社)
 - ⑥「公共政策学」足立幸男／森脇俊雅 編(ミネルヴァ書房)
 - ⑦「政策分析入門」Edith Stokey and Richard Zeckhauser(勁草書房)
- その他必要に応じて指示する。

10. 履修上の注意事項

「1.4 医療保険論」「1.6 医療計画制度」等と関連する。

11. オフィスアワー

毎週月曜日午後17:00～18:00

科目責任者 河原和夫教授室(M&Dタワー16階)

12. 備考

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月13日 (月) 18:00～21:10	医療提供制度総論1	河原 和夫
2	4月15日 (水) 18:00～21:10	医療提供制度総論2、 総合討議など	河原 和夫 菅河真紀子
3	4月16日 (木) 18:00～21:10	医療提供体制と薬剤産業政策	林 通平
4	4月17日 (金) 18:00～21:10	医療提供制度総論3	小池 創一

医療社会政策論

Health Care Policy

科目コード: 4012 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	猪飼 周平	一橋大学大学院社会学研究科教授	s.ikai@r.hit-u.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

長期的かつグランドな社会構造からヘルスケアおよびヘルスケア政策を見る観点を養う

概要

授業目的に従って、講義・ディスカッションを進めてゆくこととする。受講生は4日間の授業終了後に、講師から与えられた課題のレポートを作成し、提出する。

4. 授業の到達目標

授業目的に同じ

5. 授業方法

講義・ディスカッション

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

クラス討議への貢献度と提出レポート

8. 準備学習等についての具体的な指示

テキストは使用せず、適宜レジュメ・資料等を配布する。

9. 参考書

参考書については、授業の中で紹介する。

10. 履修上の注意事項

特になし。

11. オフィスアワー

科目責任者 猪飼周平(s.ikai@r.hit-u.ac.jp)宛にメールで問い合わせください。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月20日 (月) 18:00～21:10	イントロダクション: ケアと社会構造の連関を読む	猪飼 周平
2	4月22日 (水) 18:00～21:10	ディスカッション	猪飼 周平
3	4月23日 (木) 18:00～21:10	講義: 長期的ヘルスケア政策への研究戦略	猪飼 周平
4	4月24日 (金) 18:00～21:10	ディスカッションと統括講義	猪飼 周平

世界の医療制度

Health Care System in foreign Countries

科目コード: 4013 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野 教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	田淵 典之	横浜市立みなと赤十字病院 部長	
	中田 健夫	特別医療法人社団 慈生会等潤病院麻酔科 手術部長	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・主な国の社会経済・保健医療上の課題および対策を解説する。
- ・ヘルスシステムの国際比較を行う。
- ・主な国の医療供給体制と医療制度を解説する。

概要

世界各国の医療制度を理解するには、わが国の制度を詳細に理解することが前提となる。わが国は国民皆保険制度を運用しているが、国や地域のヘルスシステムは、資源、組織、財政的基盤、マネジメント、サービス提供の各要素により特徴づけられる。英国などは税方式で医療制度を運用し、ドイツ、フランス等は公的社会保険により医療サービスを国民に提供している。また、米国は民間保険が主体であり、シンガポールのように貯蓄システムを採用している国もある。隣国に位置する中国の医療の発展からも目が離せない。先進国、開発途上国を問わず医療制度はその国の政治、経済、文化、人口構成などの影響を受け、それぞれの国で独自の制度が発展しており、どの制度にも長所、短所がある。講義では、わが国の医療制度の特徴を十分に理解した上で、各国の制度の特徴や問題点や課題について対処すべき政策等を考える。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4. 授業の到達目標

- ・日本の医療制度の現状と課題を理解する。
- ・先進国および開発途上国を含む主な国の医療供給体制と医療保険制度の概要を理解する。
- ・各国の社会経済および保健医療上の課題を理解する。
- ・病院医療を例として、世界におけるわが国医療の特色を理解する。

5. 授業方法

講義形式、討議、発表、事例検討などによる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、テスト結果または提出されたレポートや発表の内容(30点)と参加状況(70点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

各国の医療の状況をOECDデータなどで予め理解しておく。

9. 参考書

教科書: 多田羅浩三、河原和夫、篠崎英夫「国際共生に向けた健康への挑戦」(日本放送出版協会) ISBN978-4-595-30832-1

参考書: 河原和夫、岸本忠三、岩本愛吉「感染症と生体防御」(日本放送出版協会) ISBN978-4-595-30833-8

10. 履修上の注意事項

「1.1 医療提供政策論」「1.4 医療保険論」「9.3 医学概論」と関連する。

11. オフィスアワー

毎週月曜日午後17:00～18:00

科目責任者 河原和夫教授室(M&Dタワー16階)

12. 備考

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月11日 (月) 18:00～21:10	わが国の医療の現状、中国の医療の現状	菅河 真紀子
2	5月13日 (水) 18:00～21:10	わが国医療の位置づけ(オランダとの対比)	田淵 典之
3	5月14日 (木) 18:00～21:10	わが国医療の位置づけ(シンガポールとの対比)	中田 健夫
4	5月15日 (金) 18:00～21:10	発表・総合討議など	河原 和夫 菅河 真紀子

医療保険論

Health Insurance Policy I

科目コード: 4014 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	佐藤 主光	一橋大学大学院経済学研究科 教授	satom@econ.hit-u.ac.jp
科目担当者	小塩 隆士	一橋大学経済研究所 教授	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

高齢化社会を迎えるわが国の医療保険財政の現状や課題について経済学の観点からどのように説明、評価、及び政策提言を行うのかを理解してもらう。

概要

高齢化の進展とともにわが国の医療費・介護費用は増加の一途を辿っている。これらの費用の多くは公的な医療保険、介護保険によって賄われているが、今後、こうした公的保険制度が破綻することなく国民に保険サービスを提供し続けられるのかどうかについては不安視する向きもある。人間は一人一人が生きていくなかで様々なリスクに直面する。例えば、車を運転して事故を引き起こすリスクであるが、これには自動車保険があり民間で供給されている。一方、病気になるリスクや長生きして貯蓄が底をついてしまうリスクに対しては民間の保険もあるが、社会保障が重要な役割を担ってきており、人々は給与の割以上も公的保険に支払っている。この講義では少子高齢化社会を迎えるわが国の医療保険の役割と課題について考える。

4. 授業の到達目標

- ①医療保険の役割と課題について経済学の視点(エビデンスとロジック)から正しく理解する。
- ②現在のわが国の医療制度の課題や改革の方向性、諸外国における改革の取り組みについて理解するとともに、従前の観念にとらわれない議論をする。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

6月2日に行う期末試験の成績による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

教科書:テキストは使用しない。

参考書:小塩隆士・田近栄治・府川哲夫著「日本の社会保障政策－課題と改革」東京大学出版会

10. 履修上の注意事項

「1.5 医療保険制度改革論」と内容的には連続した科目であるから、引き続き履修することが望ましい。
あわせて他の医療経済関連科目である「1.7 医療産業論」、「1.8 医療経済論」を履修すると一層理解が深まる。

11. オフィスアワー

科目責任者 佐藤主光(satom@econ.hit-u.ac.jp)宛にメールで問い合わせください。

12. 備考

ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月14日 (火) 18:00～21:10	わが国の医療保険の現状と課題	小塩 隆士
2	4月21日 (火) 18:00～21:10	保険の経済理論Ⅰ: 不確実性と保険、情報の非対称性	小塩 隆士
3	4月28日 (火) 18:00～21:10	保険の経済理論Ⅱ: 逆選択とモラルハザードへの対応	佐藤 主光
4	6月2日 (火) 18:00～21:10	試験ならびにディスカッション	佐藤 主光 田近 栄治 小塩 隆士

医療保険制度改革論

Health Insurance Policy II

科目コード: 4015 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	佐藤 主光	一橋大学大学院経済学研究科 教授	satom@econ.hit-u.ac.jp
科目担当者	田近 栄治	一橋大学大学院経済学研究科 教授	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

高齢化社会を迎えるわが国の医療保険財政の現状や課題について経済学の観点からどのように説明、評価、及び政策提言を行うのかを理解してもらう。

概要

本講義の内容は、医療政策「医療保険論」に続くものである。社会の高齢化とともにわが国の国民医療費は高い伸びを示してきた。それを財政的に支えることが困難になりつつある中、「効率化」を通じた医療費増加の抑制が制度自体の持続可能性を保证するために不可欠になってきている。従来の医療保険制度は国の詳細な統制・規制（診療報酬の抑制、病床等の規制等）はあっても、医療費抑制、及び質の確保への「誘因」づけの視点が欠けていた。本講義では社会保険制度の枠内に競争原理を取り入れた「管理競争」の理論と実践について概観する。管理競争の下では保険者はリスク管理主体として医療サービスの質と評価や情報公開する機能を果たす。個人は保険者の自由選択（「足による投票」）を行う。政府には、「スポンサー」として医療機関や保険者をモニタリング、情報を開示するほか、国民皆保険を堅持し、最低限の医療サービスを保证することが求められている。講義では、こうした管理競争の効果とわが国への導入可能性についてオランダやドイツの医療制度改革の経験を踏まえつつ考えていく。

4. 授業の到達目標

- ①医療保険の役割と課題について経済学の視点（エビデンスとロジック）から正しく理解する
- ②現在のわが国の医療制度の課題や改革の方向性、諸外国における改革の取り組みについて理解するとともに、従前の観念にとらわれない議論をする。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

6月2日に行う期末試験の成績による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

教科書:テキストは使用しない。

参考書:小塩隆士・田近栄治・府川哲夫著「日本の社会保障政策－課題と改革」東京大学出版会

10. 履修上の注意事項

「1.4 医療保険論」と内容的には連続した科目であるから、一緒に履修することが望ましい。

あわせて他の医療経済関連科目である「1.7 医療産業論」、「1.8 医療経済論」を履修すると一層理解が深まる。

11. オフィスアワー

科目責任者 佐藤主光(satom@econ.hit-u.ac.jp)宛にメールで問い合わせください。

12. 備考

ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月12日 (火) 18:00～21:10	日本の社会保障制度Ⅰ: わが国の社会保障制度と課題	田近 栄治
2	5月19日 (火) 18:00～21:10	日本の社会保障制度Ⅱ: 介護保険、医療保険の現状について	田近 栄治
3	5月26日 (火) 18:00～21:10	保険者機能と医療保険制度改革: 欧米諸国における医療保険制度改革から学ぶ	佐藤 主光
4	6月2日 (火) 18:00～21:10	試験ならびにディスカッション	佐藤 主光 田近 栄治 小塩 隆士

医療計画制度

Health Care Plan

科目コード: 4016 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野 教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	近藤 太郎	近藤医院 院長、東京都医師会 副会長	
	櫃本 真幸	愛媛大学医学部附属病院 医療福祉支援センター長	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ① 医療計画制度の沿革、特色、問題点を理解する。
- ② 国、都道府県、住民、関係者・関係団体の機能や役割を理解する。
- ③ 医療計画制度を策定、遂行する上で必要なデータ、体制等を理解する。
- ④ 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。

概要

過去の医療計画制度の問題点と成果を理解するとともに、平成25年度から始まった現行の医療計画の問題点、医療計画制度の理念、目的、評価指標、実施方法、受益者としての住民の役割、医療提供者の役割などを理解する。また、現在までの成果や問題点、データを分析・理解する能力を養うとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、今後のあるべき医療計画制度を論じる能力を身につける。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4. 授業の到達目標

まず、医療計画制度の沿革と必要性、問題点を過去の医療計画をもとに理解する。そして、医療計画制度の理念、目的、目標、計画策定過程、執行体制、評価、住民参加等の項目に関する分析を国外の同様の計画とも対比しながら行いながら理解を深め、将来の最適な医療計画制度に関わる政策像が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

5. 授業方法

講義形式、討議、発表、事例検討などによる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、テスト結果または提出されたレポート内容(30点)と参加状況(70点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

現在、医療計画の見直しの委員会が開かれているので、厚生労働省のホームページから資料を入手し、熟読する。

9. 参考書

教科書:特に指定しない

参考書:① 郡司篤晃「保健医療計画ハンドブック」(第一法規出版) ※ただし、絶版のため図書館等で閲覧すること

② 足立幸男／森脇俊雅 編「公共政策学」(ミネルヴァ書房)

③ Edith Stokey and Richard Zeckhauser「政策分析入門」(勁草書房)

④ 西谷剛「実定行政計画法 プランニングと法」(有斐閣)

⑤ 厚生労働省ホームページ「医療計画検討会」

その他必要に応じて指示する。

10. 履修上の注意事項

「1.1 医療提供政策論」「1.4 医療保険論」「9.3 医学概論」「2.4 医療機能評価」と関連する。

11. オフィスアワー

毎週月曜日午後17:00～18:00

科目責任者 河原和夫教授室(M&Dタワー16階)

12. 備考

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月18日 (月) 18:00～21:10	医療計画制度総論	河原 和夫
2	5月20日 (水) 18:00～21:10	医療提供者から見た医療計画	近藤 太郎
3	5月21日 (木) 18:00～21:10	福祉制度等の他制度との関係	櫃本 真聿
4	5月22日 (金) 18:00～21:10	発表・総合討議など	河原 和夫 菅河真紀子

医療産業論

Health Care Industry

科目コード: 4017 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	佐藤 主光	一橋大学大学院経済学研究科 教授	satom@econ.hit-u.ac.jp
科目担当者	加藤 良平	株式会社ケアレビュー 代表取締役	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

加藤の授業では、受講生は病院の経営環境を十分に理解した上で、事例研究等において積極的に議論に参加することが求められる。

佐藤の授業では、医療経営、医療産業に関わる実務家を招き、その現状や問題点について紹介、議論していく。

概要

加藤は、民間の医療情報会社を経営する立場から、病院経営に関する事例研究を中心に講義する。医療制度の改革や情報通信インフラの発達に伴い、日本の病院が直面する経営環境の変化を説明するとともに、国内外の先進的な病院経営の事例を通して、これからの時代に求められる視点を議論する。

4. 授業の到達目標

- ①国内外の先進的な病院経営(民間委託など)や医療産業について理解を深め議論することができる。
- ②一般企業とは異なる特性を有する医療産業の現状についてデータ=エビデンスに基づいた理解を深め議論することができる。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

7月3日に行う期末試験の成績による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

9. 参考書

参考サイト:「病院情報局」(<http://hospia.jp>)

10. 履修上の注意事項

他の医療経済関連科目である「1.4 医療保険論」、「1.5 医療保険制度改革論」、「1.8 医療経済論」を合わせて履修することが望ましい。

11. オフィスアワー

科目責任者 佐藤主光 (satom@econ.hit-u.ac.jp)宛にメールで問い合わせください。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月12日 (金) 18:00～21:10	先進的な病院経営の事例研究	加藤 良平
2	6月19日 (金) 18:00～21:10	医療情報の整備と課題について (ゲストスピーカーによる講義)	佐藤 主光
3	6月26日 (金) 18:00～21:10	民間からみた医療産業 (ゲストスピーカーによる講義)	佐藤 主光
4	7月3日 (金) 18:00～21:10	試験ならびにディスカッション	佐藤 主光 加藤 良平

医療経済論

Health Economics

科目コード: 4018 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	佐藤 主光	一橋大学大学院経済学研究科 教授	satom@econ.hit-u.ac.jp
科目担当者	井伊 雅子	一橋大学大学院経済学研究科 教授	
科目担当者	増原 宏明	広島国際大学医療経営学部 専任講師	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

概ね以下の内容をカバーする。

- ① 欧米・アジアの医療制度
- ② 医療経済学の考え方
- ③ 経済学から見た終末期医療費問題
- ④ 医療保険からの償還方式が医療機関に与える影響

概要

井伊は欧米やアジアの医療制度を概観し、国際的な視点から実践的に医療経済の課題を検討する。また、医療経済学の特色及び一般経済学との相違点、さらに医療経済学の研究課題に関する現状と研究に必要な基本知識を習得する。

増原は、医療経済学の研究範囲を概観し、その上で経済学の視点による分析の具体的な事例として終末期医療費問題と医療職不足問題を理論と実証の両面から取り上げる。

4. 授業の到達目標

- ① 医療経済分野の今日的な課題を国際的な視点から理解する。
- ② 各種データ、指標、トピックスなどを提供し、医療システムが直面する医療経済学分野の重要課題について理解を深める。
- ③ 医療経済学に関連するさまざまな手法やプログラムの概要を理解する。
- ④ 医療経済学の総合的な知識修得を目的として講義及びグループディスカッションを含む系統的かつ実用的な講義をめざす。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

11月20日に行う期末試験の成績による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

9. 参考書

「医療の経済学(第二版)」(日本評論社)、「医療経済学講義」(東京大学出版会)、「医療の在り方を経済学で模索する」(日経文庫『身近な疑問が解ける経済学(2014)』より)など、授業時間に紹介推薦する。

10. 履修上の注意事項

他の医療経済関連科目である「1.4 医療保険論」、「1.5 医療保険制度改革論」、「1.7 医療産業論」を合わせて履修することが望ましい。

11. オフィスアワー

科目責任者 佐藤主光(satom@econ.hit-u.ac.jp)宛にメールで問い合わせください。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月9日 (金) 18:00～21:10	医療資源の適正配分	井伊 雅子
2	10月23日 (金) 18:00～21:10	医療職の労働市場と医師・看護師不足問題	増原 宏明
3	10月30日 (金) 18:00～21:10	日本の医療制度の今日的課題	井伊 雅子
4	11月20日 (金) 18:00～21:10	試験	佐藤 主光

医療と社会の安全管理

Safety management system in the medical facilities and in society

科目コード: 4021 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野 教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	谷川 武	順天堂大学 公衆衛生学教室 教授	
	金谷 泰宏	国立保健医療科学院 部長	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・社会全体の安全対策・危機管理政策の概要
- ・医療安全対策(血液事業の安全対策も含む)
- ・生活習慣等に起因する個人の健康危機の実態及びその予防・治療方策の概要
- ・原子力災害に関する職域等での健康危機管理
- ・患者・市民の立場に立った医療安全対策

概要

医療安全の推進が叫ばれて久しいが、安全・安心の社会を保持することは医療だけの問題ではなく、首都直下型地震や新型インフルエンザ、原子力関連事故等の医療に関わる健康危機管理事象への備えも必要である。加えて生活習慣等に起因する健康危機に対する個人レベルでの健康管理も現代社会では重要な課題となっている。講義では、これらの社会的要請が強い事象に関して、保健医療上の問題の本質を理解し、安全対策を進める上で不可欠な政策について言及する。また、諸外国の実情についても分析を行っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4. 授業の到達目標

- ・現代社会における危機管理について概説できる。
- ・生活習慣等に起因する個人の健康危機の実態、予防・治療方策について説明できる。
- ・国および地域における健康危機管理・防災対策を説明できる。
- ・医療安全対策に関する取り組みを概説できる。
- ・血液事業の安全対策に関する取り組みを概説できる。
- ・新興・再興感染症の定義、疫学、近年の国内外の感染症アウトブレイクを概説できる。
- ・大規模震災対策(天災・人災)に対処すべき課題と必要な政策について説明できる。

5. 授業方法

講義形式、討議、発表、事例検討などによる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、テスト結果または提出されたレポート内容(30点)と参加状況(70点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

過去の医療事故や血液製剤を取り巻く訴訟、震災等の事例を調べ、そのイベントの特徴や対応の問題点などを整理しておく。加えて、昨今の医療安全および健康危機管理・災害対策、個人の健康管理政策の実態等についても書籍・インターネット等で調べておく。

9. 参考書

平成26年版防災白書（内閣府）など

10. 履修上の注意事項

「1.1 医療提供政策論」「1.4 医療保険論」「9.3 医学概論」と関連する。

11. オフィスアワー

毎週月曜日午後17:00～18:00

科目責任者 河原和夫教授室(M&Dタワー16階)

12. 備考

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月25日（月） 18:00～21:10	医療安全・社会安全対策総論／血液事業の 危機管理および安全対策	菅河 真紀子
2	5月27日（水） 18:00～21:10	健康危機管理について	金谷 泰宏
3	5月28日（木） 18:00～21:10	生活習慣や職環境等に起因する個人と社会 の健康危機管理	谷川 武
4	5月29日（金） 18:00～21:10	発表・総合討議など	河原 和夫 菅河真紀子

医療機関リスク管理

Risk Management in Medical Institutions

科目コード: 4022 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	安原 真人	薬物動態学分野 教授	yasuhara.m.mpha@tmd.ac.jp
科目担当者	大川 淳	整形外科学分野 教授	okawa.orth@tmd.ac.jp
	長井 健人	(株)インターリスク総研	
	小池 竜司	感染制御部 部長	koike.rheu@tmd.ac.jp
	野村 徹	(株)テクノ・スタッフ、大阪大学大学院非常勤講師	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・大学病院におけるインシデントレポート分析
- ・企業家からみた大学病院のリスク管理の問題点
- ・プロセスマネジメントとしての医療リスク管理とメディカルリスク分析演習
- ・医療機関における感染症対策と危機管理
- ・医薬品の適正使用

概要

医療機関における医療事故と感染症対策について講述する。医療事故の分析評価手法であるインシデントレポート、RCA、FMEAなどの有効性と限界、企業のリスク専門家からみた医療安全管理上の問題点と方策、医薬品の適正使用、感染危機管理のフレームワーク、感染対策委員会・インфекションコントロールチームの組織と機能、感染症アウトブレイクに対する危機管理の実例とシミュレーションなどについて、講義・演習を行う。

4. 授業の到達目標

- ・医療機関におけるリスクマネジメントの実際を理解し、メディカルリスクマネジメントの手法を学ぶ。
- ・医薬品の関わるリスクと安全対策を理解する。
- ・医療機関における感染症対策と危機管理を理解する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

参加状況、授業での態度、レポートにより評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

教科書:特になし。

参考書:米国医療の質委員会／医学研究所「人は誰でも間違える」(日本評論社)

中島和江、児玉安司「ヘルスケアマネジメント」(医学書院)

河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラー」(医学書院)

10. 履修上の注意事項

「2. 1 医療と社会の安全管理」が国全体もしくは社会の安全管理を主として論ずるのに対し、本講では医療機関レベルでの問題にフォーカスを絞って述べる予定である。

11. オフィスアワー

授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることで、適宜これに対応する。

12. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月1日 (月) 18:00～21:10	大学病院における医療安全管理教育 企業におけるリスクマネジメント	大川 淳 長井 健人
2	6月3日 (水) 18:00～21:10	医薬品の安全性	安原 真人
3	6月4日 (木) 18:00～21:10	医療リスク管理 メディカルリスク分析演習	大川 淳 野村 徹
4	6月5日 (金) 18:00～21:10	院内感染対策と危機管理	小池 竜司

医療のTQM

Total Quality Management in Health Care

科目コード: 4023 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	飯塚 悦功	東京大学 名誉教授	iizukay@tqm.t.u-tokyo.ac.jp
	小林 美亜	千葉大学医学部附属病院 特任准教授	miak@mti.biglobe.ne.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療の質保証活動であるTQMの方法論およびクリニカルパスについての理解を深める。

概要

日本においても医療の質についての議論が行われるようになってきているが、社会が納得できるような意味での質保証は未だ十分には行われていない。ここでは、医療における質保証の基本的な方法論について習得し、またそれを実践する上での問題点について検討する。

4. 授業の到達目標

- ① 医療の質の要素について理解を深める。
- ② 医療の質保証の方法論について修得する。
- ③ 日本における医療の質保証の現状について説明する。
- ④ 今後の医療におけるTQMの活動について議論できる。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、参加状況(50点)および講義中に課すレポートの評価(50点)の総合評価による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

教科書および参考書などに目を通しておくこと。また、医療機関におけるTQM活動について情報収集しておくこと。

9. 参考書

教科書:

・上原、黒田、飯塚、棟近、小柳津「医療の質マネジメント～医療機関におけるISO 9001の活用～」(日本規格協会)2003年

・飯塚、棟近、上原「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携 質向上につながるISO導入ガイド」(日本規格協会)2006年

参考書:

・高瀬、阿部 編「エビデンスに基づくクリニカルパス～これからの医療記録とヴァリエーション分析～」(医学書院)2000年

・飯田修平「医療における総合的質経営」(日科技連)2003年

・飯田修平、飯塚悦功、棟近雅彦 監修「医療の質用語事典」(日本規格協会)2005年

・飯塚悦功、棟近雅彦、上原鳴夫監修「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携 質向上につながるISO導入ガイド～」(日本規格協会)2006年

・飯塚悦功、水流聡子「医療品質経営」(医療企画)2010年

その他必要に応じて指示する。

10. 履修上の注意事項

系2の「医療の質の確保とリスク管理」全般との関連も深い、系10の「臨床研究・治験」との関連もある。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることに、適宜これに対応する。

12. 備考

医療管理の中核をなす科目であるため、十分に習得すること。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月24日 (火) 18:00～21:10	医療の質マネジメント	飯塚 悦功
2	11月25日 (水) 18:00～21:10	医療のTQM概論	高瀬 浩造
3	11月26日 (木) 18:00～21:10	医療のTQM実践	高瀬 浩造
4	11月27日 (金) 18:00～21:10	クリニカルパス	小林 美亜

医療機能評価

Evaluation of quality and reliability of health care system

科目コード:

4024

1年次

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野 教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	河北 博文	社会医療法人 河北医療財団 理事長	
	藍 真澄	保険医療管理学分野 教授	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

戦後、我が国の医療提供体制は量的な整備を中心に進められてきた。しかし近年、医療安全や医療の質、そして患者対応等のいわば質的な保証を望む声が強くなってきた。それにともなってこれらの事項を測る適切な指標の確立についても研究等が精力的に進められている。講義では医療機能評価の前提となる医療の量的・質的要件の考え方、経済的・財政的・診療報酬的観点からの評価、評価指標および評価方法等の諸問題、ならびに医療従事者および患者双方の立場から医療機能を向上させる方策についても検討する。また、具体的事例として医療機能評価機構などで実施されている病院機能評価の実態、評価に関連する統計資料をもとにわが国の病院機能評価の現状と問題点を理解する。特に、誰のために何を目的とした評価なのか、患者・家族の立場、医療関係者ならびにその他の関係者・関係団体の立場からも問題点や必要性を指摘できる能力を養い、理解を深めていく。そして、将来の最適な病院機能評価のあり方が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

概要

病院機能評価に関わる理念、目的、指標、方法、受益者、関係者の役割などを理解するために現在までの成果や問題点、データを分析・理解する能力を養うとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、現代のわが国の実情に最も適した病院機能評価のあり方を論じる能力を身につける。患者の視点から医療を捉えることに心がける。

4. 授業の到達目標

- ① 医療機関が患者・家族、地域住民及び関係者から求められている役割や使命を理解する。
- ② 各種医療関連データから病院機能評価にふさわしい指標や評価の仕組み、方法ならびに誰が何のために評価するのかを理解する。
- ③ 病院機能評価が始まった歴史的経緯および現状、それらの問題点を理解する。
- ④ 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。
- ⑤ 医療機関および医療人の役割の理解を通じて医療システム全体を評価できる資質を養う。

5. 授業方法

講義形式、討議、発表、事例検討などによる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、テスト結果または提出されたレポート内容(30点)と参加状況(70点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

日本医療機能評価機構、厚生労働省、研究報告等で医療機能評価の概要、関係者の取り組み、問題点など現在の状況を調べておく。

9. 参考書

参考書：日本医師会・厚生省健康政策局指導課「病院機能評価マニュアル」(金原出版)

Restructuring Hospital Quality Assurance: The New Guide for Health Care Providers Jean Gayton Carroll

参考サイト：

(財)日本医療機能評価機構ホームページ「<http://jcqhc.or.jp/html/index.htm>」

JCAHO (Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organizations) ホームページ「<http://www.jcaho.org/>」

AHRQ (Agency for Healthcare Research and Quality) ホームページ「<http://www.ahrq.gov/>」

その他必要に応じて指示する。

10. 履修上の注意事項

「1.1 医療提供政策論」「2.2 医療機関リスク管理」「2.3 医療のTQM」などMMAの中の多くの科目と関連する。

11. オフィスアワー

毎週月曜日午後17:00～18:00

科目責任者 河原和夫教授室(M&Dタワー16階)

12. 備考

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月15日 (月) 18:00～21:10	医療機関および医療人の役割とその評価	河原 和夫
2	6月16日 (火) 18:00～21:10	医療機能評価概説、発表・総合討議など	河原 和夫 菅河真紀子
3	6月17日 (水) 18:00～21:10	日本医療機能評価機構の活動	河北 博文
4	6月18日 (木) 18:00～21:10	医療保険制度からの評価	藍 真澄

医療制度と法

Health Care System and Law

科目コード: 4031 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	小西 知世	明治大学法学部 教授	tomoyo@meiji.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

以下の各項目を取り上げていく予定である。(受講者の希望も聴きながら、随時修正を加える)

- ① 法律(学)・医療関連法規の体系概観、医療・法の交錯の諸相
- ② 医療専門職に関する法制度(医師法・保健師法等の資格と業務に関する法)
- ③ 医療専門職に関する法制度(医療専門職間の業務分担関係・医行為論)
- ④ 医療に関わる物と場所の法制度(薬事法等の医薬品、臓器や組織等の特殊な物に関わる法)
- ⑤ 医療に関わる物と場所の法制度(医療法等の医療施設や地域医療体制に関わる法)
- ⑥ 医療の財源に関する法制度(健康保険法等の医療保険制度に関わる法)
- ⑦ 救急医療に関する法制度
- ⑧ 在宅医療に関する法制度

概要

憲法を頂点とするわが国の法体系を概観したのちに、総論的に医療専門職・医療に関する物や場所・医療の財源に関する法と制度を扱う。その後、各論的な問題として、救急医療・在宅医療に関する具体的な諸問題を扱うこととなる。詳細は授業計画(予定)の項を参照のこと。

上記(1)を目標とするこの授業では、細かい条文の解説などはさておいて、医療制度に関する基本的な論点を、法学の立場から整理検討することとしたい。

本授業への参加を通じて、「法的なものの考え方」の特徴を理解してもらえようにつとめたい。

4. 授業の到達目標

- ・医療関連法規の概観
- ・わが国の医療制度の根底にある基本的な法理念の理解等

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

参加状況およびレポート。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に予習の必要はないと思われるが、テーマに関連した話題提供があれば歓迎する。

9. 参考書

教科書:特に指定しない。

参考書:久々湊晴夫・旗手俊彦編『はじめての医事法』(成文堂、2011年)

その他、参考文献は講義の中で随時紹介する。

10. 履修上の注意事項

同系に開設された他の科目のうち、「3. 3 生命倫理と法」では、本授業と密接に関連する論点が多く、法と倫理の異同等を考察するためにも併せて履修されることを強くお勧めする。それにより「医療関連法規」に関する理解も深まるはずである。

11. オフィスアワー

質問等は、講義終了後、あるいはメールにて受け付ける。

12. 備考

本授業の担当者は法律学(医事法)の研究者であるが、そのような立場からの「一方通行」的な講義・解説に終始するのではなく、参加者との建設的・有意義な対話を通じて新たに問題を発見し理解を深められるような「対話重視」型の授業としたい。その意味で、受講者には積極的な参加(出席、発言、問題提起等)を希望している。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	7月13日 (月) 18:00～21:10	法体系概説・医療関連法規概観・医療専門職に関する法制度 他	小西 知世
2	7月14日 (火) 18:00～21:10	医療専門職に関する法制度・医療に関わる物と場所の法制度 他	小西 知世
3	7月15日 (水) 18:00～21:10	医療に関わる物と場所の法制度・医療の財源に関する法制度 他	小西 知世
4	7月16日 (木) 18:00～21:10	救急医療・在宅医療 他	小西 知世

医事紛争と法

Medical Disputes and the Law

科目コード: 4032 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	滝沢 昌彦	一橋大学大学院法学研究科 教授	m.takizawa@r.hit-u.ac.jp
科目担当者	南出 行生	弁護士(東京弁護士会所属)	minamide@sirius-law.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ① 医事紛争と法の基本法理(医療行為、診療契約、医師の権利義務と患者の権利義務、責任根拠、過失、因果関係、損害)を学ぶ。
- ② 医師の民事責任、刑事責任、行政責任について実例に基づき学ぶ。
- ③ 医療過誤判例の基本法理を学ぶ。
- ④ 医療過誤訴訟の実情や訴訟の具体的な進め方と問題点を学ぶ。
- ⑤ 臨床現場での医事紛争の問題点と対処方法について考える。
- ⑥ 病院や医師の医療事故防止対策・リスクマネジメントについて考える。
- ⑦ その他、医事紛争をとりまく法律問題、医療過誤裁判の今後とあるべき医療について考える。

概要

以下の各項目を取り上げていく予定である。(受講者の希望も聴きながら、随時修正を加えることがある)

- ① 基本用語と法理(医事紛争・医療事故・医療過誤、民事責任・刑事責任などの法的責任、行政処分と雇用契約上の処分、損害賠償責任における過失・損害・因果関係、診療契約、医師と医療機関の義務、患者の義務、共同不法行為、使用者責任、過失相殺、安楽死・尊厳死など)
- ② 基本判例と判例法理(説明義務、告知義務、転送義務、患者の同意・自己決定権、医療水準、医療行為と裁量、因果関係、延命利益と期待権、信教と輸血拒否、問診、検査、投薬・注射、手術、麻酔、患者管理、院内感染、救急医療、周産期医療など)
- ③ 医事紛争の発生から訴訟まで(異状死の届出義務、カルテ開示、個人情報保護と情報公開、証拠保全、解剖、診断書、患者側への説明義務とその範囲、示談、医師賠償責任保険)
- ④ 訴訟の流れと判決まで(医療過誤訴訟の現状、迅速な裁判と計画審理、医療専門部、専門員制度、訴状と答弁書、準備書面、争点整理、診療経過一覧表、文書送付嘱託、調査嘱託、診療録・文献・意見書・陳述書その他の書証、証人尋問、鑑定、和解、判決、控訴・上告、弁護士費用・訴訟費用の負担、訴訟対策)
- ⑤ リスクマネジメントと事故防止策、保険
- ⑥ 医療過誤裁判の今後の行方と医療のあり方

4. 授業の到達目標

医事紛争の中心である医療過誤の問題について、基本法理を学習し、実際の判例やケース・スタディをもとに問題点を学び、また医療裁判や医事紛争の実際についての概要を知ってもらい、実務に役立つ知識を習得する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

参加状況、授業への参加の仕方、レポート(「医療過誤・医事紛争について」)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

できれば、レジメと資料を作成し、遅くとも1週間くらい前に配布したいと考えているので、その範囲で予習してもらえれば、問題点が理解しやすくなる。

9. 参考書

特に指定しない。

10. 履修上の注意事項

同系に開設された他の科目のうち、「3. 3 生命倫理と法」では、本授業と密接に関連する論点が多く、法と倫理の異同等を考察するためにも併せて履修されることを強くお勧めする。それにより「医療関連法規」に関する理解も深まるはずである。

11. オフィスアワー

科目責任者 滝沢昌彦(m.takizawa@r.hit-u.ac.jp)宛にメールで問い合わせてください。

12. 備考

「3.1 医療制度と法」という講座があり、一部重複するところがあるかもしれない。なるべく一方通行の講義でなく、ケース・スタディを用いて、学生に意見を述べてもらい、討論する時間を多くとりたいと考えている。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	8月24日 (月) 18:00～21:10	基本用語と法理	滝沢 昌彦
2	8月25日 (火) 18:00～21:10	ケース・スタディ① 医事紛争の内容、医師と患者の権利と義務	南出 行生
3	8月26日 (水) 18:00～21:10	ケース・スタディ② 医師の注意義務、損害との因果関係	南出 行生
4	8月27日 (木) 18:00～21:10	ケース・スタディ③ 医療過誤訴訟の流れと問題点	南出 行生

生命倫理と法

Bioethics and Law

科目コード: 4033 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	佐藤 雄一郎	東京学芸大学教育部学部 准教授	yusato@u-gakugei.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医学・生命科学の発達により惹起される法的・倫理的・社会的諸問題の検討

概要

以下の各項目を取り上げていく予定である(受講者の希望も聴きながら、随時修正を加えることがある)。

- ① 医学研究をめぐる諸問題
- ② ヒト胚・クローン技術・幹細胞研究、ヒト由来試料の医学的利用、遺伝子解析研究、バイオバンク、コホート等
- ③ 人工妊娠中絶、生殖補助医療技術
- ④ 終末期医療の諸問題(安楽死、医療の拒否・尊厳死、重度障害新生児の治療)
- ⑤ 脳死、臓器移植(生体間移植、臓器売買等を含む)

4. 授業の到達目標

人の生命の始期・終期に関することや、医学・生命科学の発達により惹起される法的・倫理的・社会的諸問題を検討する。

一部は講義形式で行う部分もあるが、例えば遺伝病の告知、生殖補助医療規制の意義と限界、延命治療中止・差し控えに関する判断枠組み、臨床研究のあり方、生体間移植におけるドナー選定の問題、出生前診断と胎児の権利等々の具体的なテーマ(以上はあくまで例示にすぎない)を設定し、「もし倫理委員会の委員としてそうした案件を審議するとしたら、どのような事項をどの程度に考慮しなければならないか」というようなイメージで、実践的な双方向の議論を行うことを通じて考察を深めていきたいとも考えている。

5. 授業方法

基本的には講義形式によるが、積極的な発言を期待している。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

参加状況(3割)およびレポート(7割)。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に予習の必要はないと思われるが、普段からこの分野のニュース等に関心を持つておくことが望ましい。テーマに関連した話題提供があれば歓迎する。

9. 参考書

教科書: 特に指定しない。

参考書: 甲斐克則編「レクチャー生命倫理と法」(法律文化社)2010年

その他、参考文献は講義の中で随時紹介する。

10. 履修上の注意事項

同系に開設された他の科目のうち、「3. 1 医療制度と法」では、本授業と密接に関連する論点が多く、法と倫理の異同等を考察するためにも併せて履修されることを強くお勧めする。

11. オフィスアワー

質問等は、講義終了後、あるいはメールにて受け付ける。

12. 備考

本授業の担当者は法律学(医事法および民法)の研究者であるが、そのような立場からの「一方通行」的な講義・解説に終始するのではなく、参加者との建設的・有意義な対話を通じて新たに問題を発見し理解を深められるような「対話重視」型の授業としたい。その意味で、受講者には積極的な参加(出席、発言、問題提起等)を希望している。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月22日 (月) 18:00～21:10	医学研究と法・倫理(1): 医療情報	神坂 亮一
2	6月23日 (火) 18:00～21:10	人の誕生と死亡: 生殖補助医療技術、出生前・着床前診断、安楽死・尊厳死	佐藤 雄一郎
3	6月24日 (水) 18:00～21:10	医学研究と法・倫理(2) 人由来試料、バンク	神坂 亮一
4	6月25日 (木) 18:00～21:10	移植: 死体の法的地位、臓器移植法、生体移植、細胞治療(再生医療)	佐藤 雄一郎

病院情報管理学

Hospital Information Management

科目コード: 4041 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	松浦 亨	北海道大学大学院社会医療管理学、北海道大学病院 臨床教授	macchan@med.hokudai.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療機関が取り扱う情報の管理方法について網羅的に習得する。

概要

病院が取り扱う情報の種別および量は近年大幅に膨張しており、その管理について医療機関の責任が問われてきている。ここでは、病院情報を診療情報と区別するため、医療機関が扱う情報のクラスであると定義し（診療情報はインスタンスと定義される）、管理すべき緊急度の高い情報種別を中心に議論する。また、情報の使用目的、個人情報保護との係わり、病院情報システムについても理解を深める。

4. 授業の到達目標

- ① 病院が管理する情報の範囲と種別を規定して、認識を深める。
- ② 病院情報と診療情報との意味論的な相違点を確認する。
- ③ 病院情報がどのように利用されるのかについて検討する。
- ④ 今後病院情報を管理する上での問題点について検討する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 情報の定義、種別と範囲
- ② 病院情報の管理とは
- ③ 病院管理・経営に必要な病院情報インスタンス
- ④ 公的に要求される病院管理情報
- ⑤ 個人情報保護法と病院情報安全管理
- ⑥ 病院情報システムの概要

7. 成績評価の方法

成績評価は、参加状況(50点)および講義中に課すレポートの評価(50点)の総合評価による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に無いが、医療機関での情報管理の実態について考察しておくこと。また、情報理論の一般知識を持っていた方が理解しやすいので、簡単に一般書レベルで構わないので、目を通しておくこと。

9. 参考書

参考書: 福田剛久・高瀬浩造 編「医療訴訟と専門情報」(判例タイムズ社)

10. 履修上の注意事項

「4.2 診療情報管理学」。その他の大半の授業科目での情報ソースに対応している。積極的な議論参加が要求される。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることで、適宜これに対応する。

12. 備考

積極的な議論参加が要求される。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	7月6日 (月) 18:00~21:10	情報管理の基礎	高瀬 浩造
2	7月7日 (火) 18:00~21:10	医療機関における情報管理	高瀬 浩造
3	7月8日 (水) 18:00~21:10	医療分野での情報化	高瀬 浩造
4	7月9日 (木) 18:00~21:10	大学病院での病院情報インスタンス	松浦 亨

診療情報管理学

Health Information Management

科目コード: 4042 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
科目担当者	麻生 玲子	(株)健康保険医療情報センター	
	前田 まゆみ	本学非常勤講師	
	桑原 比呂世	ヤンセンファーマ株式会社	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

診療情報その管理の概要を理解するとともに、診療情報を活用した様々な医療評価手法を理解することを目的とする。

概要

診療情報管理、診断群分類、包括評価、厚生統計等に関する最新の資料を配付し、プレゼンテーションを用いて講義を行った上で、質疑応答や学生の実務上の経験や意見に基づく討論等で理解を深める。配布使用予定の資料としては、ICD10コーディングのガイドライン、診断群分類DPCに関する中医協資料抜粋と厚生労働省研究班報告書抜粋、包括評価対応のためのマニュアル、厚生労働省諸統計の概要と研究報告書抜粋、諸論文の抜粋等を予定している。

4. 授業の到達目標

- ① 診療情報管理の概念とその実務を理解すること。
- ② 診断群分類および包括評価の概念と実務およびそれらの医療管理評価への応用を理解すること。
- ③ 診療情報、統計情報等のデータマネジメントと研究的活用方法を理解すること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

第1日: 診療情報管理総論、診療録管理の理論と実務、傷病名コーディングの理論と実務、診療報酬関連情報管理の実務、診断群分類の導入と効率的診療情報管理等に関する講義と討論(麻生講師)

診療情報と医療倫理(前田講師)

第2日: 診断群分類の理論と国際比較、日本版診断群分類DPCと包括評価の理論と実務、診断群分類を用いた医療管理の理論と実際等に関する講義と討論

第3日: 診断群分類を用いた医療の評価、我が国の医療提供体制の評価への診断群分類の応用、地域医療資源配分計画法、地域保健医療計画と診断群分類等に関する講義と討論

第4日: DPCデータ等の医療業務データの分析手法(桑原講師)

7. 成績評価の方法

成績評価は提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

診療記録関連の法的背景、診療録の電子記録、診療記録の作成技法等については触れる時間がほとんど無いため、他講または参考書にてその概略を理解しておくことが望ましい。

9. 参考書

参考書:「DPCデータ活用ブック・第二版」(じほう社)
「21世紀の医療と診断群分類」(じほう社)
「DPCと病院マネジメント」(じほう社)
「民間病院におけるDPC導入事例集」(じほう社)
「疾病、傷害および死因統計分類提要」第2巻(厚生統計協会)
「医療科学」第2版(医学書院) 等

10. 履修上の注意事項

医療提供体制の設計と評価の点で「1.1 医療提供政策論」と、診療情報の電子化や病院システムとの関連で「4.1 病院情報管理学」と関連すると考えられる。

11. オフィスアワー

平日10時より18時

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	7月21日 (火) 18:00～21:10	診療情報管理の基礎・診療情報と分析総論	麻生 玲子 伏見 清秀
2	7月22日 (水) 18:00～21:10	医療情報の標準化とDPC診断群分類包括 評価	伏見 清秀
3	7月23日 (木) 18:00～21:10	医療倫理と診療情報分析手法	前田 まゆみ 桑原 比呂世
4	7月24日 (金) 18:00～21:10	診療情報を用いた衣料評価	伏見 清秀

IT時代の医療診断システムとセキュリティ

Medical Diagnosis and Information Security in IT Era

科目コード: 4043 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	大山 永昭	東京工業大学像情報工学研究所 教授	yama@isl.titech.ac.jp
科目担当者	山口 雅浩	東京工業大学学術国際情報センター 教授	Yamaguchi.m.aa@m.titech.ac.jp
	尾形 わかは	東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科 教授	wakaha@mot.titech.ac.jp
	小尾 高史	東京工業大学像情報研究所 准教授	obi@isl.titech.ac.jp
	小杉 幸夫	東京工業大学 名誉教授	kyukio@kp.catv.ne.jp
	喜多 紘一	一般社団法人保健医療福祉情報安全管理適合性評価協会 理事長	k.kita@gakushikai.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療をとりまくIT技術をどのように生かしていくべきか、主として以下のテーマをもとに、将来に向けた戦略を考える素地を提供する。

- ・ 診断と治療をつなぐIT技術
- ・ 個人情報の管理とICカード
- ・ 医療情報の電子保存と証拠性
- ・ プライバシーの保護とセキュリティ
- ・ 医療IT化における医用画像診断装置の役割
- ・ ヘルスケア情報システムと地域医療

概要

本講義では、診断・治療に供される最新の医用画像診断技術の動向について概説するとともに、IT技術を駆使した遠隔医療や、患者のプライバシーを保護するための各種のセキュリティ技術について講じる。なお、本講義では情報に関する専門的知識を必要としないように配慮し、適宜、参加者とのディスカッションの場を設ける。

4. 授業の到達目標

最新の医用画像診断技術に触れるとともに、医療分野のICT化に関連する課題とその解決策を理解する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

レポート(本科目全体で、一編)

成績評価は、提出されたレポートの内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に必要としない。

9. 参考書

特になし。

10. 履修上の注意事項

より実際の病院業務と密着した内容については、「4.1 病院情報管理学」、および「4.2 診断情報管理学」をも併せて受講されたい。

11. オフィスアワー

東京工業大学すずかけ台キャンパスR2-324 平日9:30-17:30 Tel:045-924-5177

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月29日 (月) 18:00～21:10	概要・セキュリティ技術	尾形 わかは 小杉 幸夫
2	6月30日 (火) 18:00～21:10	個人情報の管理とICカード	大山 永昭
3	7月1日 (水) 18:00～21:10	医療情報システム・医用画像診断	山口 雅浩 小尾 高史
4	7月2日 (木) 18:00～21:10	ヘルスケア情報システムと地域医療	喜多 紘一

医療思想史

History of Medical Thoughts

科目コード: 4051 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	吉本 秀之	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授	h.yoshimoto@tufs.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

西洋医学・医療の歴史をサーヴェイすることを通して、歴史における医学・医療のあり方について基本的なポイントを理解してもらう。

概要

西洋における〈医〉の考え方を、ギリシア時代からキリスト教の時代、そしてルネサンス以降の近代、一九世紀の科学技術と産業化の時代、二十世紀の世界化と原子の時代と、いくつかの大まかな時代区分に従って医学の歴史とともに振り返り、それぞれの節目で生じた〈病〉に関する考え方やそれに対応した〈医療〉のあり方の変化とその意味を検討する。それを通して、〈医〉とは何か、治療と癒し、医と宗教、信と効能など、〈医〉のよって立つ関係、その特殊な意味を把握する。また、現代医療の諸条件を、医学の科学的なコンテキスト、および産業システムの歴史的展開と照らし合わせて検討し、産業化やマネジメント思想がもたらした〈医療〉体制の諸問題などを視野に入れながら、現代医療を考えるうえで必要と思われる知的な見とおしを提示する。時間軸に沿った歴史的変化の解説と、そこから引き出せる諸テーマの考察とを組み合わせた講義となる。

4. 授業の到達目標

現代医療を生み出しその枠組や方向を規定している西洋医療の考え方の歴史をたどり、現代の医学あるいは医療がどのような思想的伝統のうえに成立つものかを知る。それとともに、人間にとって〈医〉とは何かを根本から考えなおし、現代医療のあり方を照らし出す上で指標として役立つと思われる医療思想の基本的知見を身につける。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

第1回 古代から中世へ：医学・医療の出現と中世における大学医学部

第2回 ルネサンスと初期近代：近代科学の出現と医学・医療の変化

第3回 近代(1)：18世紀

第4回 近代(2)：19世紀から現代へ

おおむね以上のような配分を予定しているが、各回、講義と質疑応答で授業を進める。

7. 成績評価の方法

各回のコメントシート(50%)、並びにタームペーパー(期末レポート)(50%)により評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

医学史通史を1点と、個別の医学・医療史に関する論考を1点、読んでもらいたい。

9. 参考書

参考書: 梶田 昭 『医学の歴史』講談社学術文庫、2003. 小川鼎三『医学の歴史』中公新書、1964.
L・ステルペローネ 『医学の歴史』原書房、2009. W.H.マクニール『疾病と世界史』上下、中公文庫、2007.
川喜田愛郎『近代医学の史的基盤』岩波書店、1977. 飯島渉『感染症の中国史: 公衆衛生と東アジア』中公新書、2009.
見市雅俊・飯島渉他編著『疾病・開発・帝国医療』東京大学出版会、2001.
その他、教室で指示。

10. 履修上の注意事項

「3.1 医療制度と法」「3.3 生命倫理と法」「1.2 医療社会政策論」などに関連する。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることににより、適宜これに対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	9月7日 (月) 18:00～21:10	古代から中世へ	吉本 秀之
2	9月8日 (火) 18:00～21:10	ルネサンスと初期近代	吉本 秀之
3	9月9日 (水) 18:00～21:10	近代(1)	吉本 秀之
4	9月10日 (木) 18:00～21:10	近代(2)	吉本 秀之

世界の文化と医療

Medical Systems of the World from Cultural Perspective

科目コード: 4052 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	栗田 博之	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授	kuritah@tufs.ac.jp
科目担当者	河合 香吏	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授	kkawai@aa.tufs.ac.jp
	八木 久美子	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授	kuyagi@tufs.ac.jp
	床呂 郁哉	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授	tokoro@aa.tufs.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

グローバル化の波が世界の諸地域に与える影響をめぐって種々の議論が生じており、医療政策の分野もけっして例外ではない。多言語化、多民族化が進む我が国で、今後この分野での仕事に携わるものは、諸地域間の文化落差、死生観のちがひ、医療概念及びその実態に関する一定の知識と理解が要求される。本講義は、医療とその文化的背景に関する世界諸地域の個別事例の紹介を通して、これらの要請に答えることを目的とする。

概要

- ① 文化概念における医療のコンセプトを包括的な視野から明らかにする。
- ② 世界諸地域における文化において病と医療、死生観のテーマはどのように提示され、表象されてきたかを明らかにする。いずれも、担当教員の個別の問題意識にしたがいながら、講義と討論形式の二本立てによって授業を行う。

4. 授業の到達目標

世界諸地域の文化における医療の観念や死生観をめぐって理解を深め、幅広い教養と視野の涵養をめざす。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

第1回: 栗田博之「文化と生殖」

民俗生殖理論を出発点に、親子関係と生殖、新生殖技術、近代医療と伝統医療の併存といった問題を考察する。

第2回: 河合香吏「東アフリカ牧畜民の身体認識と医療」

東アフリカ牧畜民(おもにケニアのチャムス)における自家治療を対象とし、人びとの身体認識と、そうした認識にもとづいた医療行為を紹介するとともに、彼らの死生観について考える。

第3回: 八木久美子「イスラムにおける死生観」

イスラムでは人間の生死は神の創造の業の一コマとして理解されており、死を来世での新たな生へ向かう通過点と見ることなど、イスラムの死生観について紹介する。

第4回: 床呂郁哉「死生観・生命観の諸相」

アジアや西欧などを含む各地の死生観・生命観を紹介しながら生と死をめぐる文化と思想の背景を比較検討していく。

7. 成績評価の方法

成績評価は、提出レポート内容(60点)と参加状況(40点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

事前に配布したハンドアウトなどを読んでおくこと。

9. 参考書

授業中に指示する。

10. 履修上の注意事項

「5.1 医療思想史」「5.3 世界の宗教と世界観」と強い関連性をもつので併せて受講することを勧めたい。

11. オフィスアワー

科目担当者にメールで相談すること。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	9月4日（金） 18:00～21:10	文化と生殖	栗田 博之
2	9月14日（月） 18:00～21:10	東アフリカ牧畜民の身体認識と医療	河合 香吏
3	9月15日（火） 18:00～21:10	イスラムにおける死生観	八木 久美子
4	9月16日（水） 18:00～21:10	死生観・生命観の諸相	床呂 郁哉

世界の宗教と死生観

World Religion and the View of Life and Death

科目コード: 4053 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	土佐 桂子	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授	ktosa@tufs.ac.jp
科目担当者	飯塚 正人	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授	masato@aa.tufs.ac.jp
	西井 涼子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授	rnishii@aa.tufs.ac.jp
	丹羽 泉	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授	niwa@tufs.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

人の移動が格段に進む現代社会に対応し、まず、世界の民族文化に対する基礎知識を深めることを目的とする。具体的には、世界宗教を核にして、生と死の問題がいかに扱われているかを学ぶ。さらに、現代日本の状況を認識し、多言語多文化状況において医療に何が求められるかを考察する基盤を創ることを目的とする。

概要

グローバル化が進む現在、医療もその影響下にあることは間違いない。。もはや日本人医師が日本人患者だけを治療対象としておれない状況が生まれている。国籍や人種を超えて、担当患者の全人的な癒しを志すなら、当人の社会的、歴史的、文化のおよび宗教的背景に対して、一定の知識と理解を備えている必要がある。また異文化・異宗教への理解を深めることは、日本人と日本文化に対する再発見にもつながるだろう。そのような意図の下に、本講座では世界諸地域および諸文化における死生観について検討したい。

4. 授業の到達目標

- ① 真にボーダレスな治療を目指して、世界の民族文化について知識を深める。
- ② 世界の諸地域で、生と死の問題がどのように扱われているか検討する。
- ③ 多言語多文化時代において日本がどのような位置に置かれているか確認する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

全4回の講義では世界の全地域を網羅することはもとより不可能だが、ここではさしあたり、3地域(東アジア、東南アジア、中東)からキリスト教、イスラーム、上座仏教、儒教という、世界宗教のなかでも重要なものを取り上げ、その死生観、倫理観などを取り上げる予定である。また近年、日本でも移民・難民といった形で多文化・多民族共生を考えざるをえない状況が進行しており、医療の現場もその一つといえるだろう。講義のなかでは、ムスリムと仏教の共生のありようや韓国の多宗教状況に触れることで、日本の多文化状況を考察する手掛かりとしたい。また、世界における民間医療の組み込みや医療ツーリズムの展開なども、適宜紹介する予定である。

7. 成績評価の方法

講義毎のレスポンス・シートの提出(全4回)に加えて、いずれかの授業のテーマを選び、A4用紙1枚程度の簡単なレポートを提出してもらう。レスポンス・シートを含めた平常点とレポート評価とを併せて総合的に判断する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

東外大教員によるリレー講義「5.2 世界の文化と医療」と補完的な関係をもつので、併せて聴講することを望みたい。

9. 参考書

参考書:大木 晶「病と癒しの文化史:東南アジアの医療と世界観」(山川出版社)2002年
明治大学人文科学研究所編「明治大学公開文化講座「生と死」の東西文化論」(風間書房)2004年
加地伸行「儒教とは何か」(中公新書)1990年
加地伸行「沈黙の宗教—儒教」(筑摩書房)1994年
内田 樹「死と身体 コミュニケーションの磁場」(医学書院)2004年
田辺繁治「ケアのコミュニティ 北タイのエイズ自助グループが切り開くもの」(岩波書店)2008年

10. 履修上の注意事項

「5.1 医療思想史」「5.3 世界の宗教と世界観」と強い関連性をもつので併せて受講することを勧めたい。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取るにより、適宜これに対応する。

12. 備考

積極的に討論に参加すること。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	9月17日 (木) 18:00～21:10	仏教における死生観とその変容 ～上座仏教社会と日本の現在	土佐 桂子
2	9月18日 (金) 18:00～21:10	イスラームの死生観と生命倫理思想	飯塚 正人
3	9月24日 (木) 18:00～21:10	ムスリムと仏教徒の共生地域における生と死	西井 涼子
4	9月25日 (金) 18:00～21:10	東アジアにおける死生観 ～多宗教状況下にある韓国の事例を通して	丹羽 泉

病院設計・病院設備

Design of Medical Facilities and Services

科目コード: 4061 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	藤井 晴行	東京工業大学大学院理工学研究科 教授	fujii.h.aa@m.titech.ac.jp
科目担当者	岩堀 幸司	医療施設近代化センター	sengoku@heart.ocn.ne.jp
	仲 綾子	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 准教授	nakaayako@gmail.com

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療施設及び付属設備の目的、構造、機能、役割などについて、建築設計・建築計画という観点から理解する。医療マネジメントの専門家として、医療施設の建築や維持管理などに必要な知識を習得する。建築に関する教養を一般知識を身につける。

概要

各種病院施設の地域的計画、全体計画、各部門（病棟・外来・診療・供給・管理等）計画の基礎的事項について、人・物・情報の流れ、建物形態、面積規模、施設利用者への配慮等の観点から講述する。また、病院施設に求められる物理化学的環境とそれを創出する設備（空気調和・給排水衛生等）について実際の病院施設の事例をふまえて講述する。

4. 授業の到達目標

病院施設の計画に関わる基礎的事項の修得、病院設備のメカニズムの修得

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 病院施設の建築計画と設計の概要（藤井）
- ② 病院建築の事業計画、プロジェクト調達（仲）
- ③ 病院施設の設計計画の実例、先進病院建築事例（仲）
- ④ 病院設備の概要とメカニズム（岩堀）

7. 成績評価の方法

実在の医療施設の運用に関わる問題に注目し、施設及び施設の改善による解決方法を考える課題を出題する。問題設定の適切さ、解決方法の提案から伺える当事者意識、解決方法の内容などを評価対象とする。参加状況を加味する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に必要は無いが、講義に伴う演習等の復習を必要とする。

9. 参考書

TBA

10. 履修上の注意事項

「6.2 衛生工学・汚染管理」との関連性は特に高く、先に本科目を履修しておくことが望ましい。また、医療の質の確保と危機管理系の各科目の基礎科目として密接に関連するものである。

11. オフィスアワー

担当教員の本務地が講義キャンパスと異なるため、E-mail 及びアポイントにより対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	9月28日 (月) 18:00～21:10	病院施設の計画・設計	藤井 晴行
2	9月29日 (火) 18:00～21:10	病院建設事業(1)	仲 綾子
3	9月30日 (水) 18:00～21:10	病院建設事業(2)	仲 綾子
4	10月1日 (木) 18:00～21:10	病院設備のメカニズム	岩堀 幸司

衛生工学・汚染管理

Health Engineering and Contamination Control

科目コード: 4062 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	湯浅 和博	東京工業大学大学院理工学研究科 准教授	yuasa.k.aa@m.titech.ac.jp
科目担当者	岩堀 幸司	(NPO)医療施設近代化センター 常務理事	sengoku@heart.ocn.ne.jp
	鍵 直樹	東京工業大学大学院情報理工学研究科 准教授	kagi.n.aa@m.titech.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

本科目では、以下の点を含めた汚染管理の基礎的知識を修得させることを目的とする。

- ・病院施設の汚染管理の原則
- ・空気汚染物質と空気清浄
- ・病院建築計画と感染管理

概要

医療施設における衛生的環境の確保は、病院内感染の予防に向けた重要な課題である。本科目では、施設の汚染管理の面から、汚染管理の原則、隔離手法、汚染源と汚染物質、空気清浄と空気調和、水利用、クロスコンタミネーションの防止、病院の廃棄物と処理、エネルギー管理などについて講述する。

4. 授業の到達目標

医療施設の管理運営や医療政策の実務を専門とする者は、医療施設内の衛生に関わる工学の基礎的知識を有し、汚染管理の基本理念を理解している必要がある。本科目では、建築学や経営管理学などの工学分野における学部教育に準じた知識の修得を目標とする。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 病院施設の汚染管理の原則(湯浅)
- ② 空気汚染物質と空気清浄(鍵)
- ③ 建築計画と感染防止の考え方(岩堀)
- ④ 感染防止のディテール、ほか(岩堀)

7. 成績評価の方法

講義への参加状況(30%)、演習(20%)、レポート(50%)により評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に必要は無いが、講義に伴う演習等の復習を必要とする。

9. 参考書

未定

10. 履修上の注意事項

汚染管理には施設・設備の設計が大きく関わるため、「6.1 病院設計・病院設備」を履修していることが望ましい。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることで、適宜これに対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月5日（月） 18:00～21:10	病院施設の汚染管理の原則	湯浅 和博
2	10月6日（火） 18:00～21:10	空気汚染物質と空気清浄	鍵 直樹
3	10月7日（水） 18:00～21:10	建築計画と感染防止の考え方	岩堀 幸司
4	10月8日（木） 18:00～21:10	感染防止のディテール	岩堀 幸司

戦略と組織

Business Strategy and Organization

科目コード: 4071 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	林 大樹	一橋大学大学院社会学研究科 教授	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp
科目担当者	清水 洋	一橋大学イノベーション研究センター 准教授	shimizu@iir.hit-u.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

次の2つの課題について、組織の責任者として自ら深く考えるための枠組みを提供すること。

- ① 組織のリーダーとして、組織のミッションと目標をどのように定めるか。
- ② 組織目標を実現していくための「戦略」をどうつくるか。

概要

授業は担当教員による講義といくつかのグループに分かれてのクラス討議とで構成する。

4. 授業の到達目標

経営環境の複雑な変化を的確に把握し、時代状況に適合した経営体の使命(ミッション)を確立し、その意義を経営体の構成員にわかりやすく説明する能力を獲得するため、すぐれた経営の戦略と組織について深く考える。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

講義のテーマは以下を予定している。

- ① 戦略の基本的な考え方
- ② 競争戦略のアプローチ
- ③ 組織の基本的な考え方
- ④ 組織デザイン

7. 成績評価の方法

成績評価はクラス討議(グループ・ディスカッションとプレゼンテーション)への参加状況(50点)と提出レポートの内容(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指定された読み物をきちんと読んでください。

9. 参考書

教科書はない。参考書は授業の中で紹介する。

10. 履修上の注意事項

「1.2 医療社会政策論」「1.4 医療保険論」「8.1 人的資源管理」「8.2 人材の開発と活用」などと特に関連が深い。

11. オフィスアワー

担当教員に個別相談を希望する学生は、授業時に教員に直接相談するか、大学院教務事務室に相談すること。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月13日 (火) 18:00～21:10	戦略の基本的な考え方	清水 洋
2	10月14日 (水) 18:00～21:10	競争戦略のアプローチ	清水 洋
3	10月15日 (木) 18:00～21:10	組織の基本的な考え方	清水 洋
4	10月16日 (金) 18:00～21:10	組織デザイン	清水 洋

財務・会計

Finance / Accounting

科目コード: 4072 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	荒井 耕	一橋大学大学院商学研究科 教授	ko.arai@r.hit-u.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療界における管理会計について理解を深める。

概要

まず管理会計の基礎的内容について講義し、次いで責任センターマネジメントとしての管理会計、戦略遂行マネジメントとしての管理会計(医療界におけるバランスト・スコアカード)、経営情報マネジメントとしての管理会計(医療界における原価計算)について詳細に議論する。

4. 授業の到達目標

伝統的に産業界で活用されてきた各種の管理会計手法の医療界での活用可能性と修正すべき点について、しっかりと考察できるようになることを目標とする。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 管理会計の基礎
- ② 医療界における責任センターマネジメントとしての管理会計
- ③ 医療界におけるバランスト・スコアカード
- ④ 医療界における原価計算

7. 成績評価の方法

参加状況(最低2回)と授業及び教科書の熟読を踏まえた上での医療管理会計に関するレポートで評価。

8. 準備学習等についての具体的な指示

あらかじめテキストをよんでおくこと。

9. 参考書

教科書: 荒井 耕「医療バランスト・スコアカード: 英米の展開と日本の挑戦」(中央経済社)2005年
荒井 耕「医療原価計算: 先駆的な英米医療界からの示唆」(中央経済社)2007年
荒井 耕「病院原価計算: 医療制度適応への経営変革」(中央経済社)2009年
荒井 耕「医療サービス価値企画: 診療プロトコル開発を通じた費用対成果の追求」(中央経済社)2011年
荒井 耕「病院管理会計: 持続的経営による地域医療への貢献」(中央経済社)2013年
をテキストとする。

10. 履修上の注意事項

「7.1 戦略と組織」の授業をよく理解しておくとい。

11. オフィスアワー

科目担当者にメールで相談すること。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月24日 (土) 9:30~12:40	管理会計の基礎	荒井 耕 (ゲスト予定)
2	10月24日 (土) 13:30~16:40	医療界における責任センターマネジメントとしての管理会計	荒井 耕
3	10月25日 (日) 9:30~12:40	医療界におけるバランスト・スコアカード	荒井 耕 (ゲスト予定)
4	10月25日 (日) 13:30~16:40	医療界における原価計算	荒井 耕

医療の人間工学

Ergonomics for Health Care

科目コード: 4073 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伊藤 謙治	東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授	itoh.k.aa@m.titech.ac.jp
科目担当者	青木 洋貴	東京工業大学大学院社会理工学研究科 准教授	aoki.h.ad@m.titech.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

人間工学は人間の諸特性に適合するように作業や機器、システム等を設計・改善するための技術である。ここでは、幅広い人間工学の内容のうち、特に人間要因を中心に医療組織の管理、そして医療現場のさまざまな問題にアプローチする人間工学の概念、考え方を解説する。人間工学の医療への応用として、その中心的問題であるヒューマンエラーに関する諸問題、医療のリスクマネジメント、そしてユーザビリティ・エンジニアリングについて、基本的な考え方、アプローチ、および手法を、適用事例とともに講義する。

概要

下記「授業の到達目標」に向けて、教員による講義とともに、授業内でのディスカッションを行う。

4. 授業の到達目標

人間工学についての基本的考え方と人間工学アプローチを用いた医療組織の管理のための手法の習得

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 人間工学の歴史と重要性
- ② 病院管理における人間工学的思考法・アプローチ
- ③ ヒューマンエラーの捉え方
- ④ 医療におけるリスクマネジメント
- ⑤ 安全文化と先験的リスク管理アプローチ
- ⑥ インシデント報告とエラー分類法
- ⑦ パフォーマンス指標を用いた医療組織管理
- ⑧ 医療機器のユーザビリティ・エンジニアリング

7. 成績評価の方法

提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

参考書:伊藤謙治 「高度成熟社会の人間工学」(日科技連)1997年

10. 履修上の注意事項

簡単な統計の知識があることが望ましい。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることで、適宜これに対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月26日 (月) 18:00~21:10	人間工学とヒューマンエラー	伊藤 謙治
2	10月27日 (火) 18:00~21:10	医療リスクマネジメント	伊藤 謙治
3	10月28日 (水) 18:00~21:10	医療パフォーマンスの測定	伊藤 謙治
4	10月29日 (木) 18:00~21:10	ユーザビリティ・エンジニアリングと医療機器 への応用	青木 洋貴

人的資源管理

Human Resource Management

科目コード: 4081 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	林 大樹	一橋大学大学院社会学研究科 教授	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

人的資源管理は、人が仕事を通じて自ら職業人としてのみならず、人間としても成長したいという欲求を有していることを前提として職業能力と人間性の向上を支援する管理思想・管理技術である。本講義では、現在の医療経営に適合的な人的資源管理のあり方を考究する。

概要

下記「授業の到達目標」に向けて、教員による講義とグループ・ディスカッションを行う。

4. 授業の到達目標

- ・人的資源管理の思想と理論の基本を理解する。
- ・医療の専門家人材が働く組織におけるマネジメントの役割と特徴についての理解を深める。

5. 授業方法

講義およびグループ・ディスカッション

6. 授業内容

- ・人的資源管理概論
- ・医療機関の組織特性と人的資源管理
- ・医療人材の特性と人的資源管理
- ・その他

7. 成績評価の方法

成績評価はクラス討議(グループ・ディスカッションとプレゼンテーション)への参加状況(50点)と提出レポートの内容(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指定された読み物をよく読み、ディスカッションに積極的に参加すること。

9. 参考書

未定

10. 履修上の注意事項

「7.1 戦略と組織」「8.2 人材の開発と活用」などの科目との関係が深い。

11. オフィスアワー

担当教員に個別相談を希望する学生は、授業時に教員に直接相談するか、大学院教務事務室に相談すること。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月2日 (月) 18:00～21:10	人的資源管理の基本	林 大樹
2	11月4日 (水) 18:00～21:10	医療専門職の人的資源管理	早川 佐知子
3	11月5日 (木) 18:00～21:10	医療機関の組織特性と人的資源管理	反町 吉秀
4	11月6日 (金) 18:00～21:10	医療機関の組織人事戦略	林 大樹

人材の開発と活用

Human Resource Management

科目コード: 4082 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中 雄二郎	臨床医学教育開発学分野 教授	ytanaka.merd@tmd.ac.jp
科目担当者	高橋 誠	臨床医学教育開発学分野 講師	takahashi.merd@tmd.ac.jp
	井津井 康浩	医学部附属病院総合教育研修センター 講師	yitsui.gast@tmd.ac.jp
	工藤 敏文	医学部附属病院総合教育研修センター 講師	t-kudo.srg1@tmd.ac.jp
	岡田 英理子	医学部附属病院総合診療部 講師	eriko.gast@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療職育成の基本的な理論と実践、およびその現状を学び、育成した人材の活用を考える。

概要

医療職は育成に多くの年月を要する。それ故、将来を見据えた人材の育成が求められている。また、医療職は激変する医療環境に適応することも職務遂行上必須である。このため人材の開発の場は、教育の初期を担う大学のみならず様々な医療機関に及び、医療管理者も無縁な存在とはなり得ない。そこで、本コースはこのような人材開発の現状分析と基本的な理論、および実践について論ずる。

4. 授業の到達目標

- ・医学教育における最近の教育手法を知り、応用できる。
- ・本邦における医師養成システムを理解する。
- ・女性医師のキャリア支援の現状、問題を理解する。
- ・医師の多様なキャリアパスを理解する。

5. 授業方法

講義、見学、演習、グループ討論形式による。

6. 授業内容

I) 今どのような人材を育てるべきか

医師養成に要する時間から逆算し、今育てるべき人材は何かについて情報を提供した後、討論を行う。

II) どのように育てるべきか

前項での議論に基づき、育成方法について、従来及び海外の専門医育成制度、医局制度を分析し、これからのあり方について論ずる。

III) 医学教育の実践理論と方法

最新の医学教育の理論と方法を、演習、施設見学などを通じて学ぶ。

7. 成績評価の方法

参加状況(60点)および演習内容(40点)を総合して成績を評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

教科書:特になし

参考書:「医学医療教育用語辞典」日本医学教育学会 医学医療教育用語辞典編集委員会(照林社)2003年刊
(医学教育にとどまらず医療関係のさまざま用語が解りやすく記載されている)

10. 履修上の注意事項

「7.1 戦略と組織」「8.1 人的資源管理」「8.3 医療におけるリーダーシップ論」

11. オフィスアワー

随時Eメール(sec1.dgm@tmd.ac.jp)で対応

12. 備考

9月1日(火)の教室は別途指示されるので、連絡に注意すること

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	8月31日 (月) 18:00～21:10	医学教育の理論と方法論／PBL体験①	田中 雄二郎
2	9月1日 (火) 18:00～21:10	スキルスラボ・e-Learning・TBL体験	高橋 誠
3	9月2日 (水) 18:00～21:10	女性医師の活用／専門医の育成	高橋 誠
4	9月3日 (木) 18:00～21:10	PBL体験②／医師のキャリアチェンジ	田中 雄二郎

医療におけるリーダーシップ論

Leadership in the Medical Institution

科目コード: 4083 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中 雄二郎	臨床医学教育開発学分野 教授	ytanaka.merd@tmd.ac.jp
科目担当者	高橋 誠	臨床医学教育開発学分野 講師	takahashi.merd@tmd.ac.jp
	井津井 康浩	医学部附属病院総合教育研修センター 講師	yitsui.gast@tmd.ac.jp
	工藤 敏文	医学部附属病院総合教育研修センター 講師	t-kudo.srg1@tmd.ac.jp
	岡田 英理子	医学部附属病院総合診療部 講師	eriko.gast@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

激変する社会環境の中で、法的、倫理的制約の多い医療機関を一定の方向に導くリーダーシップを学ぶ。

概要

病院は様々な専門職から構成される組織体であり、管理者はそれを一方向に導くことが求められる。医療制度が流動的な中、病院管理者には、先見性と統率力が求められる。大学病院および地域中核病院において行われた改革のケースを分析し方法論を抽出し、さらに近未来の医療の世界を俯瞰し求められるリーダーシップを論ずる。

4. 授業の到達目標

- ・リーダーシップに関する一般論を理解する。
- ・リーダーシップを効率的に発揮するための方法論を理解し応用できる。
- ・医療機関におけるリーダーシップの特殊性を理解する。
- ・リーダーシップの在り方の多様性を理解し説明できる。

5. 授業方法

講義およびグループ討論形式による。

6. 授業内容

I) リーダーシップとは

リーダーシップに関する一般論を提供した後、医療におけるその特殊性について討論を行う。

II) リーダーシップを発揮するための方法について

前項での議論に基づき、いかに効果的にリーダーシップを発揮するかについて、①現状分析、②ネットワーク形成、③目標の確立、④意識改革、⑤組織変更について論ずる。

III) リーダーシップの実践について

リーダーシップのあり方は、リーダー自身の個性、能力により様々な形態をとることをCase Studyを通じて論ずる。

7. 成績評価の方法

授業中に提示された課題について、A4用紙1枚程度のレポートを授業終了後に提出してもらう。

レポート内容(60点)と参加状況(40点)を総合して成績を評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

小倉昌男「経営学」（日経BP社）1999年刊

10. 履修上の注意事項

「7.1 戦略と組織」「8.1 人的資源管理」「8.2 人材の開発と活用」

11. オフィスアワー

随時Eメール(sec1.dgm@tmd.ac.jp)で対応

12. 備考

討論を主体とするため、教室の変更もあり得るので連絡に注意すること。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月9日（月） 18:00～21:10	リーダーシップ総論／ケーススタディ①	田中 雄二郎
2	11月10日（火） 18:00～21:10	ケーススタディ①(続き)東京医科歯科大学	田中 雄二郎
3	11月11日（水） 18:00～21:10	ケーススタディ② 足利赤十字病院	小松本 悟
4	11月12日（木） 18:00～21:10	ケーススタディ③東京医科歯科大学看護部 ／まとめ	川崎つま子 ／田中 雄二郎

医療とコミュニケーション

Communication in Medical Discourse

科目コード:

4091

1 年次

1 単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	岡田 昭人	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授	aokada@tufs.ac.jp
科目担当者	谷口 龍子	東京外国語大学国際日本研究センター 准教授	ryukota@tufs.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

「コミュニケーション」を理論的に捉える視点を養うことにより、理想的な医療コミュニケーションを考察することを目的とする。

概要

最近、「インフォームド・コンセント」という言葉はよく取り上げられるようになってきたが、医療現場では、その他様々なタイプのコミュニケーションを円滑に行うことが不可欠である。医療現場は、まさに「人と人とのコミュニケーション」の現場でもあるのである。本講義では、このような認識に基づいた上で、「語用論」、「対人コミュニケーション論」、「異文化間コミュニケーション論」などの基礎的部分を概観する。それらを踏まえたうえで、「実際の医療コミュニケーションに関する研究」などを紹介し、「医療とコミュニケーション」について、理論的、実践的な観点から考察する。

4. 授業の到達目標

- ・「コミュニケーション」というものを理論的に捉える視点を養う。
- ・医療現場で問題となっているコミュニケーションのあり方を語用論、社会心理学、及び、対人コミュニケーション、異文化間コミュニケーション理論の観点から批判的に捉える視点を養う。
- ・語用論、対人コミュニケーション、異文化間コミュニケーションに関する理論を、実際の医療現場のコミュニケーションのあり方の改善、及び、教育に役立たせる方法を考える。
- ・医療コミュニケーションに関する研究を概観することによって、どのような問題があるのか、理想的な医療コミュニケーションとは何かといったことを考える。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

2名の講師によるリレー講義形式で行う。

第1日目 … 岡田 昭人

本講義では「異文化コミュニケーション」の諸理論を概観した上で、事例やケーススタディを参加者と議論しながら理解することを目的としている。人は異なる文化を持つ国で生活をするとき、どのような文化的摩擦を経験し、そしてどのように心理的な適応をするのであろうか。また人々は言語や非言語のコミュニケーションをする上で、どのような文化の違いの「罅」におちるのであろうか。本講義は、パワーポイントを用いたレクチャーと参加者とのディスカッションなどを通じて、医療現場で起こりうる異文化コミュニケーションに関する様々な問題について検討する。

第2日目 … 谷口 龍子

話し手の意図と聞き手の解釈に「ずれ」が生じた場合にコミュニケーションが取れないということになる。また、双方が「ずれ」に気付かないまま、良好な人間関係の維持に支障をきたしてしまう場合もある。第2日目は、「ずれ」に関わる言語理論の枠組みとして、語用論の発話行為と発話解釈に関する理論を紹介する。

第3日目 … 谷口 龍子

第2日目の授業内容をふまえ、どのような言語表現の使用により「ずれ」が生じるのか、あるいは、「ずれ」を防ぐことができるのか、といった点について、医療従事者と患者の会話例を挙げながら具体的に検討してゆく。

第4日目 … 岡田 昭人

円滑な人間関係の確立・維持のための言語ストラテジーの体系としての「ポライトネス理論」、それを発展させた対人コミュニケーション論としての「ディスコース・ポライトネス理論」を紹介することによって、対人コミュニケーションの本質とそれに関する理論を理解する。その上で、患者、高齢者との接し方などについての医療現場における事例を、対人コミュニケーション理論の枠組みで考える。

7. 成績評価の方法

出席、積極的発言などの授業への貢献度、最終レポートなどによって総合的に評価する。
尚、参加状況が50%に満たない場合は、レポートを提出することができず、不可となるので、注意すること。

8. 準備学習等についての具体的な指示

毎回、指定された論文等を事前に読んでくることが前提となる。授業には、討議を積極的に取り入れたい。

9. 参考書

教科書: 特になし

参考書: 授業中に指示する

10. 履修上の注意事項

「コトバを用いる」ということの意味、言語と社会の問題、そして、「医療とコミュニケーション」を、常識や経験を一旦捨てて、語用論、対人コミュニケーション論、異文化間コミュニケーションなどの観点から論理的に考えてみるという姿勢で臨んでいただきたい。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることであり、適宜これに対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月8日 (月) 18:00~21:10	前項に記載	岡田 昭人
2	6月9日 (火) 18:00~21:10	前項に記載	谷口 龍子
3	6月10日 (水) 18:00~21:10	前項に記載	谷口 龍子
4	7月17日 (金) 18:00~21:10	前項に記載	岡田 昭人

医学概論

Promotion of Health Literacy

科目コード:

4093

1年次

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療系の領域の出身でなくとも、医学・医療の概要が把握できることを目的とする。また、研究方法、論文作成法についても教育する。

概要

現在の日本の高等教育課程においては、医歯学・薬学・看護学などの臨床にかかわる分野に進学しない限り、医学の概要を学ぶことができないという現状がある。このことは、社会が医学については医療を誤解する誘因となっているとも考えられる。医療管理政策学コースにおいては、入学者は必ずしもこの医療系の出身者ばかりではないため、医療人の思考過程の根底また価値判断の背景が理解しにくいという問題がある。この科目では、短時間の教育により医学の学問的概要と医療の実践的過程を解説し、必要最小限の理解を得ることを目的とする。これにより、一般社会と医学・医療との認識の隔たりの原因を探究するとともに、医療管理政策学を学習する上での医療の前提条件あるいは医学のコンセンサス形成の実態を習得する。この科目は、非医療系の出身者にとっては必須のものであると考えるが、医療系出身者にとっても、医学・医療の背景を整理する上で有意義かもしれない。

4. 授業の到達目標

- ① 非医療系の出身者にとっての医学・医療の概要を理解する。
- ② 医学と他の自然科学との相違点を確認する。
- ③ 医療においてどのように決定がなされるのかについて検討する。
- ④ 医療における診断と治療を実施する上での問題点について検討する。
- ⑤ 日本における医療が受けているストレスについて説明できるようになる。
- ⑥ 最低限必要な研究計画立案、論文作成の基礎を習得する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 自然科学の中での医学の特徴
- ② サービス業としてみた医療の特徴
- ③ 診断学概要
- ④ 治療学概要
- ⑤ 医療にかかわる死生観
- ⑥ 医療と患者のリスク共有
- ⑦ 医療における情報
- ⑧ 医療のメンタリティー
- ⑨ 研究計画立案、概念分析、論文作成法

7. 成績評価の方法

成績評価は、出席点(50点)および講義中に課すレポートの評価(50点)の総合評価による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に無いが、医療についての自分なりの考えを持っておくこと。

9. 参考書

講義中に紹介予定

10. 履修上の注意事項

積極的な議論参加が要求される。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることであり、適宜これに対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	4月27日 (月) 18:00～21:10	医学・医療の特徴	高瀬 浩造
2	4月30日 (木) 18:00～21:10	診断学・治療学概要	高瀬 浩造
3	5月1日 (金) 18:00～21:10	日本の医療の問題	高瀬 浩造
4	7月10日 (金) 18:00～21:10	概念分析・論文作成法	高瀬 浩造

臨床研究・治験

Clinical Research・Clinical Trial

科目コード: 4101 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	安原 真人	薬物動態学分野 教授	yasuhara.mpha@tmd.ac.jp
科目担当者	津谷喜一郎	東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学 教授	tsutanik@gmail.com
	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
	小池 竜司	薬害監視学分野 准教授	koike.rheu@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

エビデンス・ベースト・メディスン(EBM)と医療疫学概念を理解し、EBMのための臨床研究デザインと統計学的背景を学び、臨床研究の現状を把握する。

概要

EBMと医療疫学概念、データベースの利用方法について講述する。臨床研究における無作為コントロール試験、症例対照研究、コホート研究、メタアナリシスの各研究デザインについて解説する。臨床疫学研究における生物学的バイアスの概念を講述し、臨床研究・治験の具体例を紹介し、問題点を検討する。

4. 授業の到達目標

- ・エビデンス・ベースト・メディスン(EBM)と医療疫学概念を理解する。
- ・EBMのための臨床研究デザインと統計学的背景を理解する。
- ・臨床研究・治験の現状と問題点を検討する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ・臨床研究のデザイン、プラセボ
- ・生物学的バイアスと交絡
- ・臨床研究・治験の管理と実践

7. 成績評価の方法

参加状況(60%)とレポート(40%)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

特になし

10. 履修上の注意事項

「10.2 健康情報データベースと統計分析」と関連する。

11. オフィスアワー

授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることににより、適宜これに対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	12月7日 (月) 18:00～21:10	臨床研究のデザイン(1)	津谷 喜一郎
2	12月8日 (火) 18:00～21:10	生物学的バイアスと交絡	高瀬 浩造
3	12月10日 (木) 18:00～21:10	臨床研究のデザイン(2)	津谷 喜一郎
4	12月11日 (金) 18:00～21:10	臨床研究・治療の管理と実践	小池 竜司

健康情報データベースと統計分析

科目コード: 4102 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	水嶋 春朔	横浜市立大学大学院情報システム予防医学部門 教授	shunsaku@yokohama-cu.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

健康政策におけるデータ解釈の基本方針を理解するとともに、統計処理の意義と基本的な手法について理解する。

概要

基本知識としての統計学的技法を説明した後、生物統計における2つの異なる潮流、すなわちピアソン型の質管理を重視した記述統計学とベイズ型の主観確率を重視した統計学について理解を深める。応用として医療政策の前提となる、診断、治療、医療の質の評価、医療の安全性、疫学、健康情報データベースにかかわる情報を収集して、的確に解釈し意思決定に反映させるための基礎知識と技術、統計法、公的統計の体系と整備について概説する。また、健康情報データベースによる根拠に基づいた健康政策のありかたについて議論する。

4. 授業の到達目標

- ・医療管理・政策に必要な統計学の基本を理解する。
- ・臨床疫学に必要な記述統計的手法を説明できる。
- ・臨床推論における主観確率論を理解する。
- ・研究における質保証に係わる統計的手法について説明できる。
- ・行政の実施している各種衛生統計の意義を説明できる。
- ・最新の医療・健康情報を収集し、科学的に解釈することができる。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 医学基本統計学
- ② 生物統計学におけるピアソン統計学とベイズ統計学
- ③ デジタルデータとアナログデータ
- ④ 衛生統計学と健康情報データベースに基づく政策決定

7. 成績評価の方法

成績評価は参加状況(50点)および講義中に課す課題の評価(50点)の総合評価による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

基礎的な基本統計学の知識を前提としている。

9. 参考書

教科書:統計学の教科書は特に指定しないが、各自で準備すること。

参考書:上畑鉄之丞 監訳「根拠に基づく健康政策のすすめ方」(医学書院)2003年

10. 履修上の注意事項

すべての医療系分野、特に医療疫学と密接に関連する。「9.3 医学概論」の概念分析とも関連する。

11. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることで、適宜これに対応する。

12. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月30日 (月) 18:00~21:10	根拠に基づく健康政策	水嶋 春朔
2	12月1日 (火) 18:00~21:10	基本統計学	高瀬 浩造
3	12月2日 (水) 18:00~21:10	統計学的推論・検定	高瀬 浩造
4	12月3日 (木) 18:00~21:10	統計学の応用	高瀬 浩造

6. 諸規則

東京医科歯科大学大学院学則

平成16年4月1日
規 程 第 5 号

第1章 総則

第1条 本学大学院は医学、歯学及びそれらの相互関連領域に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

2 研究科ごとにおける人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、当該研究科等において別に定める。

第2条 本学大学院に、次の課程を置く。

- (1) 医学又は歯学を履修する博士課程
- (2) 修士課程及び博士課程
- (3) 前期2年及び後期3年に区分して履修する博士（前期・後期）課程（以下、区分する場合は、前期2年の課程を「博士（前期）課程」、後期3年の課程を「博士（後期）課程」という。）
- 2 修士課程及び博士（前期）課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。
- 3 博士課程及び博士（後期）課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- 4 博士（前期）課程は、これを修士課程として取扱う。

第2章 組織

第3条 本学大学院に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成16年規程第1号）の定めるところにより、次の研究科を置く。

医歯学総合研究科
保健衛生学研究科

第3条の2 本学大学院に、学外研究機関等の研究者等と連携して大学院教育を行う連携大学院実施のため、連携大学院分野を置くことができる。

2 連携大学院分野については、別に定める。

第4条 医歯学総合研究科に、次の課程、専攻及び講座を置く。

課 程	専 攻 名	講 座 名
修 士 課 程	医歯理工学	

博 士 課 程	医歯学系	口腔機能再構築学 顎顔面頸部機能再建学 生体支持組織学 環境社会医歯学 老化制御学 全人的医療開発学 認知行動医学 生体環境応答学 器官システム制御学 先端医療開発学
	生命理工学系	生命理工学

- 2 医歯学総合研究科医歯理工学専攻に、医療管理政策学コースを置く。
- 3 前項の医療管理政策学コースは、これを次のコースに区分するものとする。
- (1) 医療管理学コース
- (2) 医療政策学コース

第5条 保健衛生学研究科に、次の課程、専攻及び講座を置く。

課 程	専 攻 名	講 座 名
博 士 課 程	看護先進科学	基盤看護開発学 臨床看護開発学 先導的看護システム開発学
	共同災害看護学	
博 士（前 期 ・ 後 期）課程	生体検査科学	生命情報解析開発学 分子・遺伝子応用検査学

第3章 収容定員

第6条 本学大学院の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

- (1) 医歯学総合研究科

区 分	専 攻 名	入 学 定 員	収 容 定 員
修士課程	医歯理工学	1 1 0	2 1 5
	（医療管理学コース）	（ 5 ）	（ 5 ）
	（医療政策学コース）	（ 1 0 ）	（ 2 0 ）

博士課程	医歯学系	1 8 9	7 5 6
	生命理工学系	2 5	7 5
備考 括弧内の数字は、医療管理政策学コースに係る定員の数を内数で示す。			

(2) 保健衛生学研究科

区 分	専 攻 名	入 学 定 員	収 容 定 員
博士課程	看護先進科学	1 3	6 5
	共同災害看護学	2 (1 0)	1 0 (5 0)
博 士（前 期）課程	生体検査科学	1 2	2 4
博 士（後 期）課程	生体検査科学	6	18
備考 括弧内の数字は、共同大学院構成大学全体の入学定員及び収容定員を外数で示す。			

第 4 章 修業年限等

第 7 条 本学大学院の標準修業年限は、次のとおりとする。

区 分		標準修業年限
医 歯 学 総 合 研 究 科	修士課程（医療管理学コ ースを除く。）	2 年
	修士課程（医療管理学コ ース）	1 年
	博士課程医歯学系専攻	4 年
	博士課程生命理工学系 専攻	3 年
保 健 衛 生 学 研 究 科	博士課程	5 年
	博士（前期）課程	2 年
	博士（後期）課程	3 年

第8条 学生は、指導教員及び研究科長を経て、学長の許可を受け、在学期間を前条各課程の標準修業年限の2倍まで延長することができる。

第5章 学年、学期

第9条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第10条 学年を分けて、次の学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

第6章 授業科目、履修方法及び単位等

第11条 本学大学院において開設する授業科目及びその単位数については、別に定める。

第11条の2 1単位の授業科目を、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、1単位当たりの授業時間を次の基準により、各研究科において別に定める。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲

(2) 実験及び実習については、30時間から45時間の範囲

第12条 学生は、指導教員の指示に従って、授業科目の授業及び必要な研究指導を受けなければならない。

第13条 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、当該研究科において支障のない場合に限り、その計画的な履修（次項において「長期履修」という。）を認めることがある。

2 長期履修の取扱いに関し必要な事項は、当該研究科の長が定める。

第7章 他の研究科又は大学院等における修学及び留学

第14条 学生が、本学大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学大学院の研究科において教育上有益と認めるときは、本学大学院に入学した後の当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学大学院の当該研究科において修得した単位以外のものについては、合わせて10単位を超えないものとする。

第14条の2 本学大学院の研究科において教育上有益であると認めるときは、

あらかじめ本学大学院の他の研究科と協議のうえ、学生が当該他の研究科の授業科目を履修すること又は当該他の研究科において研究指導の一部を受けることを認めることがある。

- 2 前項の規定により履修した他の研究科の授業科目について修得した単位は、10単位を限度として、学生の所属する研究科において履修した単位とみなす。
- 3 第1項の規定により受けた研究指導は、学生の所属する研究科において受けた研究指導とみなす。

第15条 学生が、他の大学院の授業科目を履修することが教育上有益であると本学大学院の研究科において認めるときは、あらかじめ当該他の大学院と協議のうえ、学生が当該他の大学院の授業科目を履修することを認めることがある。

- 2 前項の規定により履修した他の大学院の授業科目について修得した単位は、10単位を限度として、本学大学院の研究科において修得した単位とみなす。

第16条 学生が他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他の大学院等」という。）において研究指導を受けることが教育上有益であると本学大学院の研究科において認めるときは、別に定めるところにより、あらかじめ、当該他の大学院等と協議のうえ、学生が当該他の大学院等において研究指導の一部を受けることを認めることがある。ただし、修士課程及び博士（前期）課程の学生にあつては、その期間は1年を超えないものとする。

- 2 前項の規定により受けた研究指導は、本学大学院の研究科において受けた研究指導とみなす。

第17条 学生が外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関等（以下「外国の大学院等」という。）において修学することが教育上有益であると研究科において認めるときは、別に定めるところにより、あらかじめ、当該外国の大学院等と協議のうえ、学生が当該外国の大学院等に留学することを認めることがある。ただし、やむを得ない事情により、当該外国の大学院等とあらかじめ協議を行うことが困難な場合には、留学を認めた後に当該協議を行うことができる。

- 2 前項の規定により留学した期間は、在学年数に算入する。
- 3 第1項の規定により留学して得た修学の成果は、本学大学院の研究科において修得した単位（10単位を限度とする。）又は受けた研究指導とみなす。

第8章 課程修了の要件等

第18条 各授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が学期末又は学年末に行う。

第19条 各授業科目の成績は、秀、優、良、可、不可の5種とする。

第20条 修士課程及び博士（前期）課程を修了するためには、本学大学院修士課程又は博士（前期）課程に2年（第4条第3項第1号の医療管理学コースにおいては1年）以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、

在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、１年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の場合において、修士課程及び博士（前期）課程の目的に応じ研究科委員会において適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって学位論文の審査に代えることができる。
- 3 博士課程医歯学系専攻を修了するためには、本学大学院博士課程医歯学系専攻に４年以上在学し、所定の授業科目について３０単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、３年以上在学すれば足りるものとする。
- 4 博士（後期）課程及び博士課程生命理工学系専攻を修了するためには、本学大学院博士（後期）課程及び博士課程生命理工学系専攻に３年以上在学し、所定の授業科目について保健衛生学研究科にあっては１２単位以上、博士課程生命理工学系専攻にあっては２０単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、１年（２年未満の在学期間をもって修士課程又は博士（前期）課程を修了した者にあっては、当該在学期間を含めて３年）以上在学すれば足りるものとする。
- 5 博士課程看護先進科学専攻を修了するためには、本学大学院博士課程看護先進科学専攻に５年（修士課程又は博士（前期）課程に２年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における２年の在学期間を含む。）以上在学し、所定の授業科目について３８単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会において認めた場合には、３年（修士課程又は博士（前期）課程に２年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における２年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。
- 6 博士課程共同災害看護学専攻を修了するためには、本学大学院博士課程共同災害看護学専攻に５年以上在学し、所定の授業科目について５０単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者と研究科委員会等において認めた場合には３年以上在学すれば足りるものとする。

第２１条 学位論文の審査及び最終試験に関することは、東京医科歯科大学学位規則（平成１６年規則第５６号。以下「学位規則」という。）に定めるところにより行うものとする。

第９章 学位

第２２条 本学大学院を修了した者には、次の区分により修士又は博士の学位を授与する。

区 分			学 位
医歯学総合研究科	修士課程	医歯理工学専攻（医療管理政策学コースを除く。）	修士（医科学） 修士（歯科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（口腔保健学）
		医歯理工学専攻（医療管理政策学コース）	修士（医療管理学） 修士（医療政策学）
	博士課程	医歯学系専攻	博士（医学） 博士（歯学） 博士（学術）
		生命理工学系専攻	博士（理学） 博士（工学）
保健衛生学研究科	博士課程	看護先進科学専攻	博士（看護学）
		共同災害看護学専攻	
	博士（前期）課程	生体検査科学専攻	修士（保健学）
	博士（後期）課程	生体検査科学専攻	博士（保健学）

2 前項に規定するもののほか、博士課程看護先進科学専攻に入学し、第20条第1項及び第2項に規定する修士課程の修了要件を満たした者にも、修士（看護学）の学位を授与することができる。

第23条 大学院学生以外の者で、博士の学位を請求して論文を提出する者があるときは、学位規則の定めるところにより、これを受理するものとする。

2 前項の論文の審査は、本学学位規則の定めるところによりこれを行い、その審査に合格し、かつ、専攻学術に関し、大学院の博士課程修了者と同様に広い学識を有することが試問により確認された者には、博士の学位を授与する。

第10章 入学、休学、転学、退学

第24条 入学の時期は、毎年度学年始めとする。ただし、本学大学院において必要があるときは、学期の始めに入学させることができる。

第25条 修士課程及び博士（前期）課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学（短期大学を除く。）を卒業した者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (6) 大学に3年以上在学し、又は、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (7) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
- (8) その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

2 博士課程医歯学系専攻に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学の医学、歯学、薬学又は獣医学（6年の課程）を履修する課程を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）
- (5) 大学（医学、歯学、薬学又は獣医学（6年の課程））に4年以上在学し、又は、外国において学校教育における16年の課程（医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (6) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
- (7) その他本学大学院において、大学の医学、歯学及び獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

3 博士（後期）課程及び博士課程生命理工学系専攻に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (4) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- (5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
- (6) その他本学大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

4 博士課程看護先進科学専攻及び共同災害看護学専攻に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学（短期大学を除く。）を卒業した者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (8) 大学に3年以上在学し、又は、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (9) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

第26条 入学検定は、人物、学力及び身体について、学長が当該研究科委員会の意見を聴いて行うものとする。ただし、学力検査は試験検定とし、試験の方法は、その都度定める。

第27条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、定められた期日までに所定の書類を提出するとともに、入学料を納付するものとする。ただし、第41条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請し受理された者にあつては、当該免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

2 学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

第28条 学長は、本学大学院を退学した者が、再入学を願い出たときは、選考のうえ、当該研究科委員会に意見を聴いて、入学を許可することがある。

2 前項に関し必要な事項は、当該研究科が別に定める。

第29条 学生が病気その他の事由により、3ヶ月以上休学しようとするときは、医師の診断書又は詳細な理由書を添え、保証人連署で学長に願出て許可を受けなければならない。この場合、学長は当該研究科委員会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第30条 前条による休学者で休学期間中にその事由が消滅したときは、保証人連署で復学を学長に願出することができる。この場合、学長は当該研究科委員会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第 3 1 条 休学は、1 年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、学長は研究科委員会に意見を聴いて、更に 1 年以内の休学を許可することがある。休学期間は修業年数に算入しない。

第 3 2 条 学長は、特に必要と認めたものには当該研究科委員会に意見を聴いて、休学を命ずることがある。

第 3 3 条 学長は、他の大学院に在学する者が、本学大学院に転学を願い出たときは、選考のうえ、当該研究科委員会に意見を聴いて、転学を許可することがある。

2 前項に関し、必要な事項は、当該研究科委員会が別に定める。

第 3 4 条 学生が、他の大学院に転学しようとするときは、その理由を具して学長に願い出て、その許可を受けなければならない。この場合、学長は当該研究科委員会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第 3 5 条 学生が病気その他の事由で退学しようとするときは保証人連署で学長に願出てその許可を受けなければならない。この場合、学長は当該研究科委員会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第 3 6 条 学長は学生が病気その他の事由で成業の見込がないと認めたときは、当該研究科委員会の意見を聴いて、退学を命ずることがある。

第 1 1 章 入学検定料、入学料及び授業料

第 3 7 条 授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第 3 8 条 入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第 3 9 条 授業料は、次の 2 期に分けて納付しなければならない。

前期 4 月中

後期 1 0 月中

2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。

3 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第 1 項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

4 第 1 項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（大学院掲示板）に掲示するものとする。

第 4 0 条 既納の料金はいかなる事由があっても返還しない。

2 前条第 3 項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の 3 月 3 1 日までに入学を辞退した場合には、前項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。

3 前条第 2 項及び第 3 項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時

期以前に休学又は退学した場合には、第1項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。

第41条 本学大学院に入学する者であつて経済的理由によって入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者並びに前記に該当しない者であっても、本学大学院に入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくはその者の学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であつて、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することがある。

2 本学大学院に入学する者であつて、経済的理由によつて納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前1年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により入学料の徴収猶予をすることがある。

3 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者のうち、前項に該当する者は、免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請をすることができる。

4 前3項の取扱いについては、別に定める。

第42条 停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第43条 行方不明、その他やむを得ない事由がある者の授業料は本人又は保証人の申請により徴収を猶予することがある。

第44条 死亡又は行方不明のため除籍され、或は授業料の未納を理由として退学を命ぜられた者の未納の授業料は全額を免除することがある。

第45条 毎学期開始前に休学の許可を受けた者及び休学中に休学延期の許可を受けた者の休学中の授業料は免除する。

2 各学期の途中で復学する者のその期の授業料は、復学当月からつぎの授業料徴収期の前月まで、月割計算により復学の際徴収する。

第46条 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予することがある。

2 前項の取扱いについては別に定める。

第47条 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。ただし、第41条第3項の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。

2 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかつた者が、納付すべき入学料を徴収猶予の不許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、

除籍する。

- 3 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しない場合は、除籍する。

第48条 授業料を所定の期間内に納入しない者で、督促を受け、なおかつ怠る者は学長が研究科委員会の意見を聴いて退学を命ずる。

- 2 前項の督促は文書をもってするものとする。

第12章 外国人留学生

第49条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学大学院に入学を志願する者があるときは、本学大学院の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。

- 2 その他外国人留学生については、別に定める。

第13章 特別聴講学生及び特別研究学生

第50条 他の大学院の学生又は外国の大学院等の学生で、本学大学院の授業科目の履修を志願する者があるときは、当該他の大学院又は外国の大学院等と協議して定めるところにより、特別聴講学生として入学を許可することがある。

- 2 特別聴講学生の受入れの時期は、学期の始めとする。ただし、当該特別聴講学生が外国の大学院等の学生で、特別の事情がある場合の受入れの時期は、研究科においてその都度定めることができる。
- 3 その他特別聴講学生については、別に定める。

第51条 他の大学院の学生又は外国の大学院等の学生で、本学大学院において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該他の大学院又は外国の大学院等と協議して定めるところにより、特別研究学生として入学を許可することがある。

- 2 特別研究学生の受入れの時期は、原則として、学期の始めとする。
- 3 その他特別研究学生については、別に定める。

第52条 この章又は細則に定めるものを除くほか、特別聴講学生及び特別研究学生の取扱いについては、この学則（特別聴講学生又は特別研究学生が外国人である場合には、東京医科歯科大学外国人留学生規則（平成16年規則第182号）を含む。）の大学院学生に関する規定を準用する。

第14章 科目等履修生及び聴講生

第53条 本学大学院が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

第54条 前項により入学した者には、第18条の規定を準用し、単位を与える。

第55条 その他科目等履修生については、別に定める。

第55条の2 本学大学院が開設する授業科目中、特定の授業科目について聴講を志願する者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

2 その他、聴講生については、別に定める。

第15章 大学院研究生

第56条 本学大学院教員の指導を受け、特定の専門事項について研究しようとする者は、選考の上、大学院研究生として入学を許可することがある。

2 その他大学院研究生については、別に定める。

第16章 教員組織

第57条 大学院の授業及び研究指導を担当する教員は、当該研究科委員会等の意見を聴いて、学長が命ずる。

第17章 雑則

第58条 この学則に定めるもののほか、大学院学生に関し必要な事項については、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）を準用する。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第8条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科博士課程の平成16年度及び平成17年度の収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収 容 定 員	
		平成16年度	平成17年度
修士課程	医歯科学	75	95
	(医療管理学コース)	(5)	(5)
	(医療政策学コース)	(10)	(20)
博士課程	口腔機能再構築学系	168	168
	顎顔面顎部機能再建学系	120	120
	生体支持組織学系	74	73
	環境社会医歯学系	80	80
	老化制御学系	40	40
	全人的医療開発学系	32	32
	認知行動医学系	80	78
	生体環境応答学系	70	69
	器官システム制御学系先端	116	116
	医療開発学系	84	84

備考 括弧内の数字は、医療管理政策学コースに係る収容定員の数を内数で示す。

- 3 第8条第3号の規定にかかわらず、生命情報科学教育部の平成16年度及び平成17年度の収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収 容 定 員	
		平成16年度	平成17年度
博士(前期)課程	バイオ情報学	31	32
	高次生命科学	30	30
博士(後期)課程	バイオ情報学	13	20
	高次生命科学	12	18

- 4 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学の大学院に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学の大学院の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学大学院学則（昭和30年学規第1号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この学則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附 則（平成17年3月23日規程第3号）

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表第2及び別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成18年3月28日規程第2号）

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表第1、別表第2、別表第3及び別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成19年3月29日規程第4号）

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表第1、別表第2、別表第3及び別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年1月16日規程第2号）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第8条第3号の規定にかかわらず、生命情報科学教育部の平成20年度及び平成21年度の収容定員は、次のとおりとする。

区分	専攻名	収容定員
----	-----	------

		平成20年度	平成21年度
博士（前期） 課程	バイオ情報学	37	42
	高次生命科学	39	48
博士（後期） 課程	バイオ情報学	22	23
	高次生命科学	19	20

附 則（平成20年3月26日規程第4号）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成20年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表第1、別表第2、別表第3及び別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月19日規程第5号）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第8条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科修士課程の平成21年度の収容定員は、次のとおりとする。

区 分	専 名	収 容 定 員
		平成21年度
修士課程		110
	医歯科学	(5)
	(医療管理学コース)	(20)
	(医療政策学コース)	

- 3 平成21年3月31日において現に本大学院に在学する者及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学または編入学する者については、改正後の別表第2、別表第3、別表第4及び別表第5の規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成22年3月30日規程第4号）

- 1 この学則は平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成22年12月22日規程第11号）

この学則は、平成22年12月22日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

附則（平成23年4月1日規程第2号）

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第8条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科博士課程の平成23年度から平成25年度の収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	収 容 定 員		
		平成23 年度	平成24 年度	平成25 年度

博士課程	口腔機能再構築学系	171	174	177
	顎顔面頸部機能再建学系	116	112	108
	生体支持組織学系	69	66	63
	環境社会医歯学系	79	78	77
	老化制御学系	46	52	58
	全人的医療開発学系	33	34	35
	認知行動医学系	74	72	70
	生体環境応答学系	66	64	62
	器官システム制御学系	116	116	116
	先端医療開発学系	86	88	90

- 3 第21条の規定にかかわらず、平成23年3月31日において現に本大学院に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成23年12月16日規程第9号）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月30日規程第2号）

- この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 平成24年3月31日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。
- 改正後の第6条第1号の規定にかかわらず、医歯学総合研究科修士課程の平成24年度の収容定員、医歯学総合研究科博士課程医歯学系専攻の平成24年度から平成26年度までの収容定員並びに医歯学総合研究科博士課程生命理工学系専攻の平成24年度及び平成25年度の収容定員については、それぞれ次のとおりとする。

(1) 医歯学総合研究科

区 分	専 攻 名	収容定員
		平成24年度
修士課程	医歯理工学	110
	（医療管理学コース）	（5）
	（医療政策学コース）	（10）
備考 括弧内の数字は、医療管理政策学コースに係る収容定員の数を内数で示す。		

区 分	専攻名	収 容 定 員		
		平成24年度	平成25年度	平成26年度
博士課程	医歯学系	189	378	567

区 分	専攻名	収 容 定 員	
		平成24年度	平成25年度

博士課程	生命理工学系	25	50
------	--------	----	----

附 則（平成26年3月31日規程第2号）

- この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 平成26年3月31日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。また、同日に置かれている保健衛生学研究科博士（前期）課程総合保健看護学専攻は、同日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 改正後の第5条の規定にかかわらず、平成26年度及び平成27年度の保健衛生学研究科の課程、専攻及び講座は、次のとおりとする。また、平成28年3月31日に置かれている保健衛生学研究科博士（後期）課程総合保健看護学専攻は、同日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

課 程	専 攻 名	講 座 名
博士課程	看護先進科学	基礎看護開発学 臨床看護開発学 先導的看護システム開発学
	共同災害看護学	
博士（前期・後期）課程	生体検査科学	生命情報解析開発学 分子・遺伝子応用検査学
博士（後期）	総合保健看護学	地域・在宅ケア看護学 看護機能・ケアマネジメント開発学 健康教育開発学

- 改正後の第6条第2号の規定にかかわらず、保健衛生学研究科博士（後期）課程総合保健看護学専攻の平成26年度及び平成27年度の入学定員並びに保健衛生学研究科博士課程、博士（前期）課程及び博士（後期）課程の平成26年度から平成29年度までの収容定員は、それぞれ次のとおりとする。

区 分	専 攻 名	入学定員	
		平成26年度	平成27年度
博士（後期）課程	総合保健看護学	8	8

区 分	専 攻 名	収容定員			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
博士課程	看護先進科学	13	26	39	52

	共同災害看護学	2 (10)	4 (20)	6 (30)	8 (40)
博士（前期） 課程	総合保健看護学	17	-	-	-
	生体検査科学	24	24	24	24
博士（後期） 課程	総合保健看護学	24	24	16	8
	生体検査科学	18	18	18	18
備考 括弧内の数字は、共同大学院構成大学全体の収容定員を外数で示す。					

- 5 改正後の第22条の規定にかかわらず、保健衛生学研究科博士（後期）課程総合保健看護学専攻を修了した者の学位は、次のとおりとする。

区 分		学 位
保健衛生学 研究科	博士（後期）課程	博士（看護学）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

東京医科歯科大学大学院履修規則

平成22年3月30日
規則第42号

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学大学院における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学大学院学則(平成16年規程第5号。以下「大学院学則」という。)に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目及び履修)

第2条 本大学院の授業科目及び履修は、各研究科教授会の議を経て別表1に定めるものとする。

(授業)

第3条 授業は、講義、演習、実験若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

(1単位当たりの授業時間)

第4条 大学院学則第13条の2に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 医歯学総合研究科

ア 講義 15時間

イ 演習 30時間

ウ 実験及び実習 45時間

(2) 保健衛生学研究科

ア 講義 15時間

イ 演習 30時間

ウ 実験及び実習 45時間

(試験及び単位)

第5条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を取得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を取得することができない。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成23年4月28日規則第61号)

この規則は、平成23年4月28日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則 (平成24年3月12日規則第33号)

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成24年3月31日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成25年3月12日規則第24号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成 26 年 3 月 31 日規則第 15 号）
この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 3 月 31 日規則第 24 号）

- 1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 26 年 3 月 31 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 改正後の第 2 条の規定にかかわらず、平成 26 年度及び平成 27 年度に保健衛生学研究科博士（後期）課程総合保健看護学専攻に入学する者の授業科目及び履修は次のとおりとする。

附 則（平成 27 年 2 月 17 日規則第 11 号）

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

大学院保健衛生学研究科博士（後期）課程総合保健看護学専攻

授業科目の名称	単位数
地域・在宅ケア看護学	
地域保健看護学特論	4
在宅ケア看護学特論	4
リプロダクティブヘルス看護学特論	4
精神保健看護学特論	4
看護機能・ケアマネジメント開発学	
生体・生活機能看護学特論	4
小児・家族発達看護学特論	4
先端侵襲緩和ケア看護学特論	4
高齢者看護・ケアシステム開発学特論	4
看護システムマネジメント学特論	4
健康教育開発学	
健康情報分析学特論	4
健康教育学特論	4
国際看護開発学特論	4
特別研究	8

下記に示す修了要件単位を全て修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

- (1) 所属教育研究分野の特論 4 単位
- (2) 特別研究 8 単位

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行し、平成 26 年 10 月 1 日から適用する。

- 1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 27 年 3 月 31 日において現に本学大学院に在籍する者については、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1

(1) 大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工学系専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
基礎科目	医歯学総合概論	2	
	初期研究研修	1	
	医歯理工学先端研究特論	1	
	人体形態学*1		1
	口腔形態学*2, *3		1
	人体機能学*1, *2, *3		1
	病理病態学*1, *2, *4		1
	環境社会医歯学*1, *2, *3		1
	病院実習		1
	口腔保健臨地実習*4		2
専門科目	生化学		2
	薬理学		2
	免疫学		2
	発生・再生科学		2
	細胞生物学特論		1
	神経疾患特論		2
	遺伝医学特論		2
	口腔保健福祉学		2
	口腔保健工学特論*4		2
	バイオインフォマティクス		2
	疾患オミックス情報学特論		2
	機能分子化学*6		2
	ケミカルバイオロジー特論*6		2
	ケミカルバイオロジー技術特論*6		2
	分子構造学特論*6		2
	生体材料学*6		2
	バイオメディカルデバイス理工学*6		1
	応用生体材料学*6		2
	医歯薬産業技術特論*6		1
	バイオメディカルシステム理工学*6		1
	英語交渉・ディベート特論		2
	研究倫理・医療倫理学		1
	トランスレーショナルリサーチ特論		2
	クリニカル・インフォマティクス特論		2
	産学リンケージ特論		2
演習・実習・研究科目	医科学演習*1		4
	医科学実習*1		4
	歯科学演習*2		4
	歯科学実習*2		4
	口腔保健学演習*3		4
	口腔保健学実習*3		4
	理工学演習*5		4
	理工学実習*5		4
	課題研究	4	

科目区分	授業科目の名称	単位数	
		必修	選択
医療管理政策学科目 (医療管理政策学コース)	医療提供政策論		1
	医療社会政策論		1
	世界の医療制度		1
	医療保険論		1
	医療保険制度改革論		1
	医療計画制度		1
	医療産業論		1
	医療経済論		1
	医療と社会の安全管理		1
	医療機関リスク管理		1
	医療のTQM		1
	医療機能評価		1
	医療制度と法		1
	医事紛争と法		1
	生命倫理と法		1
	病院情報管理学		1
	診療情報管理学		1
	IT時代の医療診断システムとセキュリティ		1
	医療思想史		1
	世界の文化と医療		1
	世界の宗教と死生観		1
	病院設計・病院設備		1
	衛生工学・汚染管理		1
	戦略と組織		1
	財務・会計		1
	医療の人間工学		1
	人的資源管理		1
	人材の開発と活用		1
	医療におけるリーダーシップ論		1
	医療とコミュニケーション		1
	ヘルスリテラシーと啓発論		1
	医学概論		1
	臨床研究・治験		1
	健康情報データベースと統計分析		1
	課題研究	8	

1 下記に示す修了要件単位を修得すること。

- (1) 修士（医科学）、修士（歯科学）の修得を目指す学生は、基礎科目の必修及び選択科目から8単位以上、専門科目又は医療管理政策学科目から10単位以上、演習・実習・研究科目の必修及び選択科目から12単位を修得し、30単位以上修得すること。
- (2) 修士（口腔保健学）の修得を目指す学生は、基礎科目の必修及び選択科目から7単位以上、専門科目又は医療管理政策学科目から11単位以上、演習・実習・研究科目の必修及び選択科目から12単位を修得し、30単位以上修得すること。
- (3) 修士（理学）、修士（工学）の修得を目指す学生は、基礎科目の必修科目及び専門科目又は医療管理政策学科目から4単位以上、専門科目の選択科目から14単位以上、演習・実習・研究科目の必修及び選択科目から12単位を修得し、30単位以上修得すること。
- (4) 修士（医療管理学）、修士（医療政策学）の修得を目指す学生は医療管理政策学科目のうち課題研究8単位及びその他の科目22単位以上を修得し、30単位以上修得すること。

- 2 *1: 修士（医科学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
- 3 *2: 修士（歯科学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
- 4 *3: 修士（口腔保健学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
- 5 *4: 修士（口腔保健学）の修得を目指す学生について、「病理病態学と口腔保健臨地実習」もしくは「口腔保健工学特論」を必ず履修すること。
- 6 *5: 修士（理学）、修士（工学）の修得を目指す学生について必修科目とする。
- 7 *6: 修士（工学）の習得を目指す学生について、9科目15単位の中から4単位以上必ず履修すること。

東京医科歯科大学学位規則

〔平成 16 年 4 月 1 日〕
規則 第 56 号

（目的）

第 1 条 この規則は、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 13 条の規定に基づき、本学において授与する学位の種類、学位論文の審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

（学位の種類）

第 2 条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 本学における学士、修士及び博士の学位には、次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

学士（医学）
学士（看護学）
学士（保健学）
学士（歯学）
学士（口腔保健学）
修士（医科学）
修士（歯科学）
修士（医療管理学）
修士（医療政策学）
修士（看護学）
修士（保健学）
修士（理学）
修士（工学）
修士（口腔保健学）
博士（医学）
博士（歯学）
博士（学術）
博士（看護学）
博士（保健学）
博士（理学）
博士（工学）

（学位授与の要件）

第 3 条 学士の学位は、東京医科歯科大学学則（平成 16 年規程第 4 号）の定めるところにより、本学を卒業した者に授与する。

- 2 修士の学位は、東京医科歯科大学大学院学則（平成16年規程第5号。以下「大学院学則」という。）の定めるところにより、本学大学院の修士課程及び博士（前期）課程を修了した者に授与する。
- 3 前項に定めるもののほか、修士の学位は、大学院学則第22条第2項の定めるところにより、大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻の博士課程において、修士課程の修了に相当する要件を満たした者にも授与することができる。
- 4 博士の学位は、大学院学則の定めるところにより、本学大学院の博士課程又は博士（後期）課程を修了した者に授与する。
- 5 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本学大学院の行う学位論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士課程又は博士（後期）課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与する。

（学位論文の提出）

- 第4条 前条第2項、第3項又は第4項の規定により、学位論文の審査を申請する者は、学位に付記する専攻分野の名称を指定して、学位論文に所定の書類を添えて、所属の研究科等の長に提出するものとする。
- 2 前条第5項の規定により、学位を請求する者は、学位に付記する専攻分野の名称を指定して、学位論文に所定の書類を添えて、学長に提出するものとする。
 - 3 前項の提出にあたっては、本学の教授又は研究科委員会の構成員である准教授の推薦を必要とする。
 - 4 提出する学位論文は、自著一編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。
 - 5 いったん受理した学位論文（参考として添付された論文を含む。）は、返付しない。

（審査料）

- 第5条 第3条第5項の規定により学位を請求する者は、審査料を納付しなければならない。
- 2 前項の審査料の額は、別に定める。
 - 3 既納の審査料は還付しない。

（学位論文の審査）

- 第6条 研究科等の長は、第4条第1項の規定により学位論文の審査の申請を受理したときは、研究科委員会等に審査を付託する。
- 2 学長は、第4条第2項の規定により、学位請求の申請を受理したときは、学位に付記する専攻分野の名称に応じ、関係の研究科委員会等に学位論文の審査を付託する。
- 第7条 前条の規定により学位論文の審査を付託された研究科委員会等は、学位論文ごとに本学の専任教員3名以上により構成される審査委員会を設けて審査を行う。ただし、研究科委員会等が必要と認めたときは、連携大学院分野を構成する教員を当該審査委員会を構成する委員に含むことができる。
- 2 前項の審査委員会の委員のうち、修士に係る審査については1名以上を、博士に

係る審査については2名以上を教授としなければならない。

- 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、大学院保健衛生学研究科共同災害看護学専攻（以下「共同災害看護学専攻」という。）にあっては、前条の規定により学位論文審査を付託された研究科委員会等は、学位論文ごとに5名以上により構成される審査委員会を設けて審査を行う。
- 4 前項の審査委員会の委員は、共同教育課程を構成する全ての大学から選出するものとする。
- 5 研究科委員会等は、学位論文の審査（最終試験及び試験を含む。）に当たって必要と認めたときは、第1項に定める者のほか、他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院の教員等を審査委員会の委員に委嘱することができる。
- 6 審査委員会は、審査上必要があるときは、学位論文（参考として添付された論文を含む。）の訳文又は標本等の提出を求めることができる。

（最終試験又は試験等）

- 第8条 審査委員会は、学位論文の審査が終わった後に、当該論文を中心として、これに関連のある科目について最終試験又は試験を行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、共同災害看護学専攻にあっては、別に定める共同災害看護学専攻教育課程連絡協議会が選出する審査委員5名により、学位論文審査が終わった後に、当該論文を中心として、関連のある科目について最終試験又は試験を行う。
 - 3 第1項及び前項の最終試験又は試験の方法は、口頭又は筆答とする。
 - 4 審査委員会は、第3条第5項の規定により学位を請求する者については、専攻学術に関し、本学大学院の博士課程又は博士（後期）課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するため、口頭又は筆答による試問（外国語を含む。）を行う。
 - 5 本学大学院の博士課程に4年以上在学し、大学院学則第20条第3項に規定する博士課程における所定の単位を修得して退学した者が、本学大学院博士課程入学後10年以内に、第3条第5項の規定により学位を請求するときは、前項の試問を免除する。
 - 6 本学大学院の博士（後期）課程に3年以上在学し、大学院学則第20条第4項に規定する博士（後期）課程における所定の単位を修得して退学した者が、本学大学院博士（後期）課程入学後8年以内に、第3条第5項の規定により学位を請求するときは、第4項の諮問を免除する。
 - 7 本学大学院博士課程看護先進科学専攻に5年以上在学し、大学院学則第20条第5項に規定する博士課程における所定の単位を修得して退学した者が、本学大学院博士課程入学後12年以内に、第3条第5項の規定により学位を請求するときは、第4項の試問を免除する。

（審査期間）

- 第9条 審査委員会は、その設置後、修士の学位にあっては3月以内、博士の学位にあっては1年以内に、学位論文の審査並びに最終試験又は試験及び試問を終了しなければならない。ただし、特別の事情があるときは、研究科委員会等の議決によりその期間を延長することができる。

(審査委員会の報告)

第 10 条 審査委員会は、学位論文の審査並びに最終試験又は試験及び試問を終了したときは、すみやかにその結果を研究科委員会等に報告しなければならない。

(研究科委員会等の審議)

第 11 条 研究科委員会等は、前条の報告に基づいて、学位授与の可否について審議する。

2 前項の審議を行うには、研究科委員会等委員構成員（海外渡航中の者及び休職中の者を除く。）の3分の2以上の出席を必要とする。

3 学位を授与できるものと議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(学長への報告)

第 12 条 研究科委員会等が、学位を授与できるものと議決したとき（第6条第2項の規定により学位論文の審査を付託された者については、学位を授与できるものと議決されなかったときを含む。）は、研究科等の長は、学位論文に学位論文の内容の要旨及び学位論文の審査の要旨並びに最終試験又は試験及び試問の成績を添えて、学長に報告するとともに、意見を述べなければならない。

2 研究科委員会等が、第6条第1項の規定により、学位論文の審査を付託された者について、学位を授与できるものと議決したときは、研究科等の長は、前項に定めるもののほか、論文目録及び履歴書を添えて学長に報告するとともに、意見を述べなければならない。

(学位記の授与)

第 13 条 学長は、第3条第1項の規定により、学士の学位を授与すべき者に学士の学位記を授与する。

2 学長は、前条の意見を参酌し、修士又は博士の学位の授与の可否について認定のうえ、学位を授与すべき者には、当該学位の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨通知する。

(学位記の様式)

第 14 条 学位記の様式は、別紙様式第1、別紙様式第2、別紙様式第3、別紙様式第4、別紙様式第5、別紙様式第6、別紙様式第7、別紙様式第8及び別紙様式第9のとおりとする。

(博士論文要旨等の公表)

第 15 条 大学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(博士論文の公表)

第 16 条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 博士の学位を授与された者が行う前二項の規定による公表は、本学がインターネットの利用により行うものとする。

（学位の名称の使用）

第 17 条 学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、東京医科歯科大学名を付記するものとする。ただし、共同災害看護学専攻に係る学位にあっては、当該共同災害看護学専攻を構成する大学名を附記するものとする。

（学位授与の取消）

第 18 条 学位を授与された者が次の各号の一に該当するときは、学長は関係の学部教授会又は研究科委員会等の意見を聴いて、学位の授与を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

（1）不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき

（2）その名誉を汚す行為があったとき

- 2 学部教授会において前項の議決を行う場合は、教授会構成員（海外渡航中及び休職中の者を除く。）の 3 分の 2 以上の出席を必要とし、かつ無記名投票により出席者の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。
- 3 研究科委員会等において第 1 項の議決を行う場合は、第 11 条第 2 項及び第 3 項の規定を準用する。

（学位授与の報告）

第 19 条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、文部科学大臣に報告するものとする。

（その他）

第 20 条 本規則に定めるもののほか、修士及び博士の学位論文の審査及び試験に関し必要な事項は、各研究科委員会等が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学学位規則（昭和 50 年学規第 33 号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この規則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附 則（平成 19 年 3 月 6 日規則第 3 号）抄
（施行期日）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成22年12月22日規則第80号）

この規則は、平成22年12月22日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

附 則（平成24年3月30日規則第43号）

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成24年3月31日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規

定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成25年5月30日規則第71号）

1 この規則は、平成25年5月30日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

2 改正後の第15条の規定は、この規則の施行の日以降に博士の学位を授与した場合について適用し、同日前に博士の学位を授与した場合については、なお従前の例による。

3 改正後の第16条の規定は、この規則の施行の日以降に博士の学位を授与された者について適用し、同日前に博士の学位を授与された者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年3月31日規則第24号）

1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。

2 平成26年3月31日において現に本学大学院に在学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成26年10月30日規則第112号）

この規則は、平成26年10月30日から施行する。

附 則（平成27年3月10日規則第18号）

この規則は、平成27年3月10日から施行する。

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科委員会修士

（医科学・歯科学・口腔保健学・理学・工学）に係る

学位論文審査及び試験内規

〔平成16年 4月 1日〕
制 定

（趣旨）

第1条 この内規は、東京医科歯科大学学位規則第20条に基づき、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科（以下「本研究科」という。）における修士（医科学・歯科学・口腔保健学・理学・工学）の学位審査に関し必要な事項を定める。

（学位論文提出の資格）

第2条 学位論文提出の資格を有する者は、本研究科に在学する学生で、東京医科歯科大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第2条第1項第1号に規定する修士課程に1年6月以上在学し、原則として、大学院学則第20条第1項に規定する所定の単位中26単位以上を修得した者とする。

（学位論文）

第3条 学位論文は、「要旨、背景、材料と方法、結果、考察、文献」の順に記載された、課題研究の成果等に基づく高度な学術的内容を含む単独の著作1編とし、参考論文の添付は認めない。

（学位論文に添付する書類）

第4条 学位論文に添付する書類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 申請書（別紙様式1）
- (2) 履歴書（別紙様式2）
- (3) 学位論文要旨（1千字以内）（別紙様式3）
- (4) 審査委員候補者記入表（別紙様式4）

（学位論文の審議）

第5条 本研究科における学位論文の審議は、医歯科学専攻修士課程総務委員会（以下「総務委員会」という。）で行い、研究科委員会の承認を得るものとする。

（審査委員会）

第6条 審査委員会は、主査1名及び副査2名により構成する。

2 主査は、本研究科の教授の中から選出する。ただし、指導教員は主査となること

ができない。

- 3 副査は、本学の教授、准教授、講師及び連携大学院分野を構成する教員の中から選出するものとし、1名以上を本学の専任教員とする。ただし、原則として指導教員および指導教員の所属する分野の教員は副査となることができない。
- 4 必要があるときは、前項に定める者のほか、副査2名以内を加えることができる。
- 5 総務委員会は、指導教員から推薦された審査委員候補者について審議し、審査委員会を設置する。
- 6 審査委員会は、学位論文の審査を行う。
- 7 審査は、学位申請者と審査委員会委員が一堂に会して、公開で行う。
- 8 審査委員会が必要と認めた場合には、学位論文の訳文及び標本等の提出を求めることができるほか、その他の者の出席を求め質疑を行うことができる。

（最終試験）

第7条 審査委員会は、学位論文の審査を終了した後、学位論文を中心として、これに関連ある科目について、本研究科のディプロマポリシーに鑑み、口頭又は筆答による最終試験を行う。

- 2 最終試験の期日、科目及び問題等最終試験の方法は、審査委員会が決定する。

（審査委員会の報告）

第8条 審査委員会は、第6条第5項により審査委員会が設置された後3月以内に、学位論文の審査並びに最終試験を行い、総務委員会が定める日までに学位論文審査結果・最終試験結果報告書を研究科長に提出するものとする。

- 2 審査結果の報告は、次の各号に掲げる書類をもって行うものとする。

- (1) 学位論文の内容の要旨（1千字以内）
- (2) 学位論文の審査の要旨（4百字以内）
- (3) 最終試験の結果の要旨

- 3 前項第3号の最終試験の結果の要旨には、最終試験の方法と結論の要旨を記載するものとする。

（総務委員会の審議）

第9条 研究科長は、前条の報告を受けた後、総務委員会を開催し、学位授与の可否について審議するものとする。

- 2 研究科長は、総務委員会開催日の7日以前に、次の各号に掲げる書類を総務委員会委員に配付するものとする。

- (1) 学位論文要旨
- (2) 学位論文の審査の要旨（担当者名を記載したもの）
- (3) 最終試験の結果の要旨（担当者名を記載したもの）
- (4) 履歴書
- (5) 学位論文

- 3 第1項の審議を行うには、総務委員会委員（海外渡航中の委員及び休職中の委員を除く。）の3分の2以上の出席を必要とする。

4 学位を授与できるものと議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(1年次修了)

第10条 大学院学則第20条第1項ただし書きについての取り扱いは、別に定める。

(学位論文提出の時期)

第11条 学位論文は、各年度において総務委員会が定める日までに、所定の書類を添えて提出するものとする。

(適宜の処置)

第12条 学位の審査に関し、この内規を適用し得ない場合は、研究科委員会の議を経て、適宜の処置をとるものとする。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月6日制定)抄

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日制定)

1 この内規は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成24年3月31日において現に在学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成26年5月20日制定)

この内規は、平成26年5月20日から施行する。

附 則(平成26年9月5日制定)

この内規は、平成26年10月30日から施行する。

学位論文の様式

- ・ ワープロ打ちとする。
- ・ 論文題名が英文による表記の場合は、和訳を併記すること。

(イ) 学位論文表紙 (字の大きさ20ポイント)

平成 27 年度学位論文

題名 _____

学籍番号 _____

氏名 _____

(口) 学位論文

1. A4判縦・横書き・文字数24字×45行・2段組、
2. 明朝体で、タイトル20ポイント、本文10ポイント
3. 英文の場合は Times New Roman で、タイトル20ポイント、本文10ポイント、45行、2段組
4. 6ページ以内（図表を含む）。(別紙参照)
5. 要旨 (abstract)、
背景 (introduction)、
材料と方法 (materials and methods)、
結果 (results)、
考察 (discussion)、
謝辞 (acknowledgement)、
文献 (references) の順に記載すること。
6. 図には番号を振り、説明を付すこと。
7. 遺伝子組み換え実験、動物実験およびヒトを対象とする研究（ヒト由来検体、臨床情報、アンケート調査など。）を含む場合は、機関承認番号等を「材料と方法」の中に記載すること。
8. 用紙の両面を使い、ページをふること。
9. 1枚目にタイトル及び氏名を入れる。
10. 左上をクリップで留める。

論文題名
氏　名

.....	
.....	
.....	
.....	

- 1 -

(両面を使う)

東京医科歯科大学大学院学位論文審査基準

平成27年2月17日
制 定

1. (趣旨)

東京医科歯科大学学位規則(平成16年規則第56号)第20条の規定に基づき、東京医科歯科大学(以下「本学」という。)大学院医歯学総合研究科並びに大学院保健衛生学研究科における修士および博士の学位論文審査基準について定める。

2. (修士課程、博士(前期)課程)

修士課程及び博士(前期)課程における学位論文審査では、本学学位授与の方針(ディプロマポリシー)等を踏まえ、論文の内容が、以下の要件を満たし、当該領域において、十分な研究能力を習得しているかという観点で審査する。

1) 研究目的の適切性

当該研究領域に関する基礎的な知識を有し、先行研究を十分に検討した上で、意義のある研究目的が適切に設定されているか。

2) 研究方法・倫理観

研究計画、研究方法が適切な実証性を備えているか。また、高い倫理観を持ち研究や実験を行っているか。

3) 考察

得られた研究データ・結果を正しく評価し、適切な考察がなされたうえで、論理一貫性をもって記述できているか。

3. (博士課程、博士(後期)課程)

博士課程及び博士(後期)課程における学位論文審査では、本学学位授与の方針(ディプロマポリシー)等を踏まえ、論文の内容が、以下の要件を満たし、当該領域において、自立した研究者として高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を習得しているかという観点で審査する。

1) 研究目的の先駆性・独創性

当該研究領域に関する多面的かつ専門的な知識を有し、先行研究を十分に検討した上で、先駆的又は独創的な発想に基づき研究目的が設定されているか。

2) 社会的意義

当該研究領域の発展に寄与し、人類の健康と福祉への貢献に繋がる研究内容であるか。

3) 研究方法・倫理観

研究計画、研究方法が幅広い視野に基づき策定されたものであり、高い論証性を備えているか。また、高い倫理観を持ち研究や実験を行っているか。

4) 考察・今後の発展性

得られた研究データ・結果を正しく評価し、適切かつ十分な考察がなされたうえで、論理一貫性をもって記述できているか。また今後の学問的発展性があるか。

附 則

この基準は、平成27年2月17日から施行する。

東京医科歯科大学大学院GPA制度に関する要項

平成24年3月12日
制 定

(目的)

第1条 この要項は、東京医科歯科大学大学院におけるGPA (Grade Point Average) 制度の運用について必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要項において、GPAとは、個々の学生の学習到達度をはかる数値で、大学院学則第19条に基づく成績を点数化(秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0)したうえで、履修した科目1単位あたりの成績平均点を求めたものをいう。

2 GPA対象授業科目は、次の各号を除く授業科目とする。

- (1) 5段階評価を行わない科目
- (2) 修了要件に算入しない科目
- (3) GPAへの算入が適当でないと認められる科目

(成績評価及びGP)

第3条 成績評価及びGrade Point (GP)並びに英文表記は、次のとおりとする。

評 価			GP	評価基準
秀	S (Superior)	90～100点	4	当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した
優	A (Excellent)	80～89点	3	当該科目の到達目標を全て達成した
良	B (Good)	70～79点	2	当該科目の到達目標を概ね達成した
可	C (Fair)	60～69点	1	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した
不可	D (Failing)	0～59点	0	当該科目の到達目標を達成していない

(GPAの種類及び計算方法)

第4条 GPAは、当該学年に履修した第2条第2項に定めるGPA対象授業科目について、「当該年度のGPA」、「累積GPA」に区分し、各区分は次に定める方法により計算

するものとする。

＊ G P A の計算式

当該年度の $\frac{(4 \times \text{秀取得単位数} + 3 \times \text{優取得単位数} + 2 \times \text{良取得単位数} + 1 \times \text{可取得単位数} + 0 \times \text{不可取得単位数})}{\text{当該年度の総履修登録単位数}}$

G P A =

累 積 $\frac{(4 \times \text{秀取得単位数} + 3 \times \text{優取得単位数} + 2 \times \text{良取得単位数} + 1 \times \text{可取得単位数} + 0 \times \text{不可取得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$

G P A =

2 前項の計算式において、総履修登録単位数には不可となった科目の単位を含むが、履修取消とした科目の単位は含まない。

3 計算値は小数点第3位以下を切り捨てて表記するものとする。

(G P A 計算期日)

第5条 G P A の計算は、学年ごとに所定の期日までに確定した成績に基づいて行う。

(成績証明書への記載)

第6条 成績証明書への記載は、累積G P A を使用する。

(その他)

第7条 この要項に定めるもののほか、G P A 制度の実施に関して必要な事項は、各研究科において、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成24年3月12日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

2 東京医科歯科大学大学院に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学大学院の在学者となったものについては、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

東京医科歯科大学大学院GPA制度に関する要項（平成24年3月12日制定。以下「GPA 要項」という。）第7条の規定による GPA 制度の実施について、下記のとおり運用する。

記

第2条第2項第2号関係

「修了要件に算入しない科目」とは、四大学連合複合領域コース等本学以外の大学で開設される授業科目で、本学として単位を認めた科目をいう。

第2条第2項第3号

「GPA への算入が適当でないと認められる科目」とは、評点を示さず、合格、認定等により単位を認めた科目をいう。

第4条第2項関係

「履修取消」とは、一旦履修登録した科目を取り消すことをいう。

「履修を取り消すことができる理由」とは、「履修登録をして授業に出たものの、授業内容が自分の意図していたものと違っていた。」「履修に際して、知識不足であることに気付いた。」「履修登録科目が過多であった。」等とする。

「履修取消の期日」は、各授業科目の第5回目の講義が開始されるまでとする。

なお、夏季休業期間等に行われる集中講義については、当該科目の履修確定日の翌日から当該科目の授業開始日の前日までとする。

「履修登録取消の手続き」は、所定の様式（履修登録科目の取消願）を学務部教務課大学院室に提出することによる。

履修取消の期日内に手続きをせず、自ら履修を放棄した場合は、不可評価（GP=0）とする。

「履修取消」制度は、履修確定後に行うもので、履修登録期間中（エラー等の確認期間を含む）に行う削除とは異なる。

第5条関係

「GPA 計算期日」とは、4月1日から翌年3月31日までとする。

「履修中止制度」について

履修取消の期日後において、病気や特別の事情等で修学が継続できない場合に対応するため、授業科目によって履修中止を認める制度である。履修中止は学務企画課への届出により、科目責任者が止むを得ない事情があると判断した場合に認められ、「履修取消」として扱う。

なお、休学した場合の履修中途科目は、「履修取消」として扱う。

「上書き再履修制度」について（平成24年度以降入学者から適用）

不可評価を受けた科目を再履修し、総履修登録単位数を増やさずに当該科目の成績評価を上書きする制度である。

- 1) 上書き再履修で取得した科目の成績評価は、元履修の成績評価を無条件に上書きする。
- 2) 上書き再履修した科目の単位は、GPA 計算式上の総履修登録単位数を増やさない。たとえば2単位の科目を再履修した場合は、その科目について GPA 計算式上の総履修登録単位数に算入されるのは（2+2=4単位ではなく）2単位のままとする。

7. 学生周知事項

1) 連絡・通知

大学からの連絡・通知は掲示板への掲示又は大学のホームページ（トップページ → 「在学生の方」又は「学部・大学院」）により行います。

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う授業の休講・試験の延長を決定した場合は、本学のホームページ（トップページ → 「学部・大学院」ニュース欄）に掲載します。

掲示板は 6 号館前大学院掲示板、1 号館西 1 階学務企画課前及び 5 号館 3 階学生支援課前です。見落としがないように十分注意して下さい。

学生への個別連絡は電話、電子メール又は郵送にて行います。

大学から緊急に連絡する必要がある生じて連絡が取れないことがないように入学時と連絡先が変更になった際は、忘れずに届出てください。

2) 学生証

学生証は、本学の学生である旨を証明し、学内で名札として使用するとともに、IC カードとして学内出入口の解錠、出席登録等としても在学中使用しますので、紛失・破損等のないよう大切に扱って下さい。

また、通学定期券の購入時等に提示を求められたときに提示できるよう、常に携帯するようにして下さい。

(1) 再交付

学生証を紛失又は破損等した場合は、速やかに学務企画課に申し出て、再交付の手続きをとって下さい。また、再交付を行う場合は、再交付にかかる費用を負担することとなりますので注意して下さい。

(2) 返却

修了、退学、除籍となった場合は、直ちに学生証を学務企画課に返却して下さい。なお、返却ができない場合は、再交付にかかる費用と同額を負担することとなりますので注意して下さい。

(3) 有効期限の更新

在学期間延長や長期履修により有効期間が経過した場合は、学生証の有効期限の更新が必要となりますので、学務企画課（TEL 5803-5074）に申し出てください。

3) 証明書等

証明書等は、学務企画課で発行するものと、自動発行機で発行するものがあります。

発行場所	種類	受付時間	問い合わせ先
自動発行機 5 号館 4 階 学生談話室	在学証明書（和文）	8:30-21:00 (発行には学生証が必要)	学務企画課企画調査掛 TEL : 5803-5074
	学生旅客運賃割引証（学割）		
学務企画課※ 1 号館西 1 階	在学証明書（英文）	8:30-17:15	学務企画課大学院教務 第一掛・第二掛 TEL : 5803-4676・4534
	成績証明書（和文・英文）		
	修了見込証明書【修士・博士（前期）】 （和文・英文）		
	その他諸証明書（和文・英文）		
学務企画課※ 1 号館西 1 階	修了見込証明書【博士・博士（後期）】 （和文・英文）	8:30-17:15	学務企画課企画調査掛 TEL : 5803-5074

※学務企画課発行の証明書の手続きについて

学務企画課発行の証明書を希望する場合は、「証明書交付願」を各窓口に提出して請求すること。なお、交付には和文で数日、英文で一週間程度を要する。

※修了生の証明書発行は、学務企画課で行っている。（発行している証明書：「修了証明書」「成績証明書」「単位修得証明書」「在学期間証明書」「学位授与証明書」等。）

郵送での申込みについて

自動発行機以外で発行している証明書に関しては、郵送で申込みができる。その際は、「証明書交付願」と返信用封筒（角型 2 号）に 120 円切手貼付のうえ、請求すること。なお、郵送料が不足する場合は、郵便局からの請求に基づき支払うこと。

申込み先

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学学務部 学務企画課

4) 学生旅客運賃割引証（学割証）

- (1) 学生が課外活動又は帰省などで JR 線を利用する場合、乗車区間が片道 100km を超えるときに旅客運賃の割引（2 割）を受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用して下さい。（年間使用限度：10 枚／人、有効期間：発行日から 2 ヶ月間）

- (2) 次に掲げる行為があったときは、普通運賃の 2 倍の追徴金を取られるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用又は不正に使用することのないよう注意して下さい。

- ① 他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき
- ② 名義人が乗車券を購入し、これを他人に使用させたとき
- ③ 使用有効期間を経過したものを使用したとき

- (3) 学割証は、学生談話室（5 号館 4 階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。

（利用時間：平日 8:30～21:00）

（問い合わせ先）学務企画課（TEL 5803-5074）

5) 住所・氏名等の変更

本人又は保証人の住所・本籍又は氏名等（電話番号を含む）に変更が生じた場合は、速やかに学務企画課大学院教務第一掛・第二掛に申し出て所定の手続きをとって下さい。

この手続きを怠った場合、大学から本人又は保証人に緊急に連絡する必要があるが生じて連絡が取れないので注意して下さい。

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1 号館西 1 階）

届出用紙

	届出用紙	添付、提示書類
改姓した場合	改姓（名）届 学生証記載事項変更	改姓（名）を証明する書類を添付
本人・保証人が住所・本籍地を変更した場合	住所・本籍地変更届	住所・本籍地を変更したことを 証明する書類を添付又は提示
保証人を変更した場合	保証人変更届	なし

6) 研修・研究依頼

外部の研究機関等に研修（実習）又は研究を希望する場合は、学務企画課大学院教務第一掛・第二掛に研修・研究依頼書を提出してください。

7) 遺失物及び拾得物

学内での遺失物又は拾得物の届出は以下のとおりとなります。

- (1) 医学部内・・・・・・・・・・医学部総務課（3号館6階：TEL 5803-5096）
- (2) 歯学部内・・・・・・・・・・歯学部総務課（歯科棟南2階：TEL 5803-5406）
- (3) その他・・・・・・・・・・紛失及び拾得場所（建物）を管理する各事務部

8) 進路調査

大学院を修了（見込みを含む）する場合は、修了日（見込み日）1ヶ月前までに必ず進路届を学生支援課に提出して下さい。

（問い合わせ先）学生支援課（TEL 5803-5077）

9) 健康相談・メンタルヘルス相談

（保健管理センター：TEL 5803 - 5081、<http://www.tmd.ac.jp/hsc/index.html>）

保健管理センターは本学の学生・職員が心身共に健康な生活を送り、所期の目的を達成することができるよう、助言・助力することを目的としている施設です。必要に応じて医療機関への紹介状の発行も行っています。

(1) 健康相談・メンタルヘルス相談

- ① 健康相談は午前10時～12時30分、午後1時30分～3時30分まで受け付けます。
- ② 医師の担当時間は、保健管理センターホームページで確認してください。
- ③ 時間外でも医師・保健師がいる場合は相談に応じます。
- ④ センターには自分で測定できる身長計、体重計、血圧計などが設置してあります。

(2) 健康診断

健康管理は自己責任ですので、詳しい日程・検査の種類等は保健管理センターホームページを確認してください。定期健康診断は学生の義務です。必ず受けてください。

- ① 一般定期健康診断 5月
- ② B型肝炎抗原抗体検査 4月
- ③ 放射線業務従事者健康診断 4月、10月
- ④ その他 B型肝炎の予防接種、インフルエンザの予防接種 等

(3) 健康診断証明書の発行

各種資格試験受験、病院研修申請、就職・進学などを目的として必要な健康診断証明書を発行しています。ただし、証明書の発行は定期健診を受診している方に限ります。

10) 学生相談

（学生・女性支援センター：<http://www.tmd.ac.jp/labs/gakuseihokenkikou/index.html>）

学生・女性支援センターは、本学の学生に対して、生活・修学・就職・メンタルヘルスやハラスメント、キャリアパスや学業（仕事）と家庭との両立に関することなど、キャンパスライフ全般に渡り、全学的に支援を行い、学生支援活動の充実を図ることを目的として設置されています。なお、本センターは男女問わずご利用いただけます。

下記のような問題、その他大学生活を送るうえで悩みや心配事が起きたときにご相談ください。

また、内容により担当が異なりますので、各ホームページをご参照ください。

＜学生生活全般に関すること＞ TEL：5803-4959

(http://www.tmd.ac.jp/cgi-bin/stdc/cms_reserv.cgi)

- ・生活に関する相談・・・家族の問題・経済的な問題・恋愛問題など
- ・修学に関する相談・・・勉強の進捗状況・進学・研究室の人間関係など
- ・就職に関する相談・・・卒業後の進路・就職活動など
- ・メンタルに関する相談・・・健康の問題・ストレス・心の問題・対人関係など
- ・ハラスメントに関する相談・・・アカデミックハラスメント・パワーハラスメント・セクシャルハラスメントなど

＜キャリア支援や学業（仕事）と家庭との両立支援に関すること＞ TEL：5803-4921

(<http://www.tmd.ac.jp/ang/counsel/index.html>)

- ・今後の進路や生き方に関する相談
- ・妊娠・出産・育児との両立や保育園入園・介護に関する相談

☆個別相談時間：月～金 10:30～17:00

ご予約下さい。予約なしでも可能な限り対応します。

11) その他

- (1) 個人宛の郵便物等には、必ず分野名の記載を相手方に周知してください。
- (2) 本学では、構内での交通規制が行われており、学生の車での通学は認められていませんので、注意して下さい。ただし、電車、バス等で通学することが困難な者については、申請に基づき許可することがあります。
- (3) 担当課
 - ① 教務事務・・・学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛
(1号館西1階：TEL 5803-4676、4679、4534)
 - ② 授業料の納入・・・財務施設部財務管理課収入管理掛
(1号館西3階：TEL 5803-5048)
 - ③ 奨学金・授業料免除・・・学生支援課
(5号館3階：TEL 5803-5077)

8. 諸手続きについて

各手続きに必要な本学指定の様式については、学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）もしくは本学ホームページより取得することができる。

本学ホームページ (<http://www.tmd.ac.jp>) → 学部・大学院をクリック →
大学院医歯学総合研究科をクリック → 学務部学務企画課をクリック → 諸手続
URL : http://www.tmd.ac.jp/faculties/graduate_school/kyoumuka/index.html

1) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上就学できない場合は下記の手続きにより休学もしくは休学延長することができる。なお、休学期間は通算して2年を超えることはできない。また、休学期間は在学期間に算入しないものとする。

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）

提出書類

・休学願または休学延長願（本学指定様式）

※開始日は原則として、月初めとする

※病気療養を理由とする場合は、医師の診断書を添付すること

提出期限

休学を希望する1ヶ月前まで

2) 復学

休学している学生が、休学期間途中もしくは休学期間満了時に復学を希望する場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）

提出書類

・復学願（本学指定様式）

※病気療養を理由に休学した場合は、医師の診断書を添付すること

提出期限

復学を希望する1ヶ月前まで

3) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、下記の手続きを行わなければならない。

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）

提出書類

・退学願（本学指定様式）

提出期限

退学を希望する1ヶ月前まで

4) 研究指導委託

他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他機関」という。）において研究指導を受けたい場合は、先方とあらかじめ協議したうえで下記の手続きを行わなければならない。なお、申請期間は年度を超えることができない。翌年度も引き続き研究指導を受ける場合は、1月末までに再度申請をすること。

修士課程在学者が研究指導委託できるのは最大1年間である。

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）

提出書類

・研究指導委託申請書（本学指定様式）

※開始日は原則として、月初めとする

提出期限

研究指導委託希望日の2ヶ月前まで

※研究指導委託に伴う実習用定期の申請について

研究指導委託申請の承認後、他機関に通学することになった場合は、申請により実習用定期を購入することができる。

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）

提出書類

実習用通学定期乗車券申込書（本学指定様式）

提出期限

2ヶ月前まで（鉄道会社の許可を得るのに1ヶ月程度要する）

5) 留学

外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関において修学した場合は、先方とあらかじめ協議のうえで下記の手続きを行わなければならない。

留学期間に制限があるので、必ず事前に問い合わせること。

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）

提出書類

- ・留学願（本学指定様式）
- ・指導教員の理由書（書式自由）
- ・相手先の受入承諾書等の書類

提出期限

留学希望日の2ヶ月前まで

【留学期間を変更したい場合】

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）

提出書類

- ・留学期間変更願（本学指定様式）

提出期限

留学期間変更希望日の2ヶ月前まで

6) 在学期間延長

標準修業年限を超えて在学（休学期間を除く）しようとする者は、下記の手続きを行わなければならない。なお、在学期間は標準修業年限の2倍（下表参照）まで延長することができる。

研究科	課程	専攻	年数
医歯学総合研究科	修士課程	医歯理工学専攻（医療管理学コースを除く）	4年
		医療管理学コース	2年
	博士課程	医歯学系専攻	8年
		生命理工学系専攻	6年
保健衛生学研究科	博士（前期）課程	総合保健看護学専攻 生体検査科学専攻	4年
	博士（後期）課程	総合保健看護学専攻 生体検査科学専攻	6年
	一貫制博士課程	看護先進科学専攻 共同災害看護学専攻	10年

なお、在学期間に休学期間は含めない。

提出・問い合わせ窓口

学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階）

	提出書類 ・在学期間延長願（本学指定様式） 提出期限 ・在学期間満了日の1ヶ月前まで
7) 専攻分野変更	在学中に研究内容に変更が生じた等の理由で、所属研究分野の変更を希望する場合は、下記の手続きを行わなければならない。 提出・問い合わせ窓口 学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階） 提出書類 ・専攻分野変更願（本学指定様式） 提出期限 変更希望日の1ヶ月前まで
8) 在学コース 変更	在学中に職に就いた場合、もしくは社会人コースで入学したがその事由が消滅した場合は下記の手続きを行わなければならない。 提出・問い合わせ窓口 学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階） 提出書類 ・在学コース変更願（本学指定様式） ※「一般コース」から「社会人コース」への変更を希望する場合は下記も添付すること ・勤務先の承諾書 ・指導教員の変更理由書（書式自由） 提出期限 変更希望日の1ヶ月前まで
9) 転学	他大学への転学するための転入学試験を受験する場合は下記の手続きを行わなければならない。 提出・問い合わせ窓口 学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階） 提出書類 ・転入学試験受験諸請求願（本学指定様式） 提出期限 受験日の2ヶ月前まで 転入学試験受験の結果、合格した場合は下記の手続きを行わなければならない。 提出書類 ・転学願（本学指定様式） ・合格通知書の写し 提出期限 転入学日の2ヶ月前まで
10) 死亡	学生本人が死亡した場合、保証人は速やかに下記手続きを行わなければならない。 提出・問い合わせ窓口 学務部学務企画課大学院教務第一掛・第二掛（1号館西1階） 提出書類 ・死亡届（本学指定様式）

【注意】

上記の諸手続きは研究科運営委員会付議事項のため、提出期限は厳守のこと。
期限を過ぎての提出は、希望日以降の許可となる。

8月は研究科運営委員会が開催されないため、9月から希望する学生は、上記の提出期限の更に1ヶ月前までに届け出ること。

研究科長	副研究科長	総務部長	課長	大学院室長	掛長	掛員
専	専	専				

履修登録科目取消願

平成 年 月 日

大学院

研究科長 殿

平成 年度入学 第 学年

☐ 修士課程
 ☐ 博士課程
☐ 博士（前期）課程
 ☐ 博士（後期）課程
 （分野）

学籍番号 第 号

氏 名 印

携帯電話番号 - -

E-M a i l @

下記のとおり、履修登録を取り消したいのでお届けいたします。

記

1. 科目名	
2. 担当教員名	
3. 科目コード	

受付日・印
平成 年 月 日受付

研究科長	副研究科長	総務部長	課長	大学院室長	掛長	掛員
専	専	専				

授 業 欠 席 届

平成 年 月 日

大学院 研究科長 殿

平成 年度入学 第 学年

☐ 修士課程
 ☐ 博士課程
☐ 博士（前期）課程
 ☐ 博士（後期）課程
 （分野）

学 籍 番 号 第 号

氏 名 ⑩

携帯電話番号 - -

E-M a i l @

下記のとおり、授業を 欠席します
 欠席しました のでお届けいたします。

記

1. 欠席期間 自 平成 年 月 日 （ 限）
 至 平成 年 月 日 （ 限）

2. 欠席科目

3. 欠席理由

9. 学内主要施設

施設名	所在地	内線番号
学 生 支 援 課	5号館3階	5077
学 務 企 画 課	1号館西1階	5074(企画調査掛) 4676,4679,4534(大学院教務)
入 試 課	1号館西1階	4924
財務施設部財務管理課収入管理掛	1号館西3階	5042
図 書 館	M&Dタワー3階	5592
保 健 管 理 セ ン タ ー	5号館2階	5081
談話室(証明書自動発行機)	5号館4階	—
生活協同組合 食堂・売店	5号館1階・地下1階	—
医歯学研究支援センター	8号館北・南	5788

10. 校内案内図

